



オンライン技術勉強会 Qlik Sense アプリ開発 ベーシックトレーニング (2025年Ver)

1日目：ビジネスアナリスト初級

Yuki Kusakabe

Solution Architect, QlikTech Japan

2025/1/29

1日目 アジェンダ

- ダッシュボードデザインの考え方
- 初めてのアプリ作成
 - 1シート目の作成
 - 2シート目の作成
 - 3シート目の作成
 - 分析の実施
- チャートの全体像を理解する
- より実践的なテクニックを知る
- アプリの共有と公開
- 1日目 まとめ

アプリ作成の事前準備

当Webセミナーの申し込み完了メールから、
「QSベーシックトレーニング配布資料_Day1.zip」をダウンロードし、解凍してご自身のPCの参照しやすい場所に保存してください。

※ 本トレーニングではQlik Cloud の分析機能を使用します。ほとんどの機能はQlik Sense Enterprise Client-Managed やQlik Sense Desktop と同様ですが、一部画面や機能が異なる場合もあります。

ダウンロードファイル
Day1_202502_TechTalk_QlikSenseBasicTraining.pdf
BasicTraining_Data_day1_2025.xlsx
日本モード変換用テキスト.txt
【完成版】食品メーカー販売分析_2025.qvf



ダッシュボードデザインの 考え方

DARに基づくアプリ構成

Qlik社が提唱する望ましいアプリの設計として、Dashboard, Analysis, Reportingの頭文字をとったDARという設計の方法論があります。

ダッシュボード：

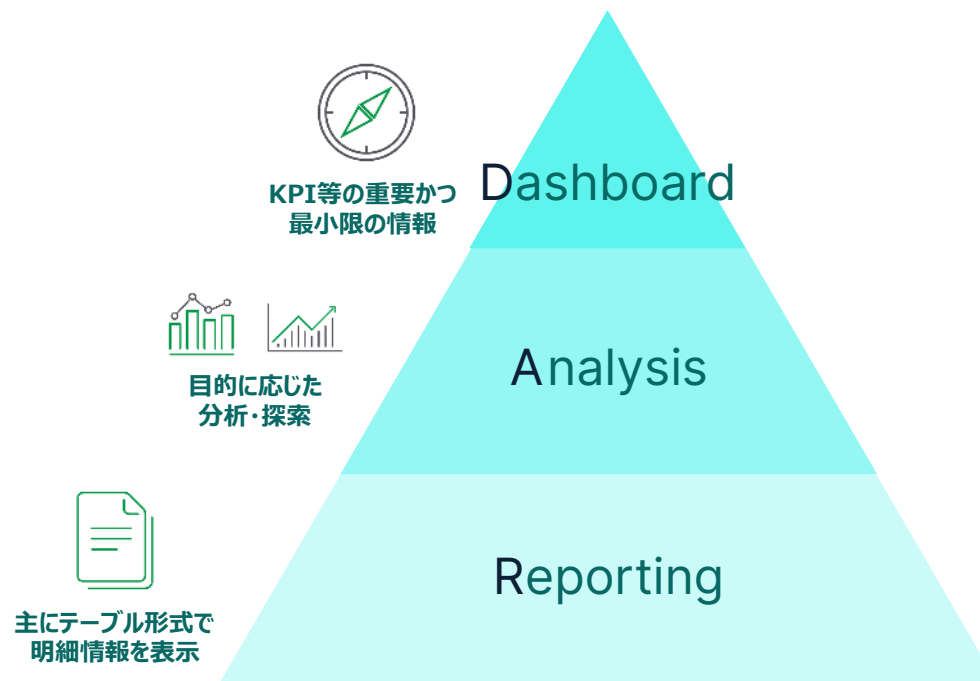
最も重要かつ最小限の情報や全体像を提供
経営層や管理職がすぐにKPIの状況・課題を把握

アナリシス(分析)：

特定の目的や課題について探索や深掘り
顧客分析、製品分析のようなビジネス上の切り口
比較分析、地理分析といったテクニカルな切り口

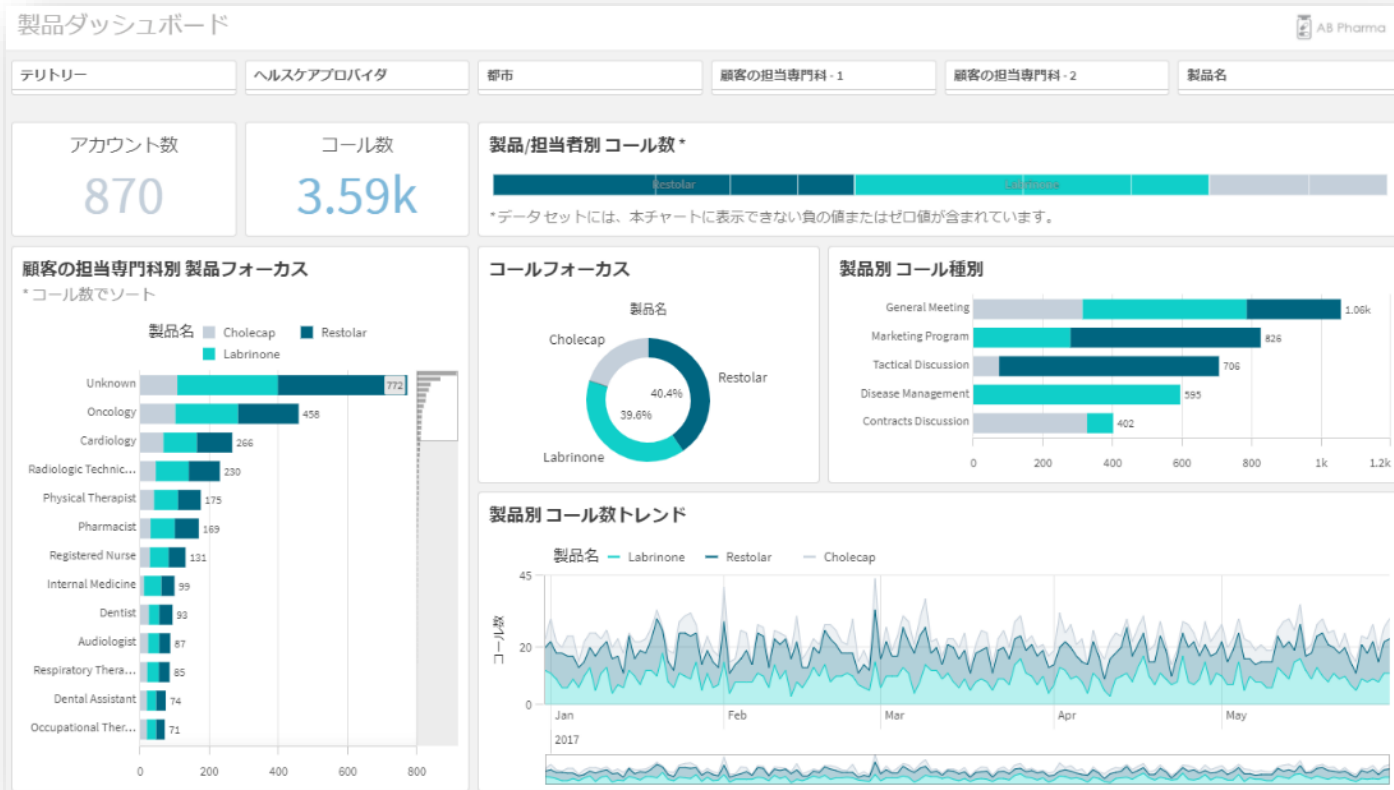
レポーティング：

必要に応じて最も粒度の細かい明細情報
ダッシュボードやアナリシスで絞り込んだ情報に対して、具体的な明細レコードを確認することで、適切なアクションに繋げる



画面デザインのベストプラクティス

色、背景、フォント、サイズなどに一貫性を持たせ、アプリ全体の統一感を意識します。
見やすいレイアウトを意識したチャート配置にも気を配ります。



極力シンプルなデザインのダッシュボードで正確な情報伝達を行う

ガイド分析

シートに使い方やデータの説明を加えることで、開発者が意図した分析ストーリーで閲覧ユーザーが利用できるようにします。

ガイドの例

一枚目のシートにアプリの使い方説明

最後のシートにデータソースやデータ定義の説明を記載

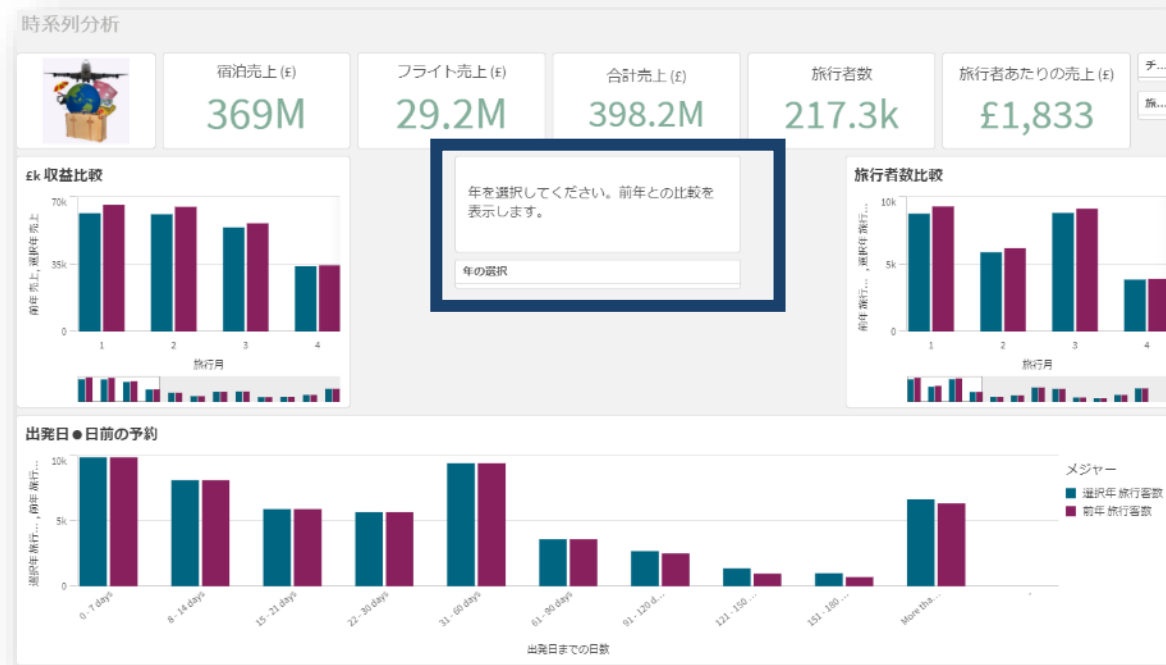
各シートにフィルターなどの操作手順を記載

シート移動のボタンやナビゲーションメニューを配置

ブックマーク適用ボタンを配置

シートアクションを追加

フィルター選択のガイドを中央に配置した例



ダッシュボードデザインの考え方 まとめ

- アプリ全体の設計やシートごとの役割→DAR方法論を意識
 - ダッシュボード
 - アナリシス(分析)
 - レポーティング
- シートやチャートのデザインのデザインの意識
 - 正確な情報伝達
 - アプリやシートのデザインに一貫性・統一性を持たせる
 - シンプルなデザインを心掛ける
- 利用ユーザーのためにガイドを設ける→ガイデッド分析



初めてのアプリ作成

- 拡張知能を使って販売分析のアプリを作成
- 連想インデックスと拡張知能でデータを探索
- DARに基づいた3レポートの作成
- 作成した分析画面を使用した分析例

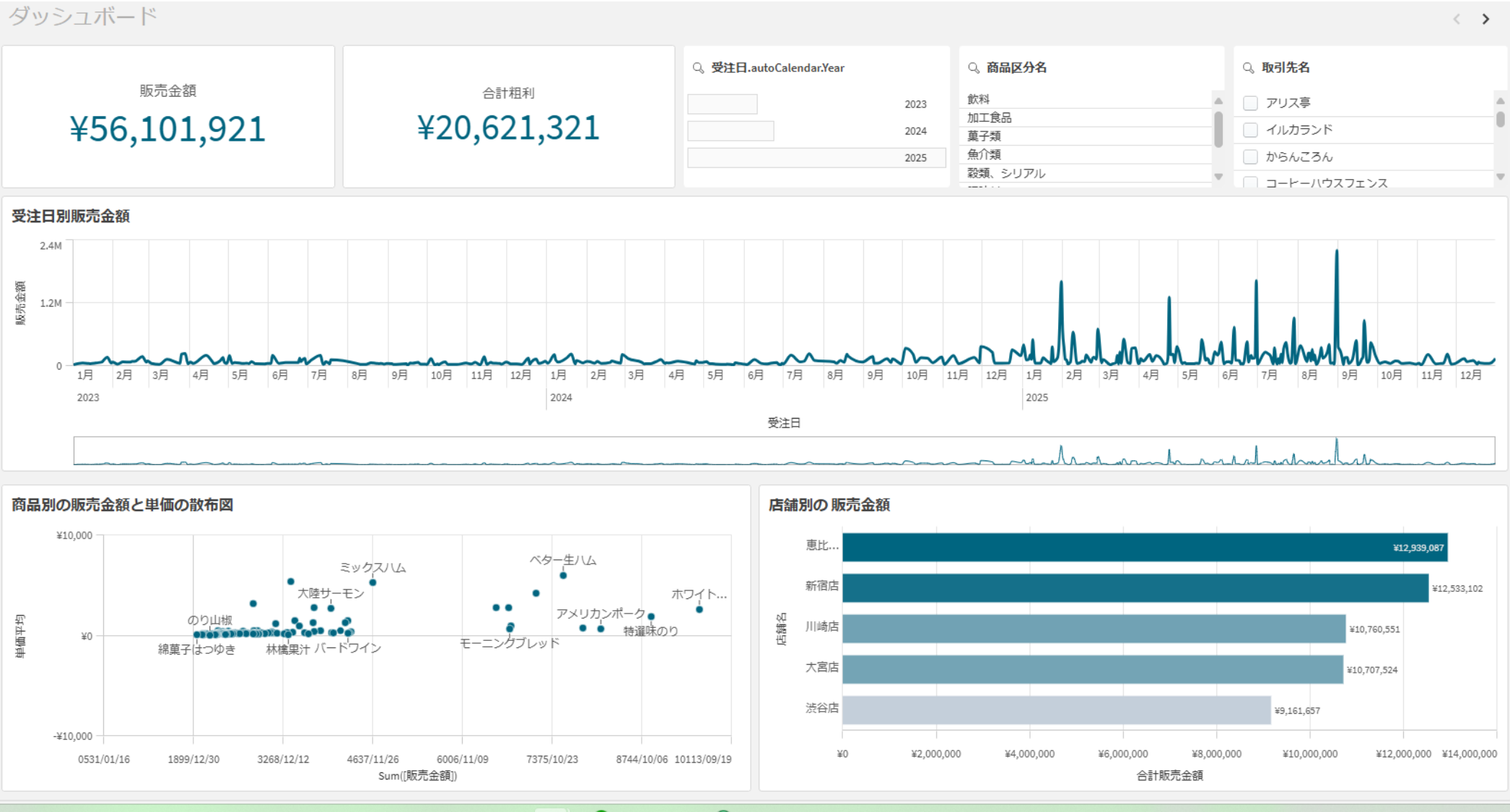
使用するデータ

- 2023年～2025年の3年間分の食品メーカーの販売データを利用します。
- データはエクセルファイル形式で、受注データとそれに紐づくマスタデータがそれぞれシートに含まれています。

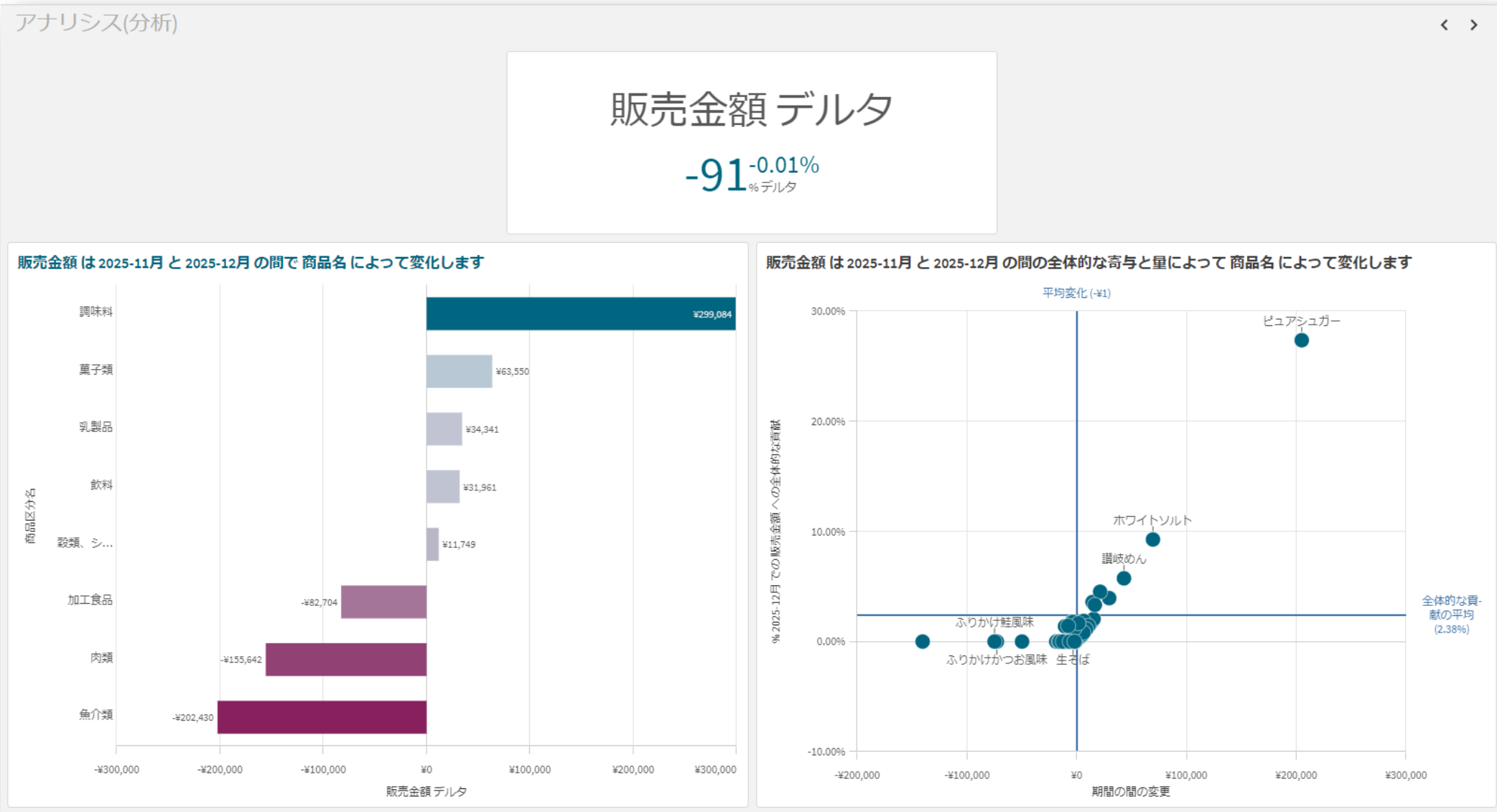
ファイル名： BasicTraining_Data_day1_2025.xlsx

シート名	データの説明	プライマリキー
受注	受注伝票	受注コード
商品	商品マスタ	商品コード
商品区分	商品区分マスタ	商品区分コード
取引先	取引先マスタ	取引先コード
セグメント	取引先セグメントマスタ	セグメントID
クラス	取引先クラスマスタ	クラスID
店舗	店舗マスタ	売上店舗ID
地域	地域マスタ	出荷先都道府県

完成イメージ ダッシュボード



完成イメージ アナリシス（分析）

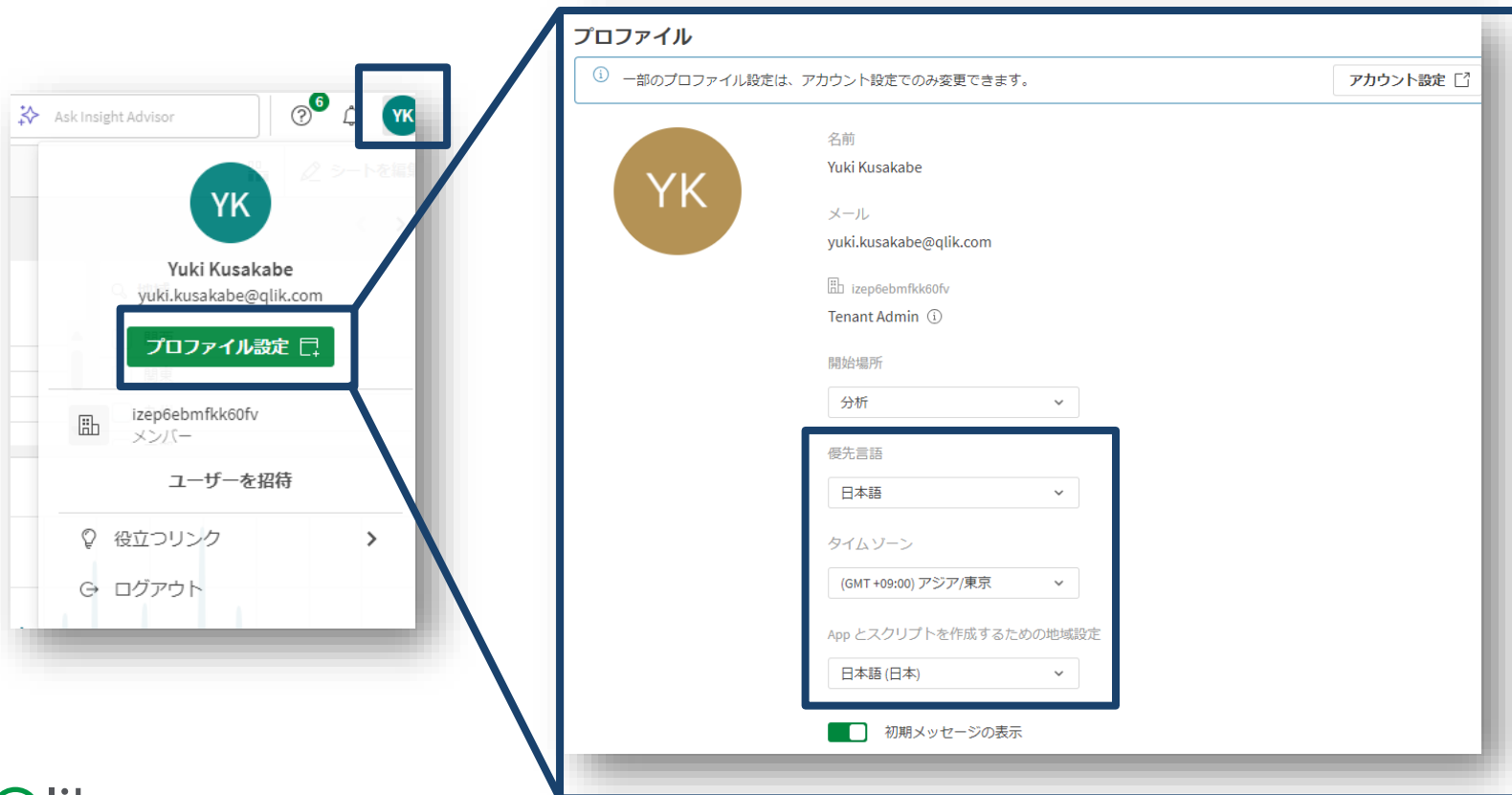


完成イメージ レポーティング

クラス	クラスID	セグメント	セグメントID	営業担当者名	割引	原価	社員コード	取引先コード	取引先名	受注コード	受注日	出荷先都道府県
ゴールド	2	ケイタリング	2	川井 伸好	90	810	E207	T35	よろず商店	6089-5528	4/27/2025	神奈川県
ゴールド	2	ケイタリング	2	川井 伸好	156	1930	E207	T35	よろず商店	8030-6637	2/3/2025	神奈川県
ゴールド	2	ケイタリング	2	川井 伸好	330	2820	E207	T35	よろず商店	6063-5373	2/5/2025	神奈川県
ゴールド	2	ケイタリング	2	川井 伸好	384	200	E207	T35	よろず商店	3030-1640	11/3/2024	神奈川県
ゴールド	2	ケイタリング	2	川井 伸好	480	2150	E207	T35	よろず商店	2028-844	10/15/2023	神奈川県
ゴールド	2	ケイタリング	2	川井 伸好	480	2710	E207	T35	よろず商店	1089-528	4/27/2023	神奈川県
ゴールド	2	ケイタリング	2	川井 伸好	588	5760	E207	T35	よろず商店	6063-5371	2/5/2025	神奈川県
ゴールド	2	ケイタリング	2	川井 伸好	594	690	E207	T35	よろず商店	8030-6644	2/3/2025	神奈川県
ゴールド	2	ケイタリング	2	川井 伸好	594	2500	E207	T35	よろず商店	3030-1644	11/3/2024	神奈川県
ゴールド	2	ケイタリング	2	川井 伸好	630	10390	E207	T35	よろず商店	2028-845	10/15/2023	神奈川県
ゴールド	2	ケイタリング	2	川井 伸好	768	2070	E207	T35	よろず商店	8030-6636	2/3/2025	神奈川県
ゴールド	2	ケイタリング	2	川井 伸好	800	400	E207	T35	よろず商店	3030-1636	11/3/2024	神奈川県
ゴールド	2	ケイタリング	2	川井 伸好	810	1880	E207	T35	よろず商店	2095-1224	5/10/2024	神奈川県

(事前設定) アプリの言語設定を行う

- Qlik Cloudへログイン後、右上のユーザーアイコンをクリックします。
- プロファイルの設定をクリックします。
- [優先言語]、[タイムゾーン]、[Appとスクリプトを作成するための地域設定]をそれぞれ日本にします。



(事前設定) アプリの言語設定を行う

[Appとスクリプトを作成するための地域設定]を[日本語(日本)]にすると、具体的に変更される場所としては、データロードエディタのMainセクションの変数の内容が変更されます。

そのため、データをロードした後に、個人設定を変えてももう一度ロードをしないと設定が反映されない形となります。

データロードエディタを開くためには、画面上部のプルダウンからデータロードエディタを選択します。



参考：日本語フォーマット

ロードスクリプトのMainセクションが日本語設定になっていない場合

- Qlik Senseでは英語圏の表記・単位(Jan, \$など)が標準で使用されます。
 - 日本語表記に変更するためには、付属データの「日本モード変換用テキスト.txt」を使用してデータをリロードします。
 - データロードエディタでMainタブ冒頭の[SET~]から始まる各種定義を日本語モード変換用テキストと置き換えてデータをロードしてください。データロードエディタの使い方については3日目テキストをご確認ください。
- 本トレーニングのデモでは日本語フォーマットを使用しています。



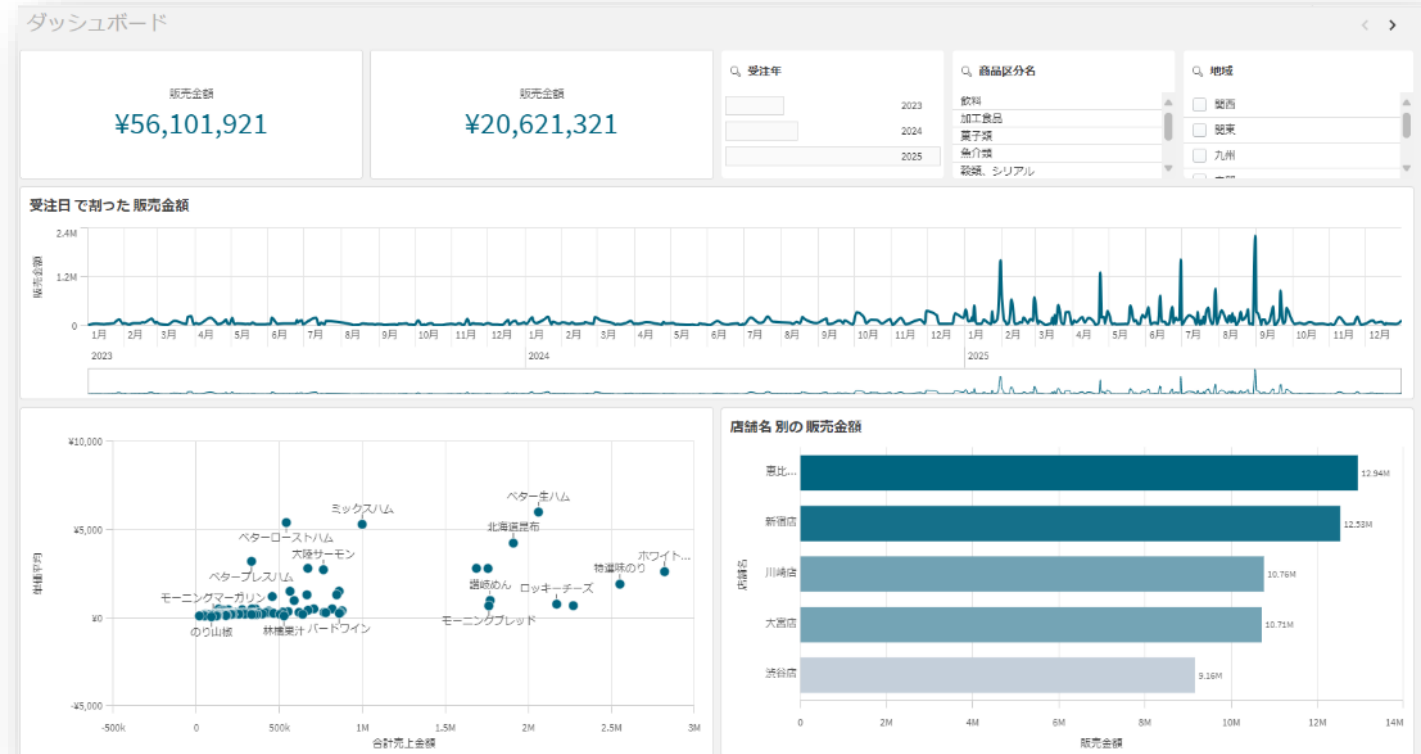
1シート目の作成

- アプリ作成とデータロード
- ダッシュボード画面



1シート目で学ぶこと

- アプリの新規作成
- データマネージャーを使用したデータの取り込み
- 拡張知能を使用したデータモデリング
- インサイトアドバイザーを使用した、チャート作成
 - KPIチャート
 - 折れ線グラフ
 - 棒チャート
- チャートの複製
- 数式エディタの操作
- 数値書式の設定
- マスターアイテムの作成
- フィルターパネルの追加と設定
- 推奨チャートにてチャートの作成
- 各チャートのレイアウト調整



1シート目の作成

- アプリ作成とデータロード



アプリの新規作成

Qlik Senseにログインし、アプリを新規作成します。

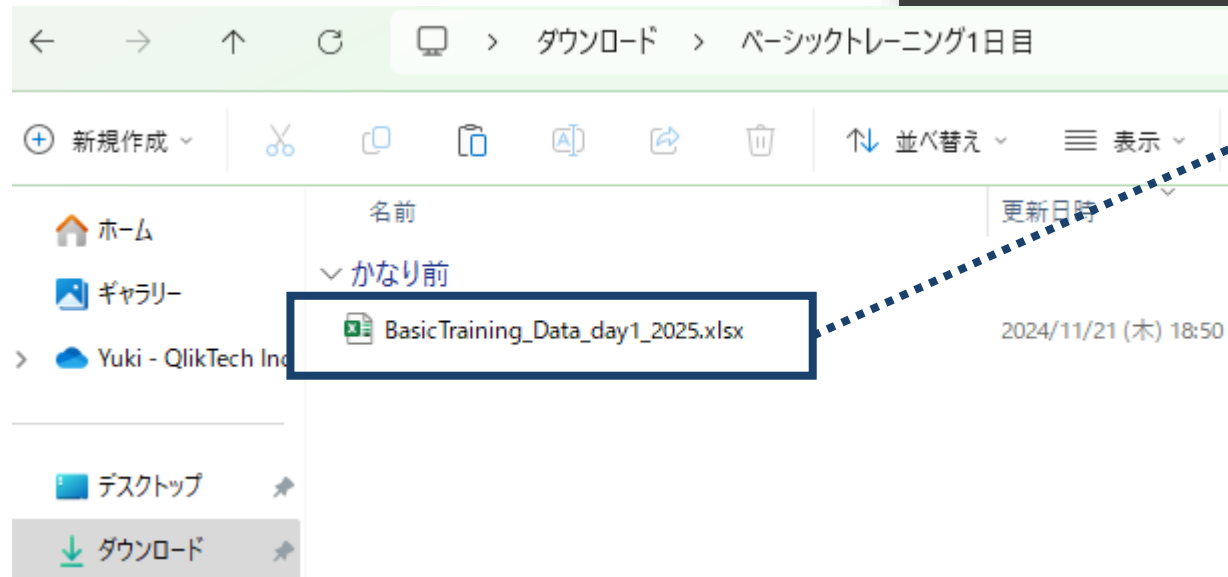
- Qlik Senseにログインし、パレットをクリックし、[分析]メニューの[作成]を選択します。
- [分析アプリ]をクリックします。
- 表示されるポップアップで[名前]に[食品メーカー販売分析]と入力し[作成]をクリックします



データの取り込み

販売データのエクセルをアプリに取りこみます。

「BasicTraining_Data_day1_2025.xlsx」を画面にドラッグ&ドロップします。データの取り込み画面が自動で開きます。



参考：ファイルの置き換え

販売データのエクセルをアプリに取りこみます。

前項の操作を複数回実行すると、2回目以降は右のメッセージが表示されます。

このメッセージは、QSテナント(QSのクラウド環境)に同名のファイルを複数回アップロードしたときに表示されます。ひとつのデータファイル領域に同名ファイルが既に存在するため、新しいファイルと置き換えるか確認されています。

ここでは影響はありませんので[置換]を選択してください。

※同名ファイルだがデータが異なる場合には古いデータが失われる可能性があるため、予めファイルをリネームしてからアップロードするなど注意が必要です。

ファイルを置き換えますか？

このファイルは既にアプリに存在しますが、置き換えられます： 'BasicTraining_Data_day1_2025.xlsx'

キャンセル

置換

データマネージャー

Qlik Senseにはビジネスユーザー向けのセルフサービスデータ準備機能としてデータマネージャーがあります。データマネージャーを使用して、データモデリングを行います。

バブルをクリックするとデータのプレビューが参照できます。

データのサンプルや結合、編集が可能です。

The screenshot displays the Qlik Sense Data Manager interface. The main area shows a data model diagram with nodes for '地域' (Region), '取引先' (Customer), 'セグメント' (Segment), '商品' (Product), '受注' (Order), 'クラス' (Class), '商品区分' (Product Category), and '店舗' (Store). The 'クラス' node is selected. On the right, a panel titled '推奨される関連付け' (Recommended relationships) shows suggested relationships between tables, including 'クラスID', '取引先: 取引先, クラスID', 'セグメントID', '取引先: 取引先, セグメントID', and '売上店舗ID', '受注: 受注, 売上店舗ID'. Below the diagram, a table preview for 'クラス' is shown, with columns 'クラスID' and 'クラス'. The table contains three rows: '1 プラチナ', '2 ゴールド', and '3 シルバー'.

クラスID	クラス
1	プラチナ
2	ゴールド
3	シルバー

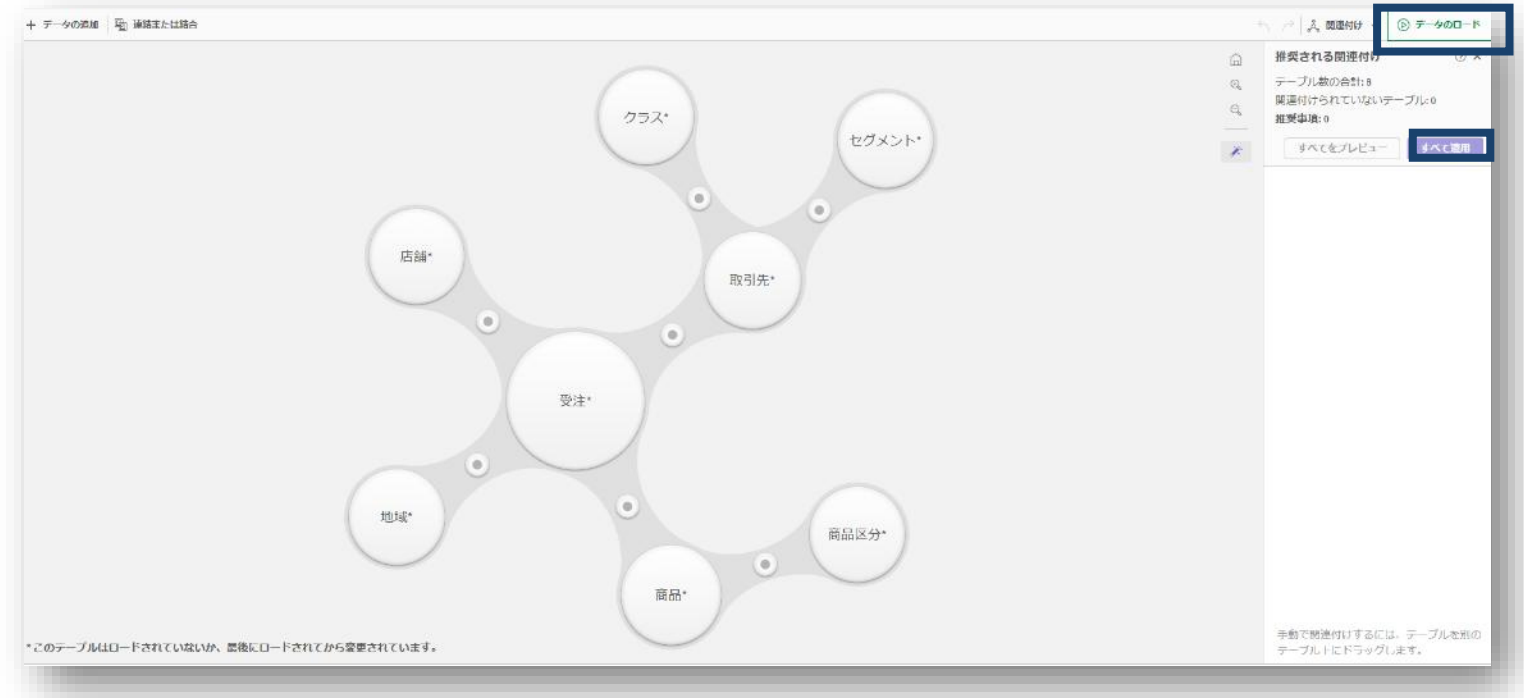
拡張知能によるデータモデリング

データマネージャーに搭載されている拡張知能により、自動でデータモデリングを行います。

[すべて適用]をクリックします。

各テーブル(バブル) がグレーのコネクタで接続されます。これがテーブル間が関連付けされた状態です。

[データのロード]をクリックしてデータをアプリに取りこみます。



データのロード

取り込んだデータと拡張知能によって定義したデータモデルをアプリにロードします。

データのロードを開始するとポップアップが表示されます。ロードが完了したら右の情報が表示されますので、

「シートに移動」を選択します。

そして、次の画面で拡張知能を使って、素早く簡単にダッシュボードを作成するため、「データを調査する」をクリックします。



このシートに対する追加を開始するには、以下のオプションを選択してください...



(参考) データマネージャーの概要

データマネージャーって、なに？

データマネージャーの特徴

基本的なデータ準備をビジネスユーザーがノンプログラミングで行える。

開発者向けのデータ変換機能（ロードスクリプト）と連携しているため、複雑な変換要件を含めたすべてのデータ準備をQlik内で完結できる。

ビジネスユーザーがデータマネージャーでデータ準備し、複雑なデータ変換処理を開発者に渡し、ロードスクリプトで処理する。

DWH/ETLの変更処理が必ずしも必要ではない。

同じツール上で完結するため、ビジネスユーザーと開発者間のコミュニケーションコストが低い。

データマネージャーをうまく使えば、

- 1.それほど複雑でない処理に関しては、ビジネスユーザー側でデータ準備できる。
2. 難しい処理については開発者に依頼してQlik Sense内で解決できる。

※「データマネージャー」でデータが追加された場合には、それに対応するスクリプトが自動的に生成されます。

より詳細の内容は以下のYoutubeにてご確認ください

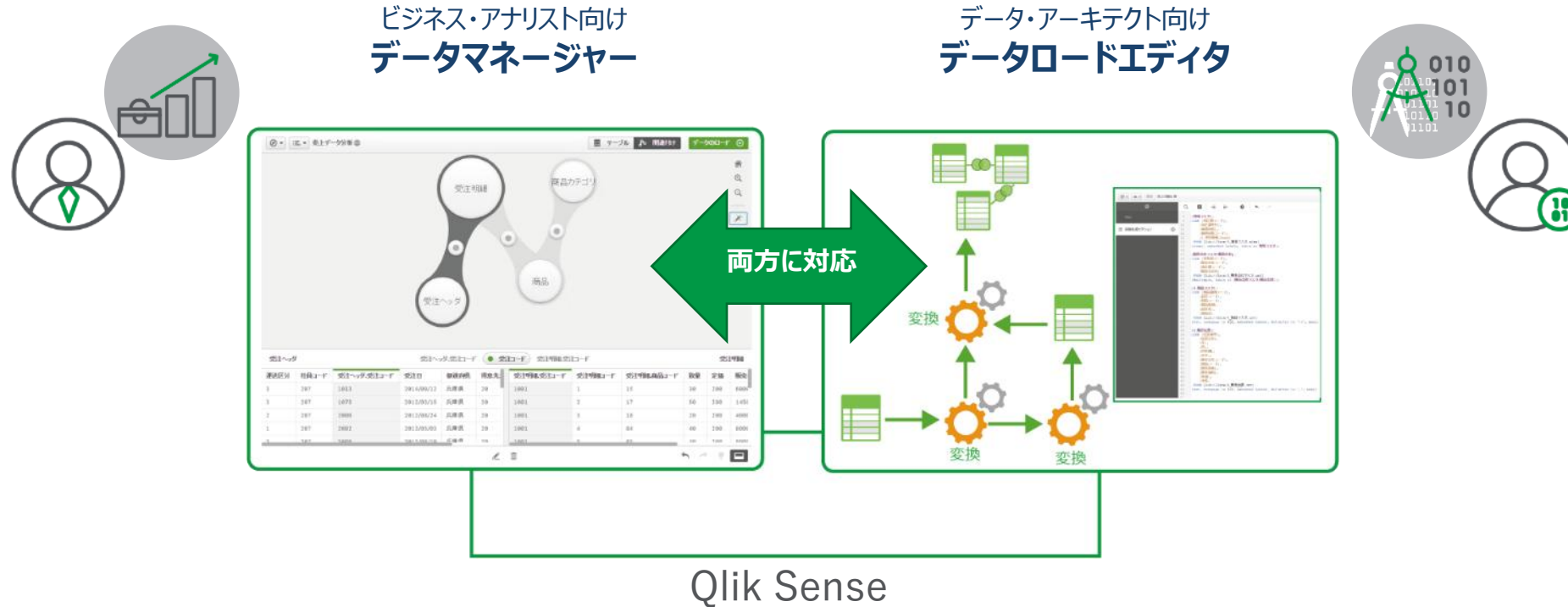
[Qlik TECH TALK セミナー](#)

[Qlik Sense - 分析データをセルフサービスで準備・データマネージャーでもっとできる](#)

(参考) Qlik Senseのデータ準備機能

Qlik Senseには、ビジネスユーザー向けのセルフサービスデータ準備機能「データマネージャー」とより複雑なデータ変換を行う「データロードエディタ」の2種類のデータ準備機能が用意されています。

Qlik Senseのデータ準備機能



1シート目の作成

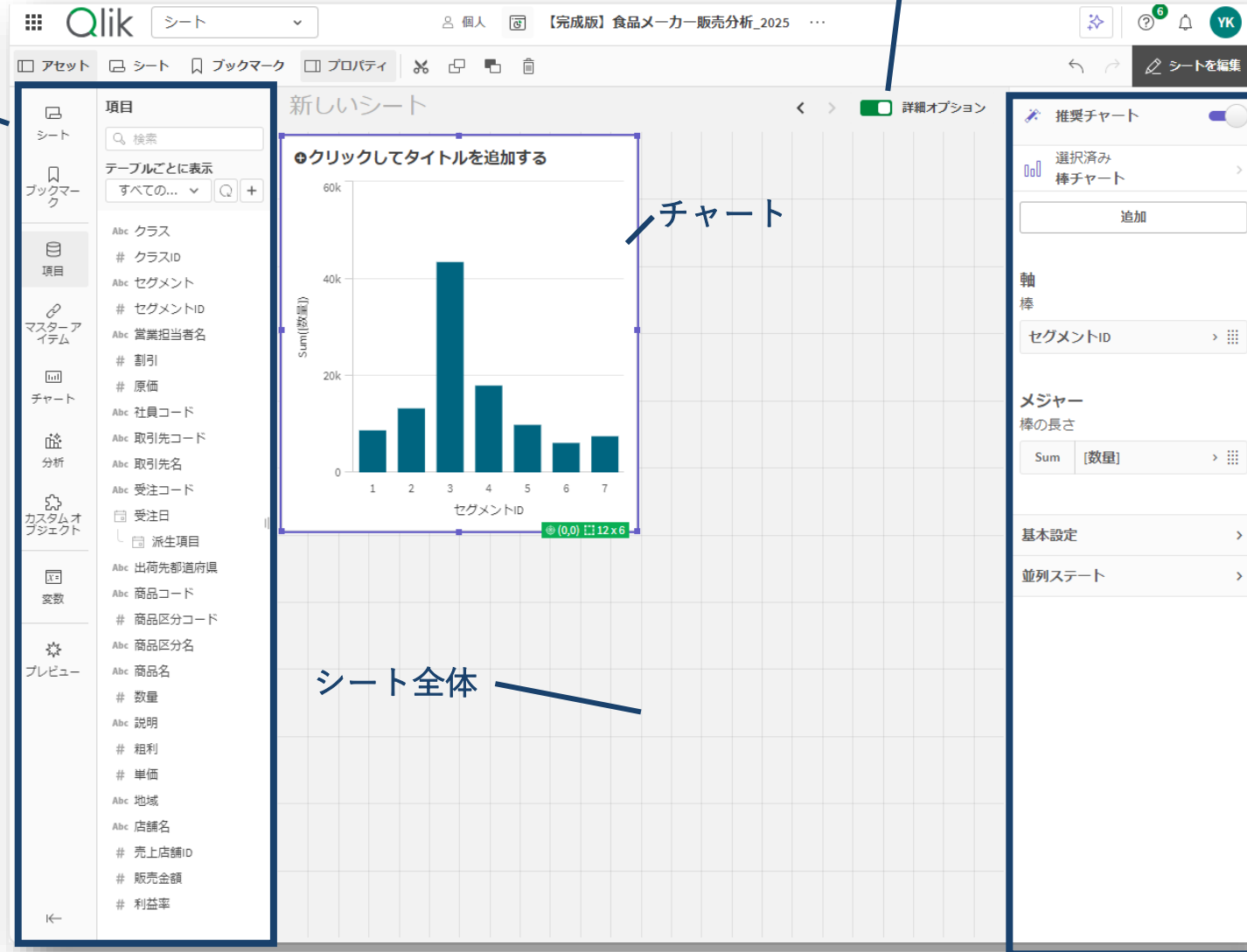
• ダッシュボード画面



画面全体の説明

画面を作成するうえでの用語やアイコンについて

アセットパネル



編集モードの切替（今回は詳細モードで作成）

編集モードと閲覧モードの切替

チャート

シート全体

プロパティパネル
（画面で選択しているチャートやシートのプロパティが表示されます。
ここでは棒チャートを選択しているため、棒チャートのプロパティが表示されています。）

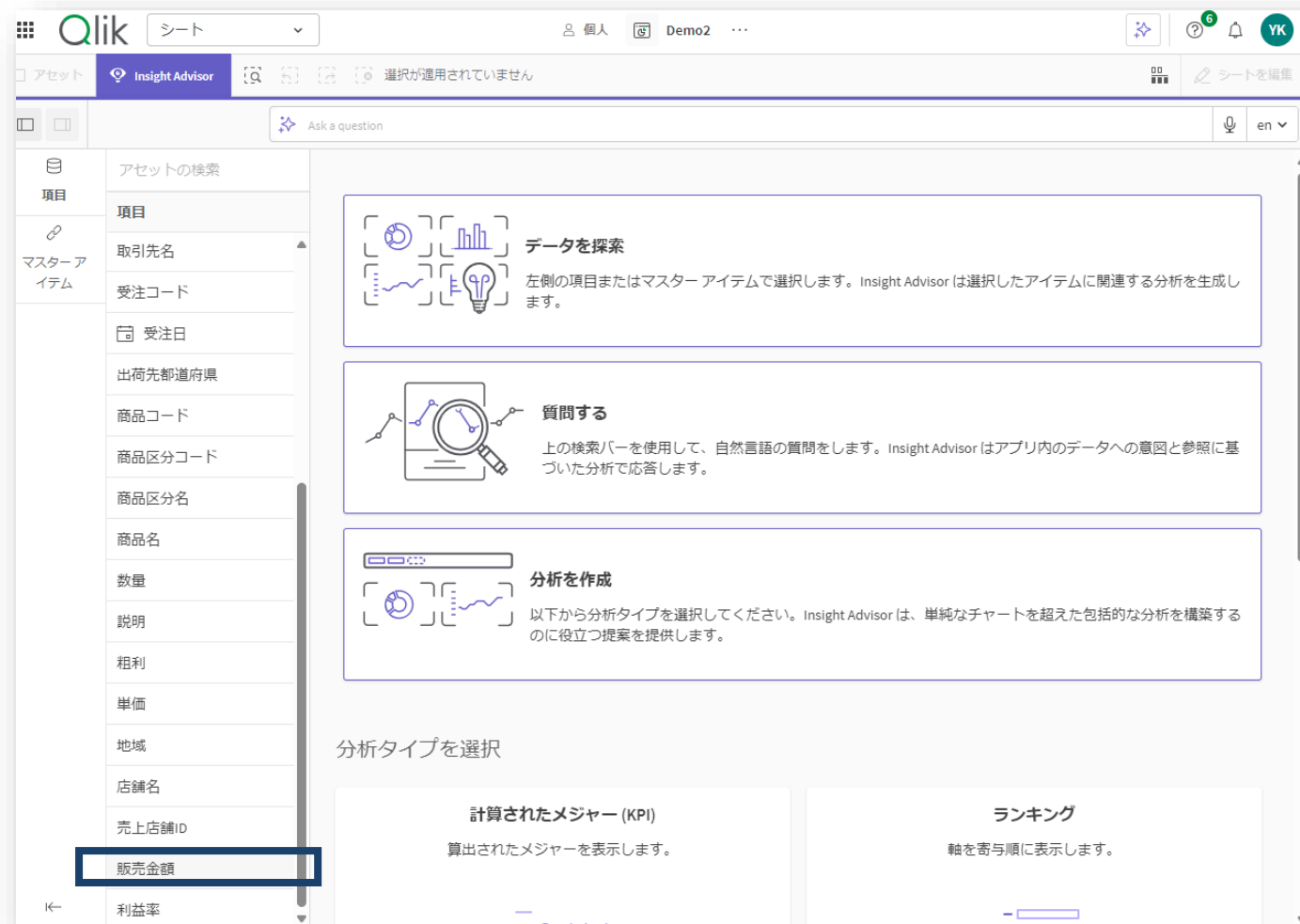
インサイトアドバイザーサーチでチャートを生成

チャート作成においても、拡張知能によって自動化・省力化を図ることができます。

分析したい軸やメジャーのアイデアがある場合、AIにヒントを与えてチャート作成をすることができます。

ここでは「販売金額の数値を全体的に知りたい」と考えたと仮定し、左側の項目一覧から[販売金額]を選択します。

その結果、項目に関連するチャートが複数提示されます。



インサイトアドバイザーサーチでチャートを生成

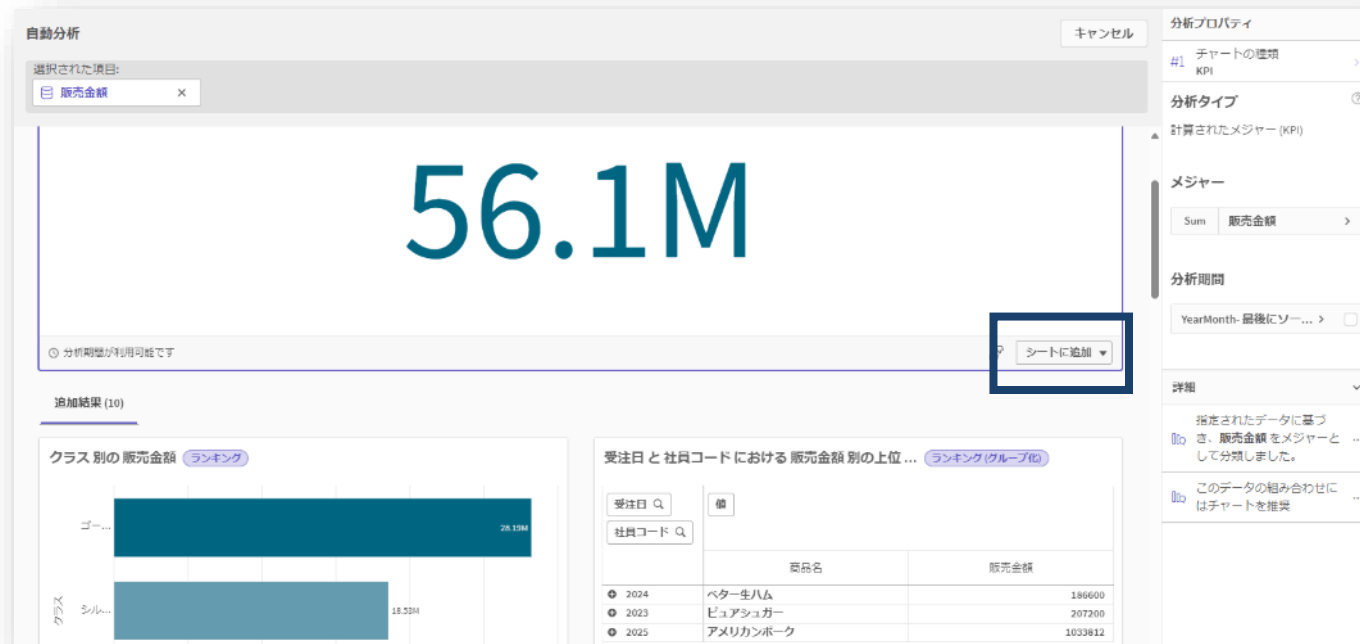
自動でチャートが生成されます。

提示された中から、

[販売金額]のKPIを画面に追加をするため、右下[シートに追加]>[新しいシート]を選択します。

ダッシュボードに使用したいチャートがあれば上記の手順で簡単にダッシュボードに追加することができます。

※インサイトアドバイザーはAIによる推奨機能のため、環境によってチャートの提案内容が異なります。



インサイトアドバイザーサーチでチャートを生成

自動でチャートが生成されます。

さらに、受注日で割った販売金額のチャートを追加します。

すでに[新しいシート]が存在するので、[新しいシート]に追加します。

※受注日で割った販売金額のチャートが無い場合は、左側の項目一覧から、受注日の項目を追加することで提示されます。



インサイトアドバイザーサーチでチャートを生成

自動でチャートが生成されます。

そして、さらに販売金額の数値を店舗の軸で分析をしたいと考えたと仮定し、左側の項目一覧から[店舗名]を選択します。

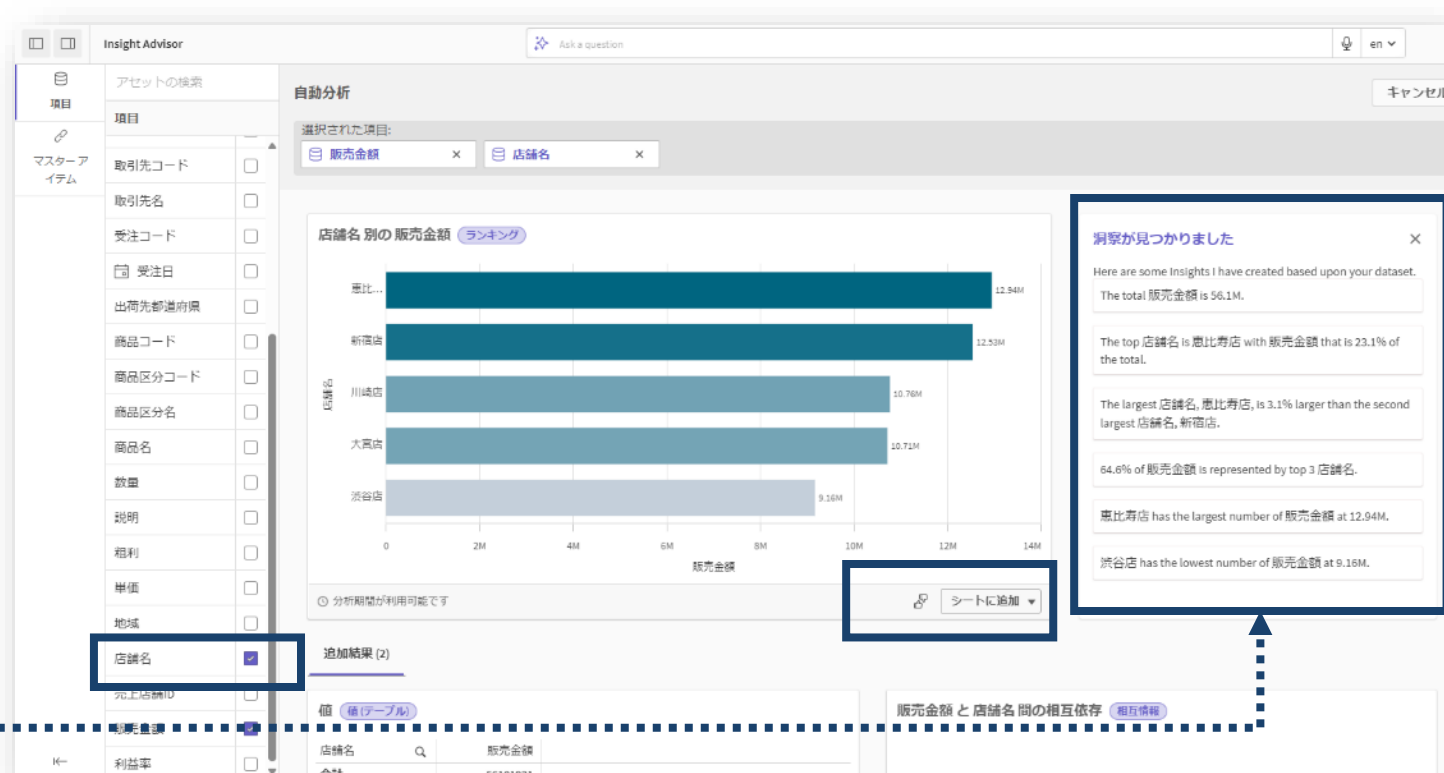
その結果、チャートが更新され、店舗軸と販売金額に関するチャートが表示されます。

この棒チャートをシートに追加します。

また、軸項目と数値項目を選択すると

洞察の表示が追加されます。

洞察では、数値の高い割合や、値の傾向を見ることが出来ます。



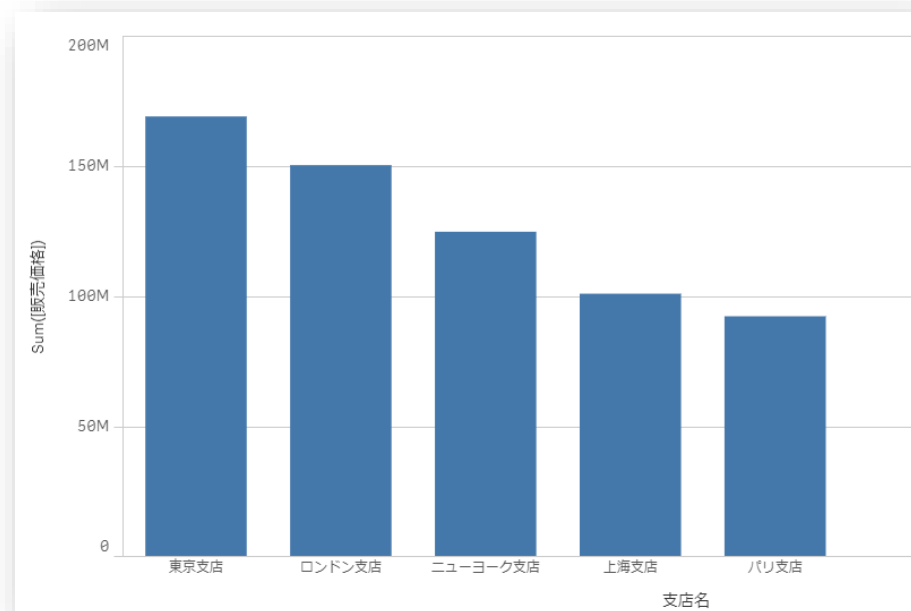
参考：チャート作成の考え方

チャート作成の基本的な考え方

軸・メジャー・集計方法・チャートタイプ

チャートは基本的に、軸・メジャー・集計方法・チャートタイプの4つで成り立ちます。

例：「支店名」の切り口で（軸）、「販売金額」の（メジャー）、「合計」を（集計方法）、棒チャートで見たい（チャートタイプ）



シート

次はシート上で一つひとつチャート作成し、ダッシュボードをデザインしていきます。

左上のInsight AdvisorをクリックするとInsight Advisorの画面が閉じ、シートが表示されます。

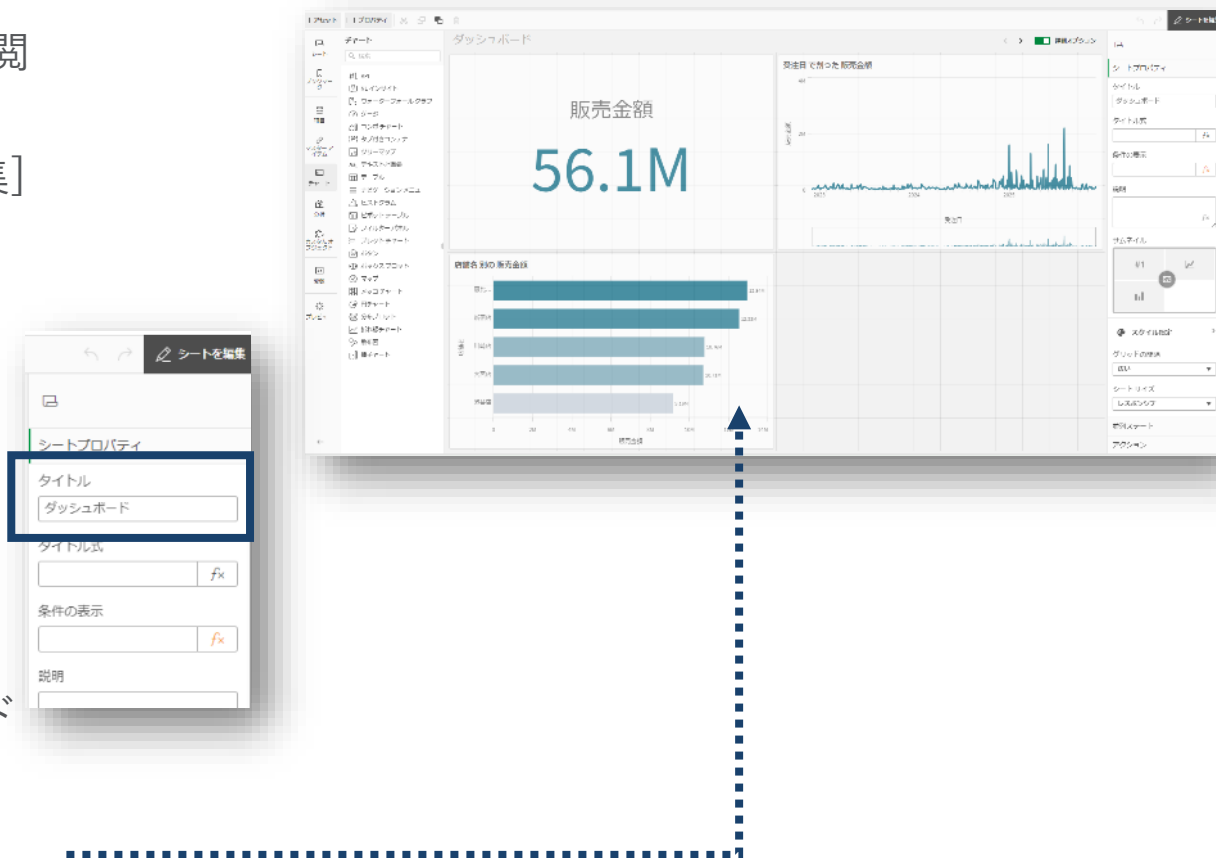
- シートには編集モードと閲覧モードがあります。ユーザーは閲覧モードでチャートやフィルターを操作して分析します。

ここではダッシュボード開発を行うため、右上の[シートを編集]を選択して編集モードに入ります。以降特に指示が無ければ、チャート編集時は編集モードに入ってください。

- ここで、シートのスペースを選択し、右側のプロパティがシートプロパティになるようにします。そして、シート名を「ダッシュボード」に設定します。

※シートは、チャートやボタンなどのオブジェクトを配置できる画面です。シートをデザインしていくことでダッシュボードなどの分析アプリを作成します。

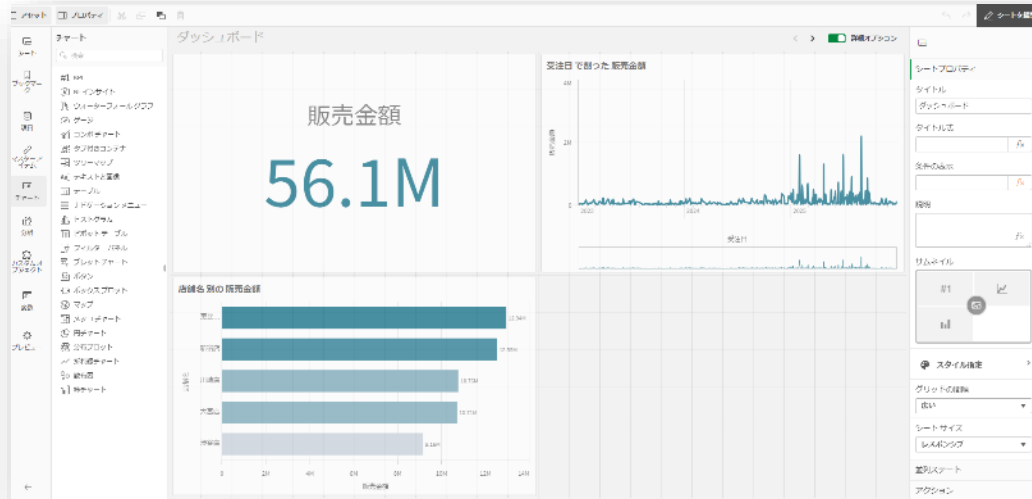
※インサイトアドバイザーで追加したKPIと折れ線グラフと棒チャートはすでにシートに配置されています。



KPIチャートのスタイル

KPIチャートの数値書式を通貨に変更する

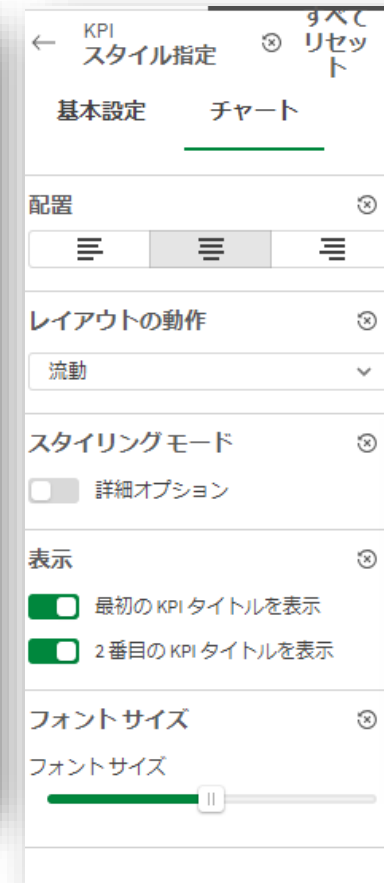
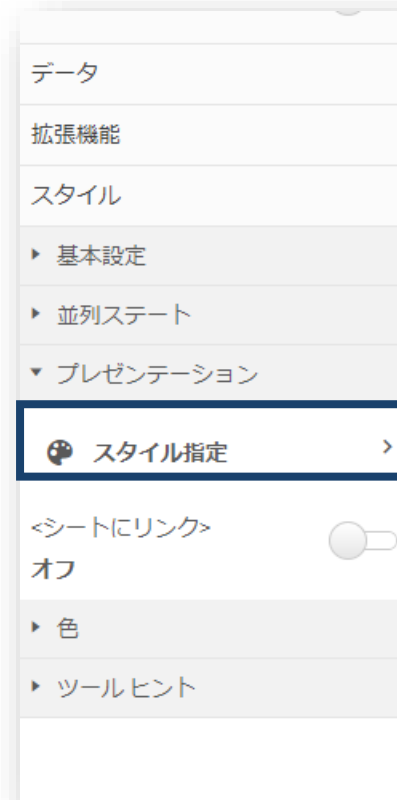
- ・左上にある販売金額のKPIチャートを選択します。
- ・右側のプロパティパネルのデータを選択します。
- ・数値書式を自動から通貨に変更します。



KPIチャートのスタイル

KPIチャートの文字の大きさを変更します。

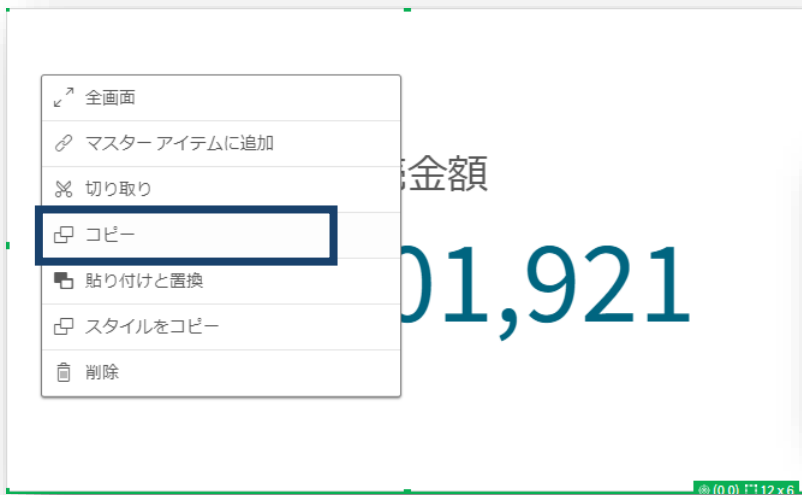
- ・通貨に変更するとすべての値が表示されていないため、大きさを小さくします。
- ・右側のプロパティパネルのプレゼンテーションのスタイル指定をクリックします。
- ・チャートタブを選択し、一番下のフォントサイズを左側にスライドして文字の大きさを小さくします。



KPIチャートの複製


Insight Advisorで作成したKPIチャートを複製して値を変更する

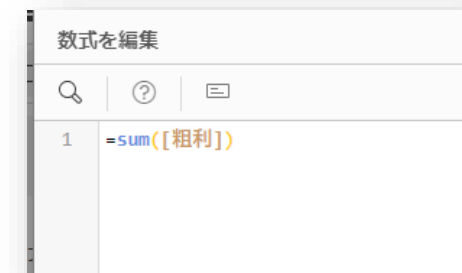
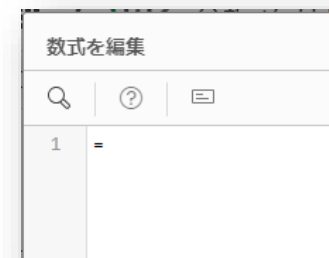
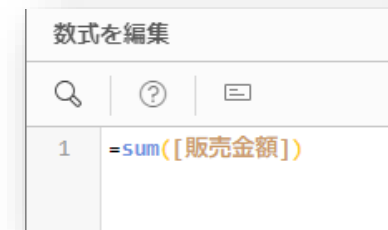
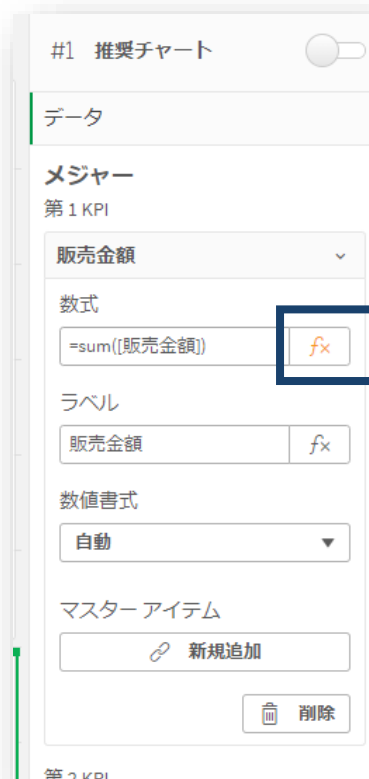
- ・左上にある販売金額のKPIチャートを右クリックし、コピーを選択します。
- ・チャート外の部分で、右クリックをし、貼付けをクリックします。
- ・コピーしたKPIチャートの複製がされます。



数式エディタの操作

数式エディタでの修正


- ・ 貼り付けたKPIチャートを選択し、右側のプロパティパネルのデータを選択します。
- ・ 販売金額の数式の右側にある  のアイコンをクリックします。
- ・ 数式エディタが表示されるため、そこで、=sum([販売金額])の[=]以外の文字をすべて削除します。
- ・ 数式エディタには[=]のみが残ります。
- ・ 右側にある項目から[粗利]を選択し、集計関数にてSumを選択します。
- ・ 下にある挿入をクリックすると数式にSUM(粗利)が追加されます。
- ・ 数式エディタの右下にある[適用]をクリックして数式エディタを閉じます。




数式エディタの操作

数式エディタの説明

- ・ ビジュアライゼーションの編集時にプロパティ パネルに

 が表示されている場合、数式エディタを開き、
数式を追加または編集できます。

 は数式項目を意味します。

 をクリックして、数式エディタを開きます。

- ・ 2通りの方法で数式を追加できます。
 1. [項目]、[関数]、[変数]、[set 数式] のセクションを使用し、
選択を行ってそれらの選択を数式項目に挿入します。
 2. 数式項目に直接入力することで、挿入した式を編集し、
より複雑な数式を追加できます。

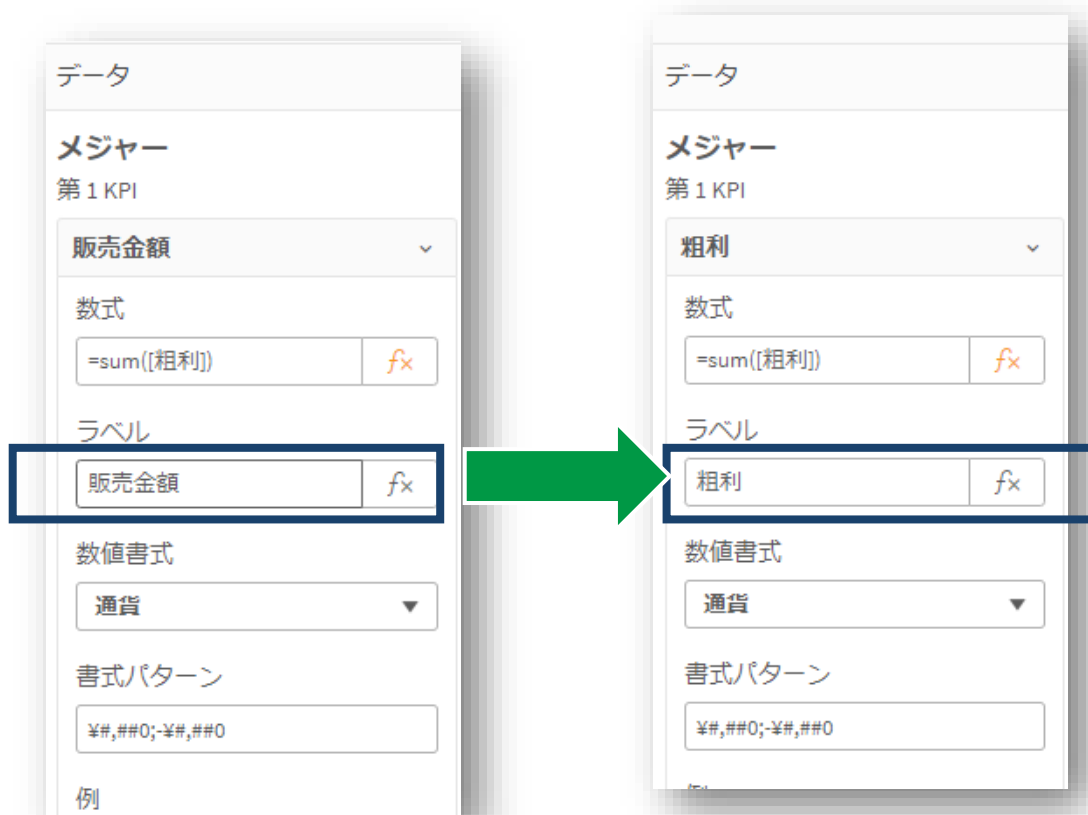
今回の場合は、[項目]より使用する項目と集計関数を選択し挿入をしました。



数式エディタの操作

ラベルを変更します。

- ・ 貼り付けたKPIチャートを選択し、右側のプロパティパネルのデータを選択します。
- ・ ラベルが販売金額のままになっているので、直接入力をして粗利に変更します。



マスターアイテム

アプリにマスターアイテム軸やマスターアイテムメジャーを追加することで、シート(チャート)開発者間でガバナンスを効かせたセルフサービスBIを推進することができます。

Qlik Senseには「マスターアイテム」という機能があり再利用可能な軸やメジャーを定義することができます。

マスターアイテムのメリット：

複雑な数式を何度も記述しなくて済む、メジャーや軸の定義をアプリ内で統一して共有・管理することができる、他ユーザーが再利用することができる。

項目とマスターアイテム：

「項目」はデータモデル開発者がデータモデリングした結果アプリに取りこまれたデータです。データモデリングのロード時点ではデータモデル開発者のみが項目や項目間の関係について理解しています。そしてこの項目や関数などを使用して、分析用の軸やメジャーをタイトルや説明付きで定義したものが「マスターアイテム」です。これにより、データモデル開発者以外のシート開発ユーザーが軸やメジャーの定義を共有し理解しながらチャートを作成することができます。

データモデル開発者はマスターアイテムを充実させることで、他ユーザーとのシートの共同開発におけるコラボレーションをより加速させることができます。シート開発者は主にマスターアイテムを使用してチャートを作成します。

マスターアイテム：メジャーの作成

マスターアイテムの追加方法は主に2つあります。

1. プロパティパネルから作成済みチャートの軸・メジャーをマスターアイテムに追加する方法
2. アセットパネルの[マスターアイテム]から追加する方法

1 の作成方法

- ・「販売金額」 KPIチャートを選択します。
- ・右側のプロパティパネルで、[データ]の「販売金額」を開き
マスターアイテムの[新規追加]を選択

#1 推奨チャート

データ

メジャー
第 1 KPI

販売金額

数式
=sum([販売金額])

ラベル
販売金額

数値書式
通貨

書式パターン
¥#,##0;-¥#,##0

例
¥1,000

マスター アイテム

新規追加

削除

第 2 KPI

マスターアイテム：メジャーの作成

マスターアイテムの追加方法は主に2つあります。

1. プロパティパネルから作成済みチャートの軸・メジャーをマスターアイテムに追加する方法
2. アセットパネルの[マスターアイテム]から追加する方法

1. プロパティパネルからマスターアイテムを追加（前項続き）

以下設定を実施

[名前]： 合計販売金額

[説明]： (任意)他ユーザーが見てデータを理解できる説明を記載

[数式]： =sum([販売金額])

デフォルトで入力されています

[数値書式]： 通貨

[書式]： ¥#,##0;-¥#,##0

※数式と数値書式、書式パターンは入力済みです。

[作成]を選択

同様に、「粗利」 KPIチャートから、粗利の数値もメジャーに登録をします。

メジャーの新規作成

セグメントカラー

名前
合計販売金額

説明
受注テーブルの販売金額の合計

数式
=sum([販売金額])

数式のラベル

数値書式
通貨

書式パターン
¥#,##0;-¥#,##0

例
¥1,000

キャンセル 作成

マスターアイテム：メジャーの作成

マスターアイテムの追加方法は主に2つあります。

1. プロパティパネルから作成済みチャートの軸・メジャーをマスターアイテムに追加する方法
2. アセットパネルの[マスターアイテム]から追加する方法

2. アセットパネルの[マスターアイテム]から追加

アセットパネルの[マスターアイテム]>[メジャー]>[新規作成]を選択

以下設定を実施

[名前]：単価平均

[説明]： (任意)他ユーザーが見てデータを理解できる説明を記載する

[数式]： AVG([単価])

[数値書式]： 通貨

[書式]： ¥#,##0;-¥#,##0

※デフォルトで入力されています

[作成]を選択

メジャーを編集

セグメントカラー

名前

単価平均

説明

受注テーブルの単価の平均

fx

メジャーの色

単価の色

タグ

用語集の用語

数式

Avg([単価])

fx

数式のラベル

fx

数値書式

通貨

書式パターン

¥#,##0;-¥#,##0

例

¥1,000

キャンセル

保存

マスターアイテム：軸の作成

マスターアイテム軸を作成していきます。

- 「店舗名別の販売金額」棒チャートを選択します。
- プロパティパネル(右側のパネル)で、[データ]タブ>「店舗名」を開く>マスターアイテムの[新規追加]を選択
- 右のポップアップが表示されたら[作成]を選択
- ※ポップアップが表示され続けますが、[閉じる]を押さずに次項の操作に移ります。

The screenshot displays the Qlik Sense interface. On the left, the '推奨チャート' (Recommended Chart) panel is visible, showing the 'データ' (Data) tab. The '軸' (Axis) section is set to '棒' (Bar). The '項目' (Item) is '[店舗名]' (Store Name) with a function icon 'fx'. The 'ラベル' (Label) is '店舗名' with a function icon 'fx'. The '制限' (Limit) is set to '制限なし' (No Limit). The 'マスターアイテム' (Master Item) section shows a link icon and the text '新規追加' (Add New). At the bottom right, there is a '削除' (Delete) button.

On the right, the '軸の新規作成' (Create New Axis) dialog is open. It has three radio buttons: '単一' (Single) is selected, followed by 'ドリルダウン' (Drill Down) and 'サイクリック' (Cyclic). Below these are two sections: 'テーブルでフィルタリング' (Filter by Table) and '項目' (Item). The '項目' section has a dropdown menu showing '[店舗名]' with a function icon 'fx'. The '名前' (Name) field is '店舗名'. The '数式のラベル' (Formula Label) field is empty with a function icon 'fx'. The '説明' (Description) field is empty with a function icon 'fx'. The '軸の色' (Axis Color) section has a checked checkbox and a dropdown menu. The 'タグ' (Tag) field is empty with a plus icon '+'. The '用語集の用語' (Terminology) field is empty with a plus icon '+'. At the bottom, there is a green '作成' (Create) button and a '閉じる' (Close) button.

マスターアイテム：軸の作成

マスターアイテム軸を作成していきます。

軸については、ポップアップ上で続けて複数のマスターアイテム軸を作成できます。

左側の項目一覧からマスターアイテムに追加したい項目を選び、右側で名前や説明などを追加し、[作成]を選択します。以下の項目についてすべてマスターアイテムに追加します。

営業担当者名

取引先名

受注年月

オートカレンダーの受注日.YearMonthを項目として選択し、「受注年月」を名前に指定

受注年

オートカレンダーの受注日.Yearを項目として選択し、「受注年」を名前に指定

商品区分名

商品名

すべて完了したら[閉じる]を選択します。

「受注年月」軸の作成例

軸の新規作成

☒ 単一 ☐ ドリルダウン ☐ サイクリック

テーブルでフィルタリング

すべてのテーブル ▼

項目

受注日.autoCalendar.YearMonth fx

名前

受注年月

説明

軸の色

タグ

用語集の用語

作成

閉じる

フィルターを追加

分析時にデータの絞り込みによる探索ができるよう、フィルターパネルをシートに追加します。

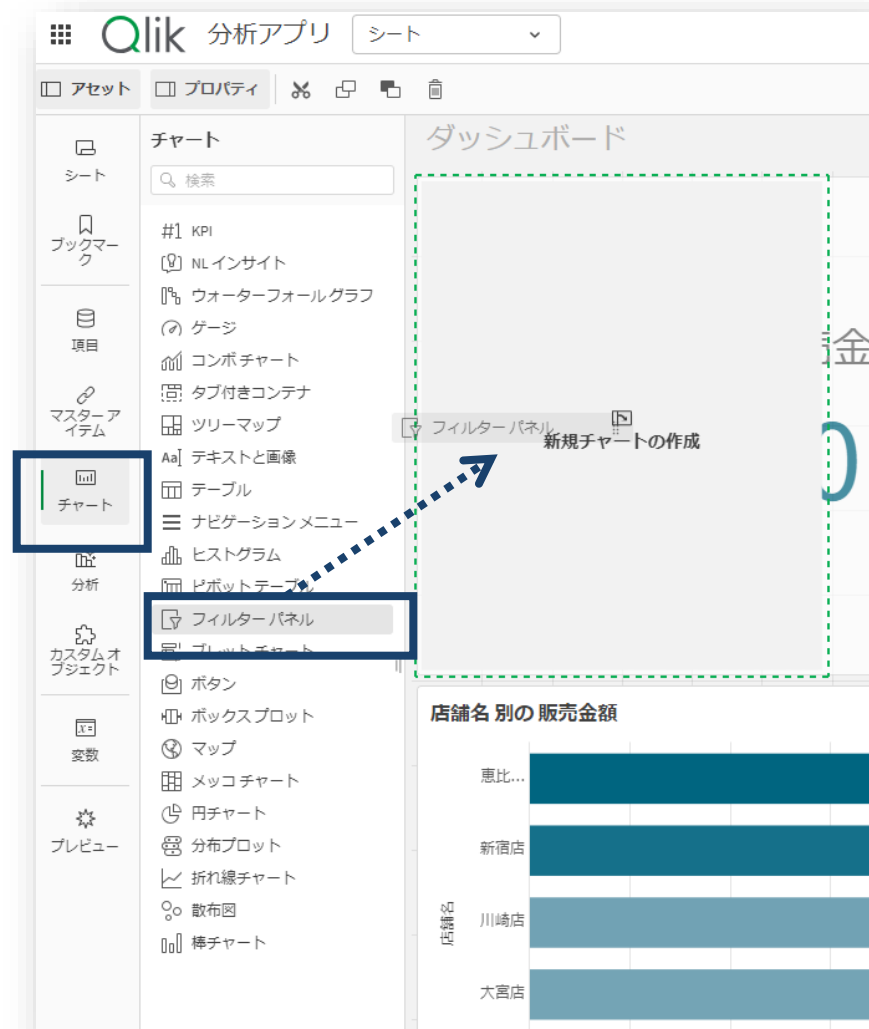
画面左のパネル(アセットパネル)から[チャート]を選択します。

隣に表示されるチャート一覧のサブメニューから[フィルターパネル]を探し、既存チャートの左半分側にドラッグ&ドロップし、チャートをシートに追加します。

(既存チャートの真ん中付近にドラッグ&ドロップするとチャートの上書きになってしまうので、注意が必要です。)

ドラッグ&ドロップしたスペースにフィルターパネルが作成されます。

※アセットパネルの[項目]から[必要な項目]をキーボードの[Shiftキー]を押しながらドラッグ&ドロップしてフィルターパネルを作成することも可能です。



フィルターに項目を追加

ひとつのフィルターパネルに複数項目を追加できます。

右側のプロパティパネルの項目を追加をクリックし
必要な項目を追加していきます。

先ほど登録をした軸のマスターアイテムも追加できます。

マスターアイテムは、[軸]の中にあります。

その下に、項目の一覧が並びます。

ここでは、軸の

受注年

商品区分名

項目の

取引先名

の合計 3 項目を追加します。

追加されたフィルターパネルのイメージ

データ

項目
リストボックス

項目を追加

fx

軸

営業担当者名

取引先名

受注年

受注年月

商品区分名

商品名

データ

項目
リストボックス

受注年

商品区分名

取引先名

項目を追加

受注年	取引先名
2023	アリス亭
2024	イルカランド
2025	からんころん
	コーヒーハウスフェンス
	コンビニエンス北風
	ジャンボストアー
	パーラーえんとつ
	ヒロコーポレーション
	びしゃもんや
	ポム・ド・テール
	みちのく本陣
	よろず商店

商品区分名
飲料
加工食品
菓子類
魚介類
穀類、シリアル
調味料
肉類

フィルターのデザインを変更

ひとつのフィルターパネルに複数項目を追加できます。

フィルターパネルのプロパティパネルより

いずれかの項目を選択すると左側にプロパティが表示されます。

このプレゼンテーションを開き、デザインを変更することが出来ます。

- ・コンパクトビュー

リストに表示される値の縦幅が狭くコンパクトになります。

- ・チェックボックスモード

値の左側にチェックボックスが追加され、チェックするような見た目になります。

- ・ヒストグラム

値の背景にどれくらいのデータ量があるかの棒チャートが薄く表示されます。



フィルターのデザインを変更

ひとつのフィルターパネルに複数項目を追加できます。

ここでは、以下の項目に対して、それぞれ設定をしていきます。

- ・ 受注年
→ ヒストグラム
- ・ 商品区分名
→ コンパクトビュー
- ・ 取引先名
→ チェックボックスモード

受注年	商品区分名	取引先名
2023	飲料	<input type="checkbox"/> アリス亭
2024	加工食品	<input type="checkbox"/> イルカランド
2025	菓子類	<input type="checkbox"/> からんころん
	魚介類	<input type="checkbox"/> コーヒーハウス
	穀類、シリアル	

受注年
リストボックスブ...

×

📄

軸

受注年

🔗

タイトル

受注年

fx

☒ タイトルを表示

マスター アイテムを編集

編集

検索

表示

☒

検索モード

標準

▼

☒ 選択ツールバーを表示

▼ プレゼンテーション

テキストの配置

自動

☒

☐ コンパクトビュー

☐ チェックボックスモード

☐ ヒストグラム

頻度の表示

▼

データ

項目

リストボックス

受注年

商品区分名

取引先名

項目を追加

スタイル

推奨チャートによるチャートの作成

項目より軸と数値をシートに追加し、チャートを作成する

これまで、Insight Advisorを中心としたチャート作成を行ってきましたが、アセットパネルからチャートを作成する方法について行います。

チャートを作成する際は、アセットパネルの[チャート]から自分でチャートの種類を選んで作成することも出来ますが、分析をするときにこういう切り口で、この数値を見たいと考えることが多いと思います。

その際に有効になってくるのが、推奨チャートになります。

まずは、アセットパネルの[マスターアイテム]の軸から、[商品名]をシートの空いているスペースにドラッグ&ドロップします。

その後、同じ場所に、[マスターアイテム]のメジャーから、[合計販売金額]をドラッグ&ドロップします。

更に、同じ場所に、[マスターアイテム]のメジャーから、[単価平均]をドラッグ&ドロップします。



推奨チャートによるチャートの作成

項目より軸と数値をシートに追加し、チャートを作成する

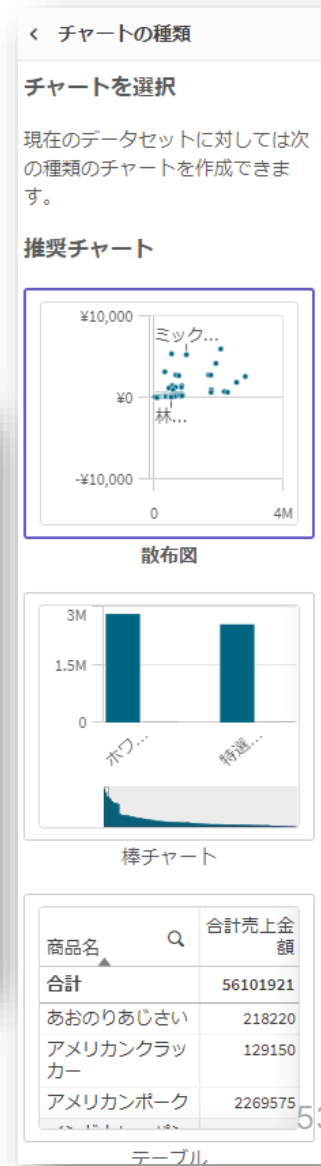
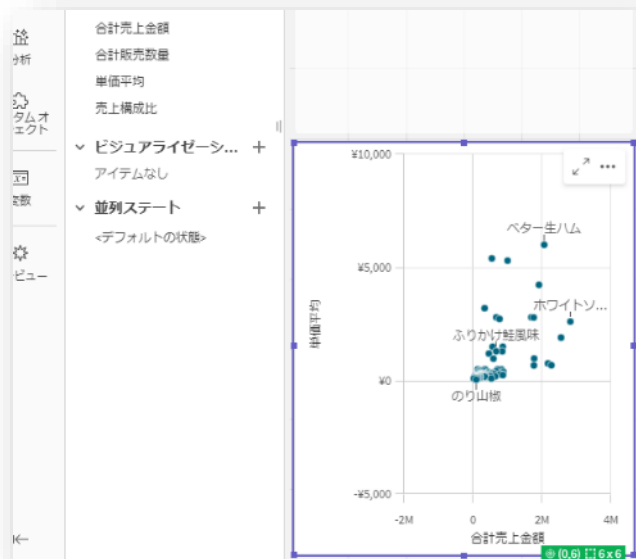
3項目を追加すると右画像のように散布図が表示されるかと思います。

ここで他のチャートで見た場合は、右側のプロパティパネルから

自動[チャート名]（ここでは散布図）をクリックすると

チャートの候補がいくつか表示されます。

ここから見たいチャートを選択することでチャートを切り替えることが出来ます。



シートのレイアウトを整える

作成された複数のチャートを見やすいようにレイアウトする

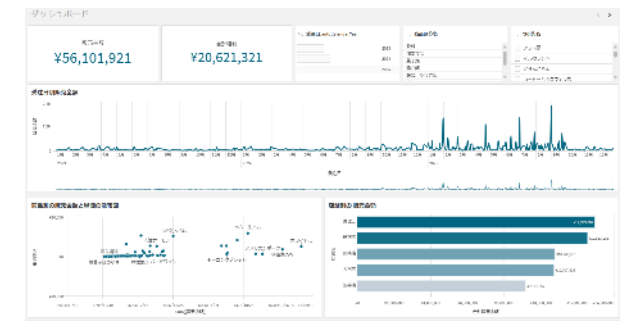
チャートはドラッグすることで移動ができ、
緑色の枠の8箇所の隅をドラッグすることで、広げたり小さくしたり
することが出来ます。

今回は、重要なKPIを一番最初に目のつく左上に持っていき、
時系列データの折れ線グラフを横長に、
その下に棒チャートや散布図を持ってきます。

※チャートは、シートのグリッド単位に大きさが設定できます。

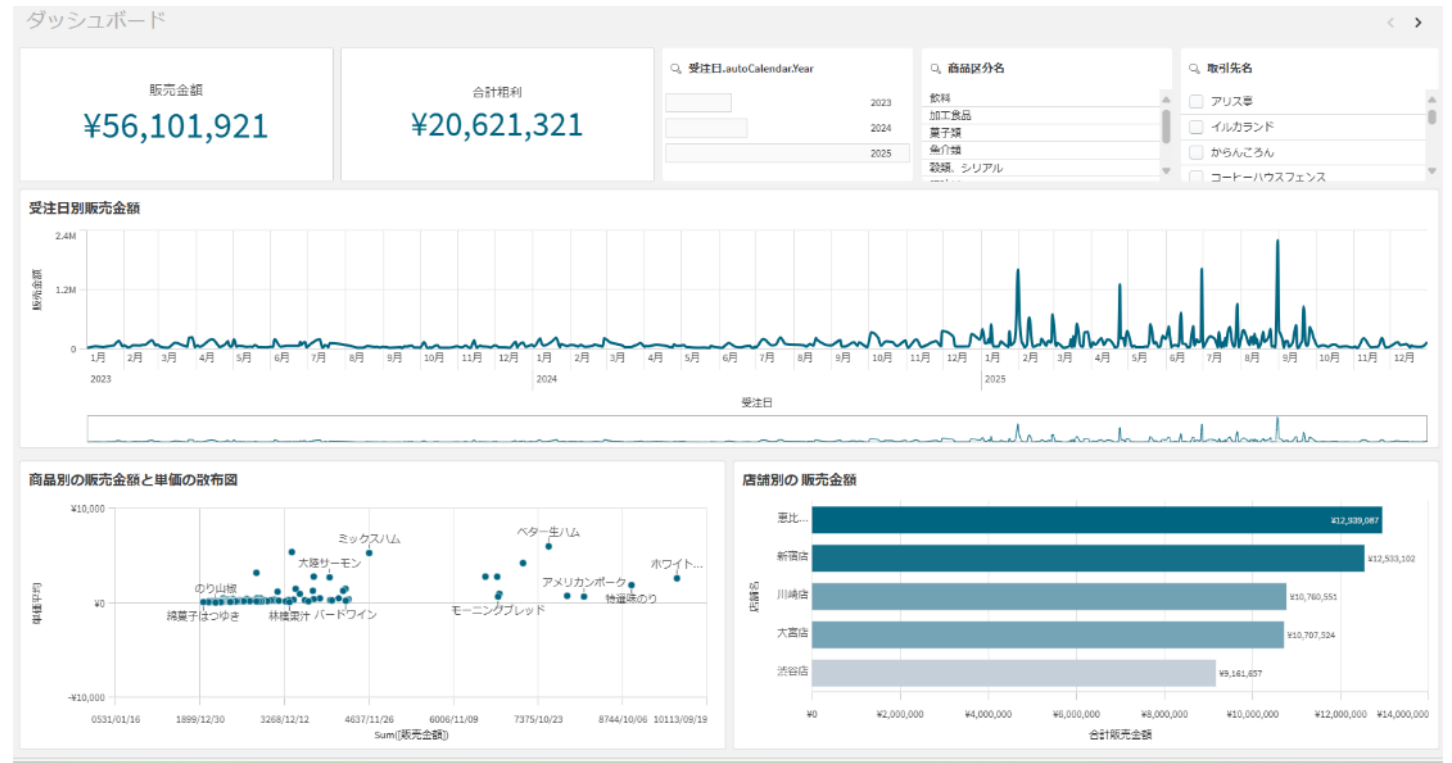
このグリッドを細かく設定が可能で、
シートの空いているスペースを選択し、[グリッドの感覚]をカスタムに
設定します。

そして、[グリッドの感覚]のバーを一番右にスライドすると一番細かく
なります。



1シート目のまとめ

- アプリの新規作成
- データマネージャーを使用したデータの取り込み
- 拡張知能を使用したデータモデリング
- インサイトアドバイザーを使用した、チャート作成
 - KPIチャート
 - 折れ線グラフ
 - 棒チャート
- チャートの複製
- 数式エディタの操作
- 数値書式の設定
- マスターアイテムの作成
- フィルターパネルの追加と設定
- 推奨チャートにてチャートの作成
- 各チャートのレイアウト調整



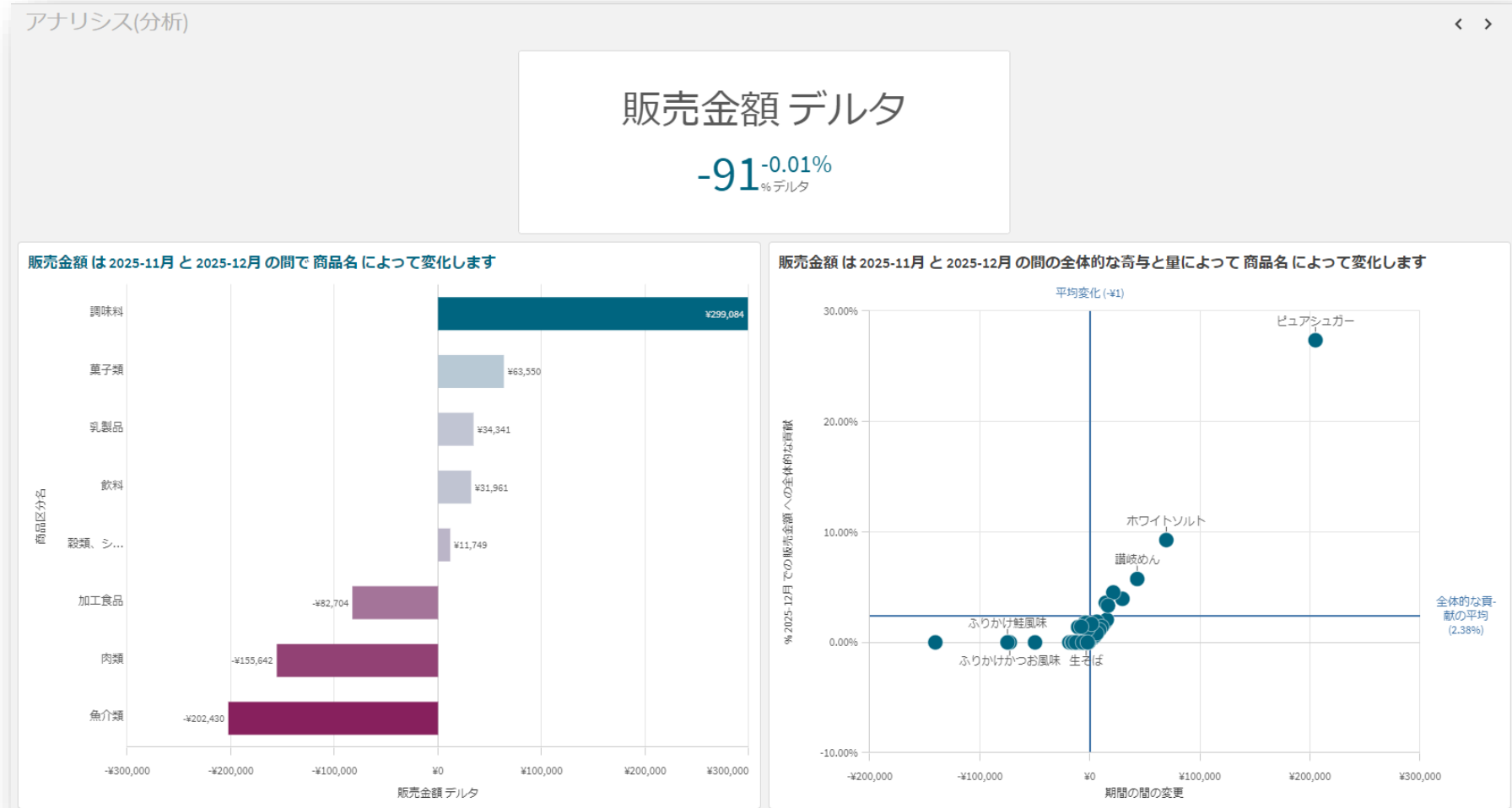
2シート目の作成

・ アナリシス画面



2シート目で学ぶこと

- Insight Advisorの「分析タイプ」のスマートシートを使用した画面の作成
- 項目の置換方法
 - 商品を商品区分へ置換
- 作成されたチャートの見方
- チャートのプロパティ設定
 - 数値書式の変更
 - 色の変更
 - スタイルの変更



インサイトアドバイザーサーチでシートを生成

シート作成においても、拡張知能によって自動化・省力化を図ることができます。

分析タイプからチャートを作成することが出来ます。

画面下の[すべての分析を表示]をクリックするとすべての分析タイプが表示されます。

例えば、ランキングで見たいとか、複数の値を比較して分析をしたいという分析からチャートを作成する方法です。

その分析タイプの中に、スマートシートという機能があり、そこから新しくダッシュボードを作成することが出来ます。

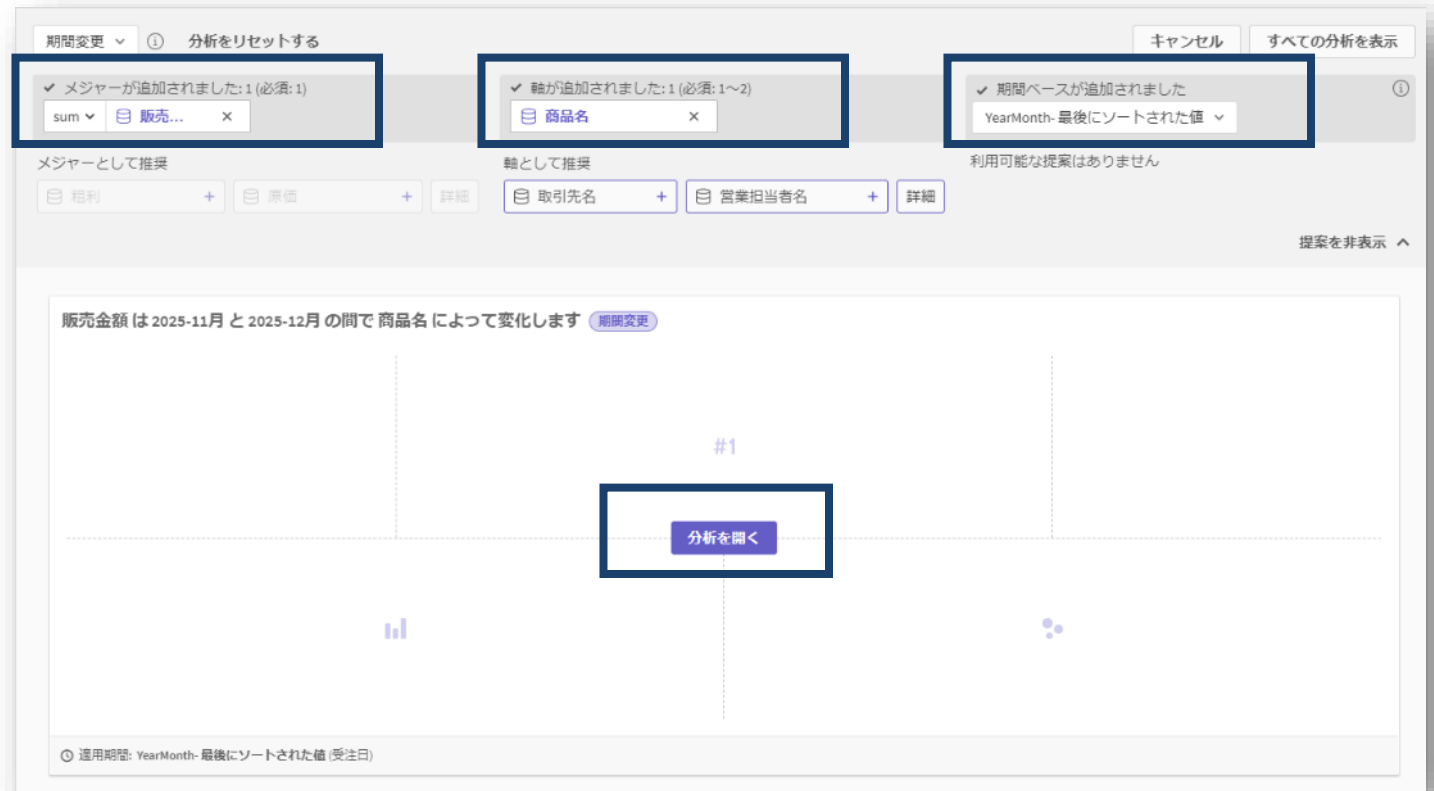
ここでは、当月と前月を比較したいと考えたと仮定をし[期間変更]を選択します。



インサイトアドバイザーサーチでシートを生成

スマートシートでのダッシュボード作成

- ・メジャーの選択にて、[販売金額]を選択します。
- ・軸の選択にて、[商品名]を選択します。
- ・期間ベースの選択にて[受注日]を選択します。
- ・[分析を開く]というボタンが出てきますので、それをクリックします。



インサイトアドバイザーサーチでシートを生成

スマートシートでのダッシュボード作成

以下のように、チャートが3つあるダッシュボードが生成されます。

この段階ではまだシートへの追加はされておらず、右側のプロパティパネルにて変更が可能です。



インサイトアドバイザーサーチでシートを生成

スマートシートでのダッシュボード作成

変更できる内容は以下になります。

項目の変更

商品名 ▼

項目

商品名

検索

項目

クラス

クラスID

セグメント

メジャーの変更

メジャー

Sum 販売金額 ▼

項目

販売金額

検索

数量

説明

粗利

単価

期間の単位の変更 (年月・四半期・年)

受注日

YearMonth-最後にソートされた値 ✓

2025-11月 / 2025-12月

YearQuarter-最後にソートされた値

2025-Q3 / 2025-Q4

Year-最後にソートされた値

2024 / 2025

YearMonth-最後にソートさ... ▼

比較期間の変更

分析期間

YearMonth-最後にソートされた値 ▼ ✓

YearMonth-最後にソートさ... >

期間 1:

2025-11月 >

期間 2:

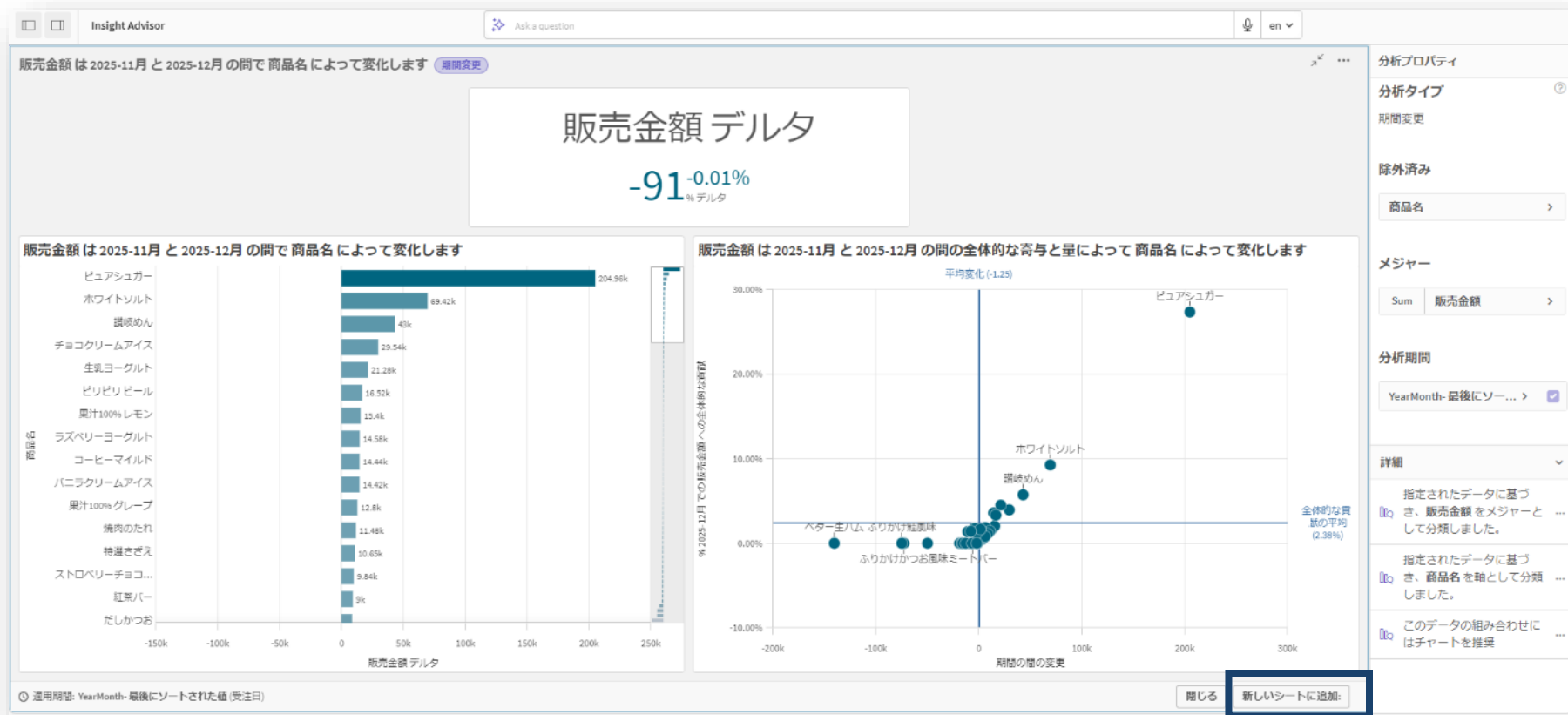
2025-12月 >

インサイトアドバイザーサーチでシートを生成

スマートシートでのダッシュボード作成

最後に、右下の新しいシートへ追加をクリックすることで、アプリのシートへの追加が完了します。

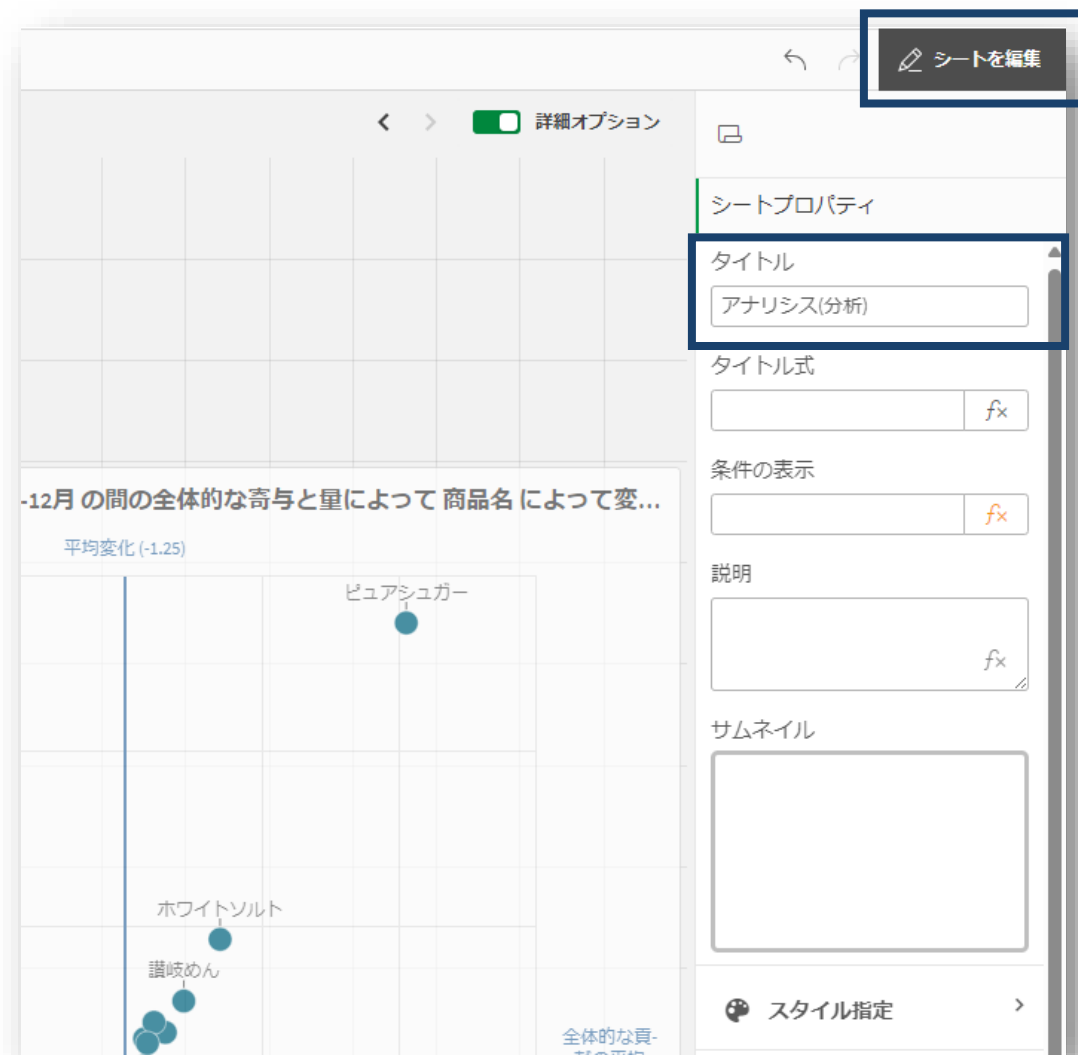
同じ場所に、[新しいシート \(1\) ↗](#) とシートへのリンクが出来ますので、こちらをクリックするとシートへ遷移します。



シート

シート名の変更

右上のシートの編集をクリックし、
タイトルを[アナリシス(分析)]に変更します。



シート

左下のチャートの軸の置換

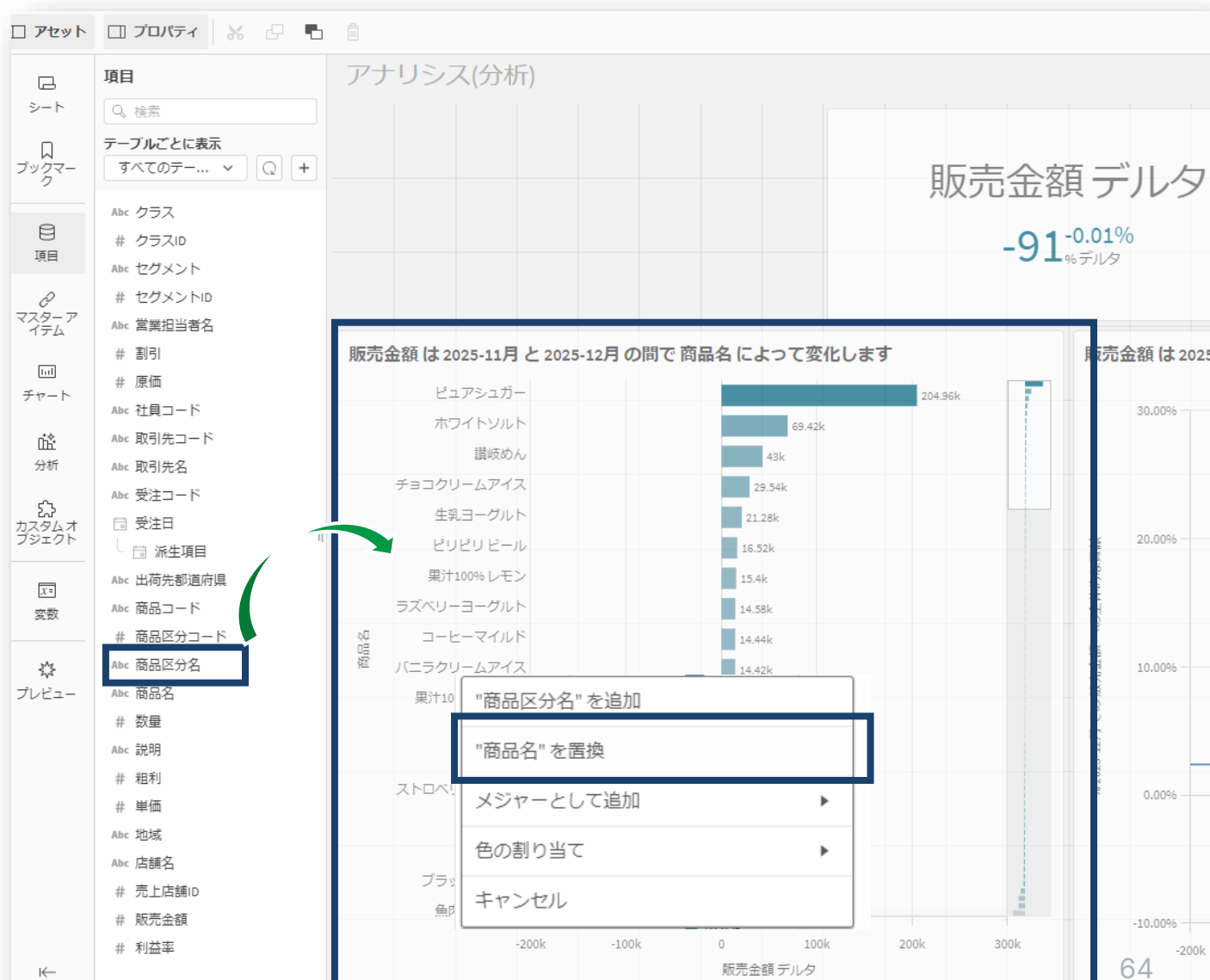
左下のチャートが商品別となっており、全体の3割ほどしか表示されていないため、より荒い軸を設定し見やすく変更します。

[アセット]の[項目]から[商品区分名]を見つけます。

[商品区分名]を左下のチャートヘドロックします。

ポップアップメニューが表示されるため、その中から、“商品名”を置換を選択します。

その結果、左下のチャートの軸が商品名から商品区分名に変更されます。



シート

スマートシートの各チャートの見方

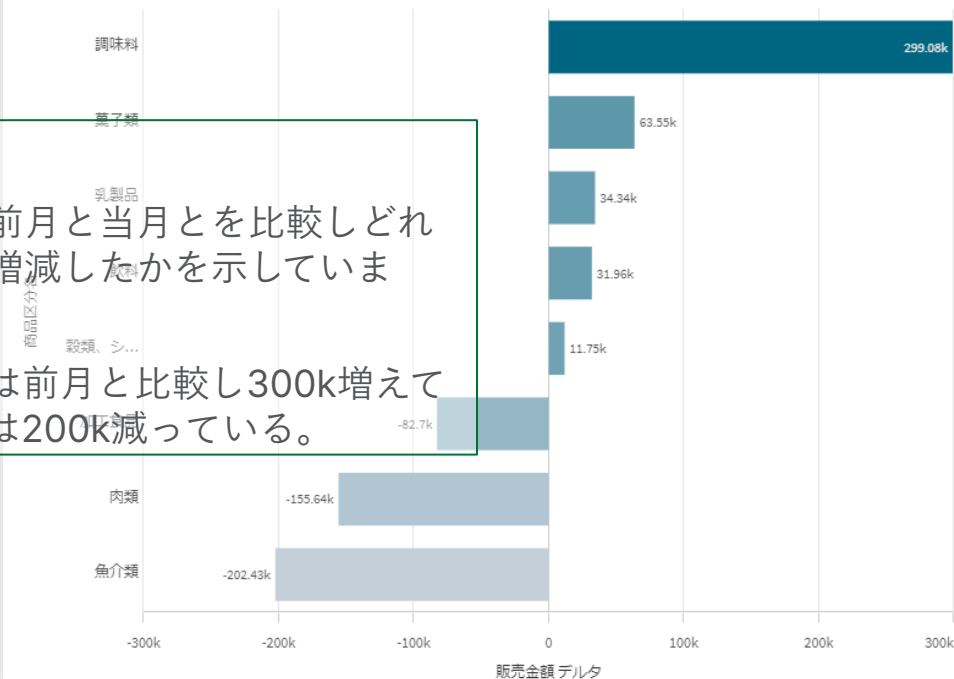
①KPIチャート

前月と当月とを比較し、金額の差を表示している

販売金額 デルタ

-91 -0.01%
% デルタ

販売金額は 2025-11月 と 2025-12月 の間で 商品名 によって変化します

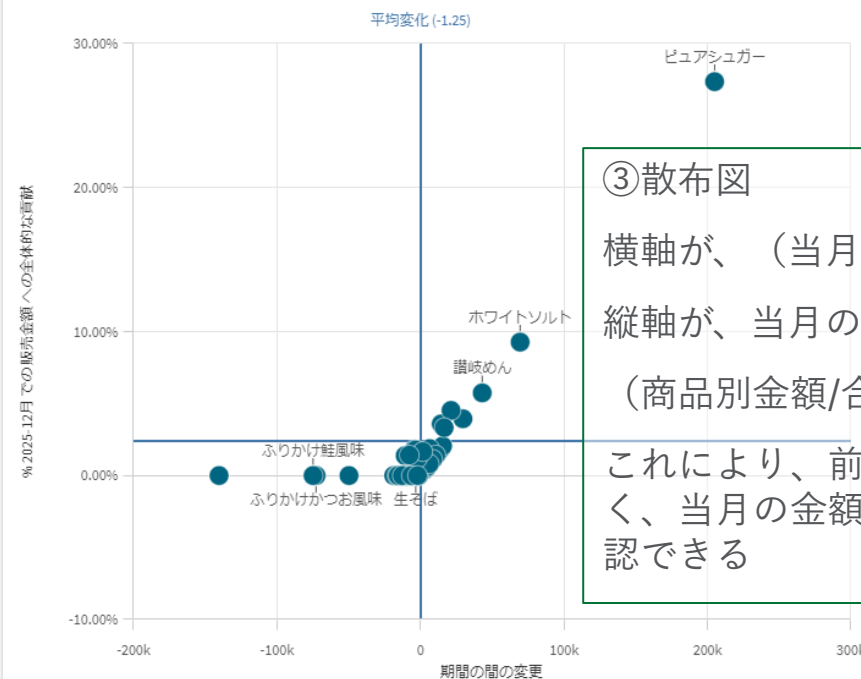


②棒チャート

商品区分別に、前月と当月とを比較しどれくらいの金額が増減したかを示しています。

例えば、調味料は前月と比較し300k増えてますが、魚介類は200k減っている。

販売金額は 2025-11月 と 2025-12月 の間の全体的な寄与と量によって 商品名 によって変化します



③散布図

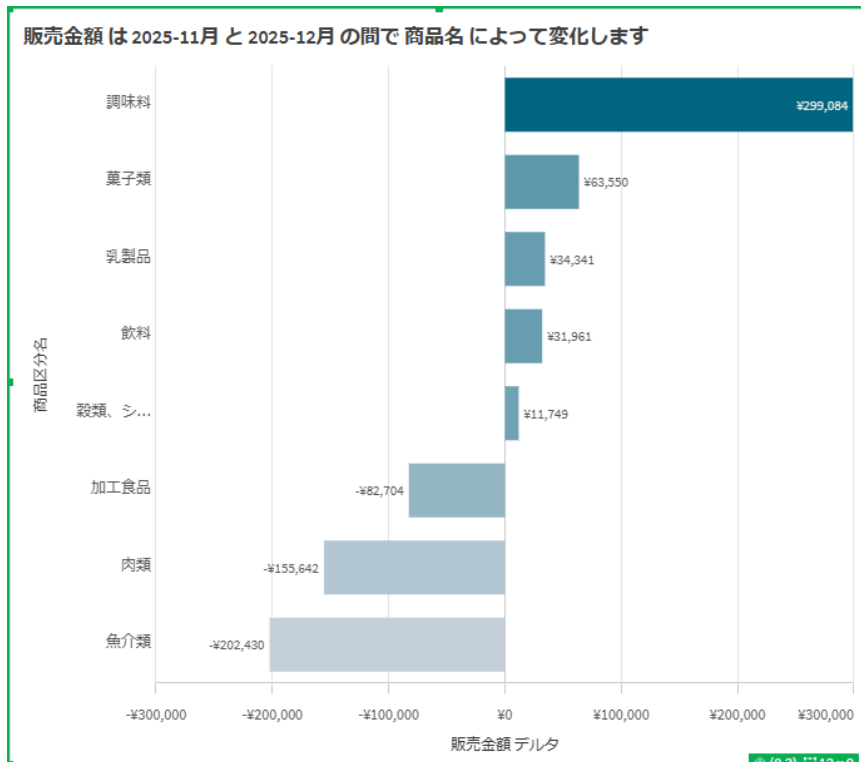
横軸が、（当月 - 前月）の金額で
縦軸が、当月の売上構成比
（商品別金額/合計金額）を表示

これにより、前月との比較だけでなく、当月の金額が妥当のものかが確認できる

チャートのプロパティ設定

棒チャートの販売金額の数値書式をデフォルトの自動から通貨に変更する

- ・ 左下の棒チャートを選択し、右側にあるプロパティパネルの[データ]を選択する。
- ・ [メジャー]の[期間の間の変更]にある[数値書式]のプルダウンから、[通貨]を選択する
(デフォルトでは[自動]が設定されている。)



①



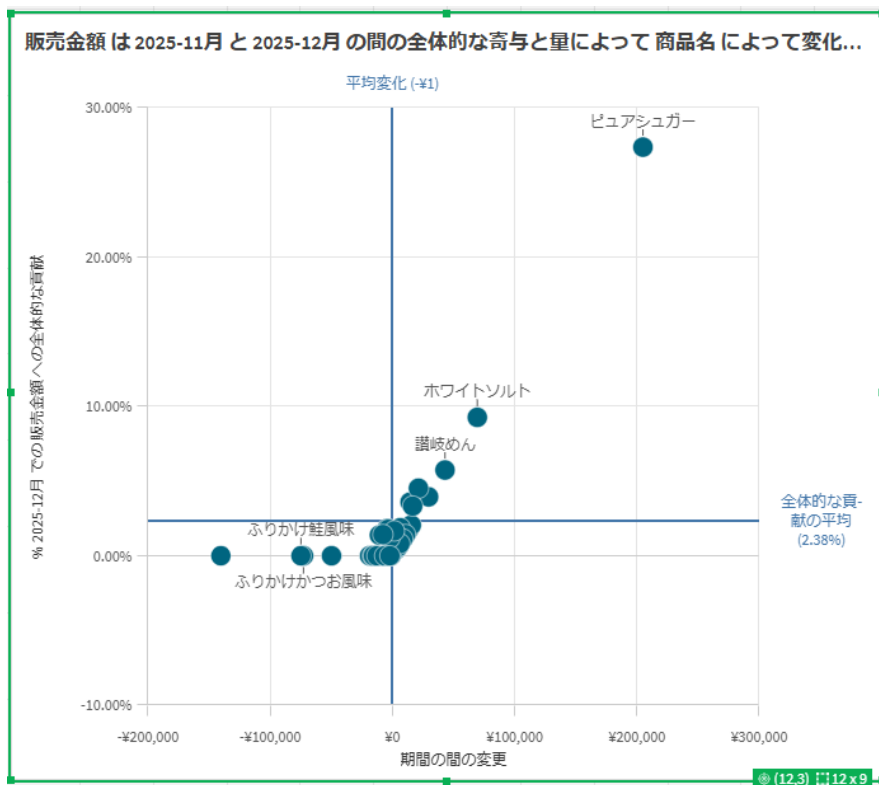
②



チャートのプロパティ設定

散布図の販売金額の数値書式をデフォルトの自動から通貨に変更する

- ・右下の散布図を選択し、右側にあるプロパティパネルの[データ]を選択する。
- ・[メジャー]の[期間の間の変更]にある[数値書式]のプルダウンから、[通貨]を選択する
(デフォルトでは[自動]が設定されている。)



①



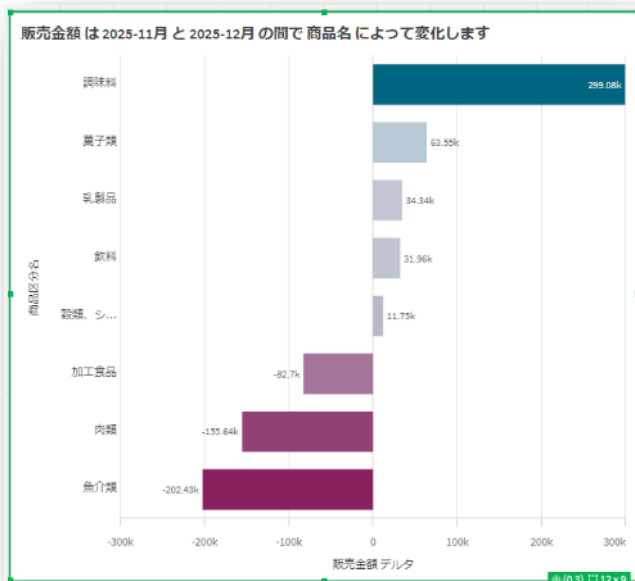
②



チャートのプロパティ設定

棒チャートの色の変更

- ・ 左下の棒チャートを選択し、右側にあるプロパティの[色と凡例]を選択する。
- ・ 配色の中の[発散グラデーション]を選択し、前月よりプラスのものを青
マイナスのものを赤のグラデーションに設定をする
(デフォルトでは[連続グラデーション]が設定されている)



チャートのプロパティ設定

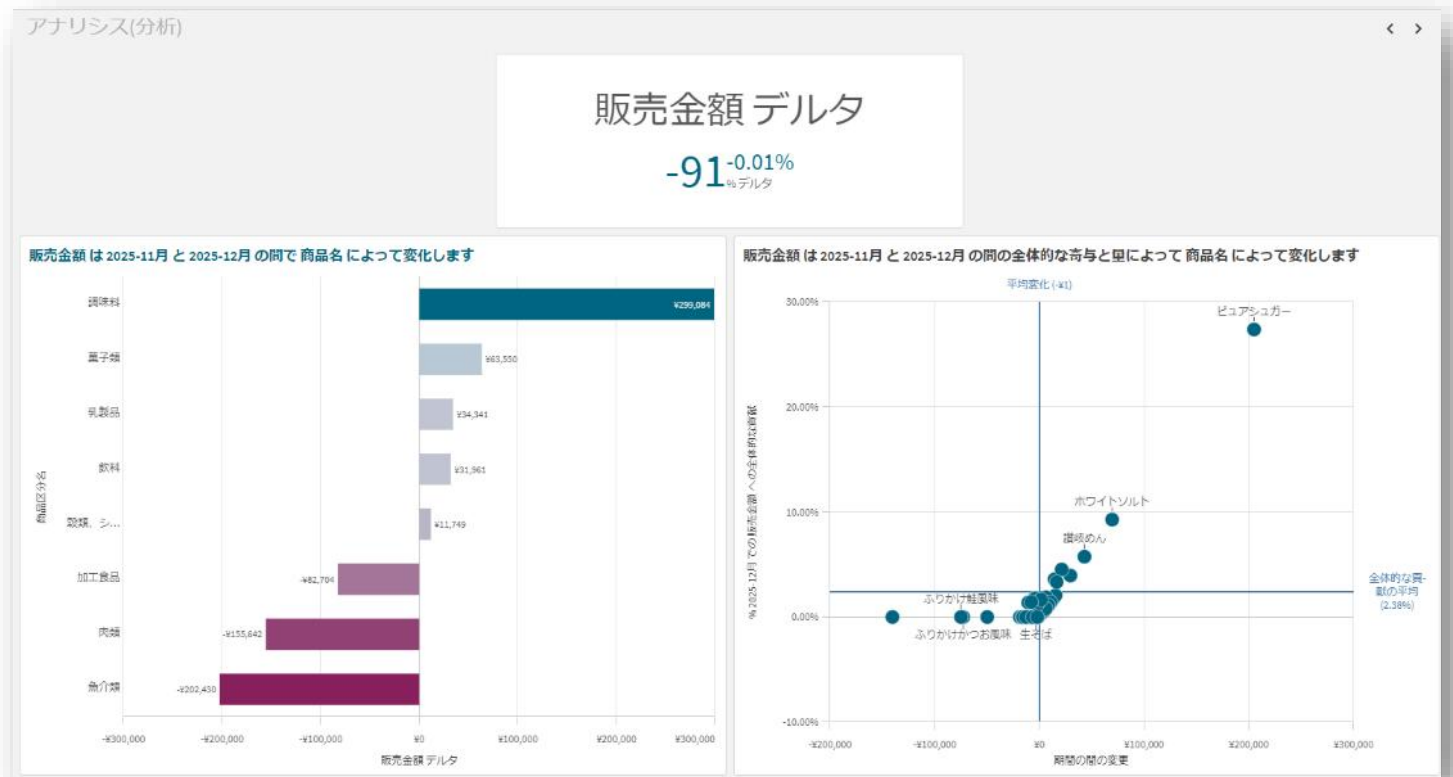
棒チャートのスタイルの変更

- ・左下の棒チャートを選択し、右側にあるプロパティの[プレゼンテーション]を選択する。
- ・スタイル指定をクリックすると詳細画面が表示される。
- ・スタイル指定の基本設定タブにて、グラフのタイトルや背景色などの色や大きさなどの書式設定ができる。
- ・ここでは、タイトルの文字の色を変更します。
- ・そして、チャートタブをクリックします。チャートの内部の書式を変更する事ができます。
- ・ここでは棒の幅を変更し、幅を狭めます。



2枚目のまとめ

- Insight Advisorの「分析タイプ」のスマートシートを使用した画面の作成
- 項目の置換方法
 - 商品の商品区分へ置換
- 作成されたチャートの見方
- チャートのプロパティ設定
- 数値書式の変更
 - 色の変更
 - スタイルの変更



3シート目の作成

- レポートティング画面



3シート目で学ぶこと

- 新規にシートの追加
- ストレートテーブルの作成
- ストレートテーブルの設定
 - 項目の並び変え
 - 値の並び替え

レポート

明細レポート

受注コード	受注日	クラスID	クラス	セグメントID	セグメント	営業担当者名	割引	原価	社員コード	取引先コード	取引先名	出荷先都道府県
1001-1	2025/08/10	2	ゴールド	3	レストラン&カフェ	辺上 寿生	2160	2390	E210	T26	小料理ひろ	愛知県
1001-2	2025/08/10	2	ゴールド	3	レストラン&カフェ	辺上 寿生	5510	4570	E210	T26	小料理ひろ	愛知県
1001-3	2025/08/10	2	ゴールド	3	レストラン&カフェ	辺上 寿生	840	2860	E210	T26	小料理ひろ	愛知県
1001-4	2025/08/10	2	ゴールド	3	レストラン&カフェ	辺上 寿生	1360	6120	E210	T26	小料理ひろ	愛知県
1001-5	2025/08/10	2	ゴールド	3	レストラン&カフェ	辺上 寿生	2960	280	E210	T26	小料理ひろ	愛知県
1001-6	2025/08/10	2	ゴールド	3	レストラン&カフェ	辺上 寿生	1360	4430	E210	T26	小料理ひろ	愛知県
1002-7	2025/08/08	3	シルバー	7	学校	木原 晃一	3552	7500	E304	T22	食所あんど	福岡県
1002-8	2025/08/08	3	シルバー	7	学校	木原 晃一	4600	6060	E304	T22	食所あんど	福岡県
1002-9	2025/08/08	3	シルバー	7	学校	木原 晃一	1800	1090	E304	T22	食所あんど	福岡県
1002-10	2025/08/08	3	シルバー	7	学校	木原 晃一	1224	2340	E304	T22	食所あんど	福岡県
1002-11	2025/08/08	3	シルバー	7	学校	木原 晃一	324	1890	E304	T22	食所あんど	福岡県

新規にシートの追加

アセットよりシートを追加する

最後に、レポートニングの画面を作成します。

ここでは、ストレートテーブルをシートに追加をするため、まっさらなシートを追加します。

[アセット]より[シート]から[自分のもの]のタブを選択し、一番下にあるシートの新規作成をクリックすると新しいシートが作成されます。

追加されると、[新しいシート]の名前で作成されるので、[レポートニング]に名前を変更します。



ストレートテーブルの追加

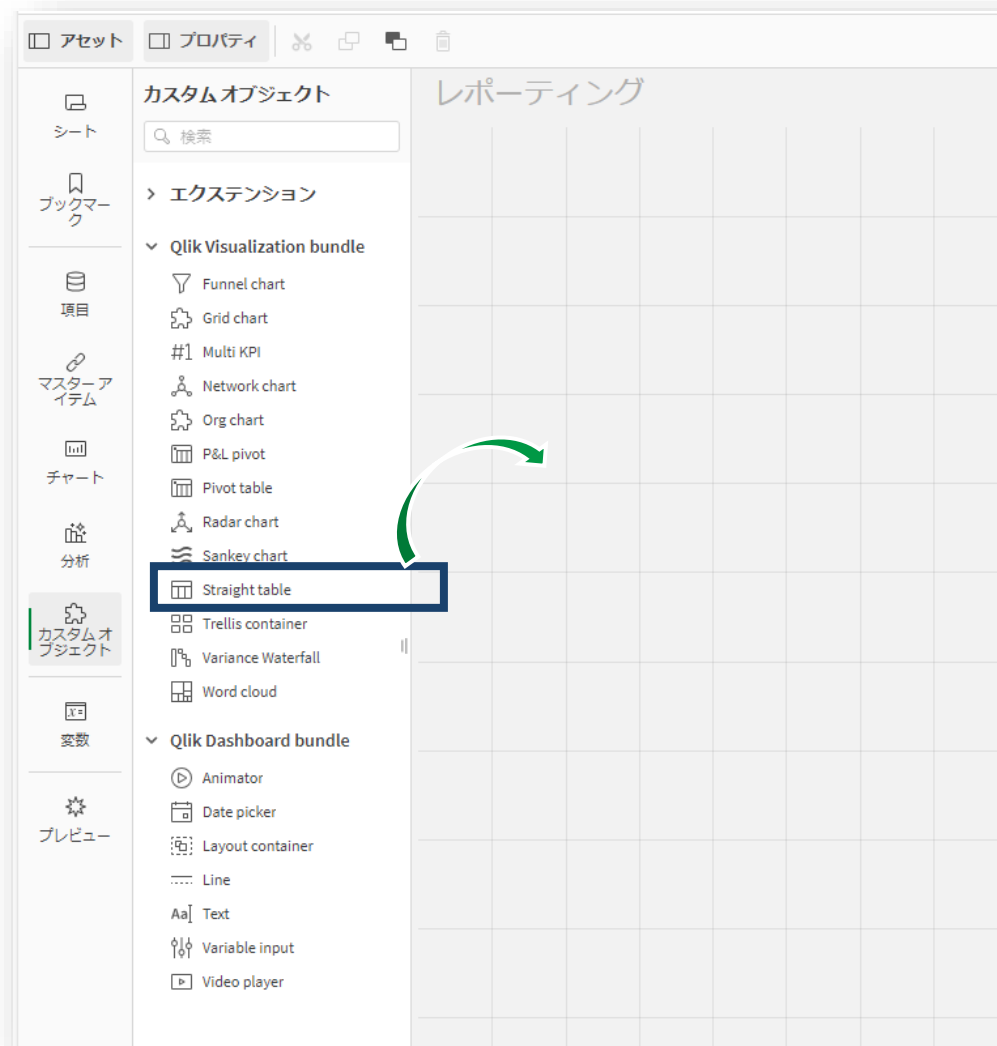
カスタムオブジェクトよりストレートテーブルを選択し設定する

チャートにも[テーブル]というオブジェクトがありますが、こちらのストレートテーブルでは、項目の選択が楽にできるようになっているので、こちらを設定します。

カスタムオブジェクトから[Straight table]を右側の画面へドラック＆ドロップします。

ドロップ先の画面が四分割に分かれますが、最終的には全体に表示させるためどこでも問題ありません。

今回の例では左上にドロップします。



カスタムオブジェクトよりストレートテーブルを選択し設定する

(その他の項目はすべて選択をしたまま)



ストレートテーブルの追加

項目の並び替え

ストレートテーブルを選択し、右側にあるプロパティの中から、データを選択します。

項目の並び替えは、各項目の右側にあるメニューバーをドラックすることで並び替えできます。

今回は、受注コードと受注日を一番左に持ってきます。

項目を入れ替えたら以下のように自動的に画面の順番も変わります。

明細レポート										
受注コード	受注日	1= クラスID	クラス	セグメントID	セグメント	営業担当者名	割引	原価	社員コード	取引先コード
8040-6734	2025/01/11	1	プラチナ	2	ケイタリング	園村 真一	108	400	E304	T13
3040-1733	2024/12/11	1	プラチナ	2	ケイタリング	園村 真一	128	2480	E304	T13
7018-5793	2025/09/20	1	プラチナ	2	ケイタリング	園村 真一	138	2590	E304	T13
3040-1734	2024/12/11	1	プラチナ	2	ケイタリング	園村 真一	228	890	E304	T13
1062-369	2023/02/01	1	プラチナ	2	ケイタリング	園村 真一	300	4480	E304	T13
3040-1735	2024/12/11	1	プラチナ	2	ケイタリング	園村 真一	420	6720	E304	T13
8040-6735	2025/01/11	1	プラチナ	2	ケイタリング	園村 真一	420	8120	E304	T13

明細レポート

データ

検索

列

+

...

☐ クラスID

☐ クラス

☐ セグメントID

☐ セグメント

☐ 営業担当者名

☐ 割引

☐ 原価

☐ 社員コード

↑

↓

代替列

+

...

代替の列は見つかりませんでした
このリストに入力するための新

ストレートテーブルの追加

値の並び替え

列の並び替えだけでなく、値の並び替えをすることが出来ます。

プロパティの[ソート]を開くと、項目別に設定が可能です。

項目の順番が並び順の優先度で、現在はクラスIDが優先度高く、クラスIDが同じ場合は2番目の優先度のクラスでソートされ、そこも同じ場合は、優先度3番目となっていきます。

今回は、受注コードを優先度1に、受注日を優先度2にします。

設定ができると以下のように受注コードの昇順に並びます。

また、デフォルトでは昇順ですが、降順に設定もできます。

[受注コード]を開き、自動のトグルをOffにし、[アルファベット順でソート]を降順に設定します。

明細レポート										
受注コード	受注日	クラスID	クラス	セグメントID	セグメント	営業担当者名	割引	原価	社員コード	取引先コード
1001-1	2025/08/10	2	ゴールド	3	レストラン&カフェ	辺上 寿生	2160	2390	E210	T26
1001-2	2025/08/10	2	ゴールド	3	レストラン&カフェ	辺上 寿生	5510	4570	E210	T26
1001-3	2025/08/10	2	ゴールド	3	レストラン&カフェ	辺上 寿生	840	2860	E210	T26
1001-4	2025/08/10	2	ゴールド	3	レストラン&カフェ	辺上 寿生	1360	6120	E210	T26
1001-5	2025/08/10	2	ゴールド	3	レストラン&カフェ	辺上 寿生	2960	280	E210	T26

データ	
ソート	
1	▶ クラスID
2	▶ クラス
3	▶ セグメント
4	▶ セグメントID
5	▶ 営業担当者名
6	▶ 割引
7	▶ 受注日
8	▶ 原価
9	▶ 社員コード
10	▶ 取引先コード
11	▶ 取引先名
12	▶ 受注コード
13	▶ 出荷先都道府県
14	▶ 商品コード

データ	
ソート	
1	▼ 受注コード
ソート	
カスタム	
<input type="checkbox"/>	数式でソート
<input checked="" type="checkbox"/>	数値でソート
昇順	
<input checked="" type="checkbox"/>	アルファベット順でソート
昇順	
降順	
3	▶ クラスID

3枚目のまとめ

- 新規にシートの追加
- ストレートテーブルの作成
- ストレートテーブルの設定
 - 項目の並び換え
 - 値の並び替え

レポート														
明細レポート														
受注コード	受注日	クラスID	クラス	セグメントID	セグメント	営業担当者名	割引	原価	社員コード	取引先コード	取引先名	出荷先都道府県		
1001-1	2025/08/10	2	ゴールド	3	レストラン&カフェ	辺上 寿生	2160	2390	E210	T26	小料理ひろ	愛知県	F	
1001-2	2025/08/10	2	ゴールド	3	レストラン&カフェ	辺上 寿生	5510	4570	E210	T26	小料理ひろ	愛知県	F	
1001-3	2025/08/10	2	ゴールド	3	レストラン&カフェ	辺上 寿生	840	2860	E210	T26	小料理ひろ	愛知県	F	
1001-4	2025/08/10	2	ゴールド	3	レストラン&カフェ	辺上 寿生	1360	6120	E210	T26	小料理ひろ	愛知県	F	
1001-5	2025/08/10	2	ゴールド	3	レストラン&カフェ	辺上 寿生	2960	280	E210	T26	小料理ひろ	愛知県	F	
1001-6	2025/08/10	2	ゴールド	3	レストラン&カフェ	辺上 寿生	1360	4430	E210	T26	小料理ひろ	愛知県	F	
1002-7	2025/08/08	3	シルバー	7	学校	木原 晃一	3552	7500	E304	T22	食所あんど	福岡県	F	
1002-8	2025/08/08	3	シルバー	7	学校	木原 晃一	4600	6060	E304	T22	食所あんど	福岡県	F	
1002-9	2025/08/08	3	シルバー	7	学校	木原 晃一	1800	1090	E304	T22	食所あんど	福岡県	F	
1002-10	2025/08/08	3	シルバー	7	学校	木原 晃一	1224	2340	E304	T22	食所あんど	福岡県	F	
1002-11	2025/08/08	3	シルバー	7	学校	木原 晃一	324	1890	E304	T22	食所あんど	福岡県	F	

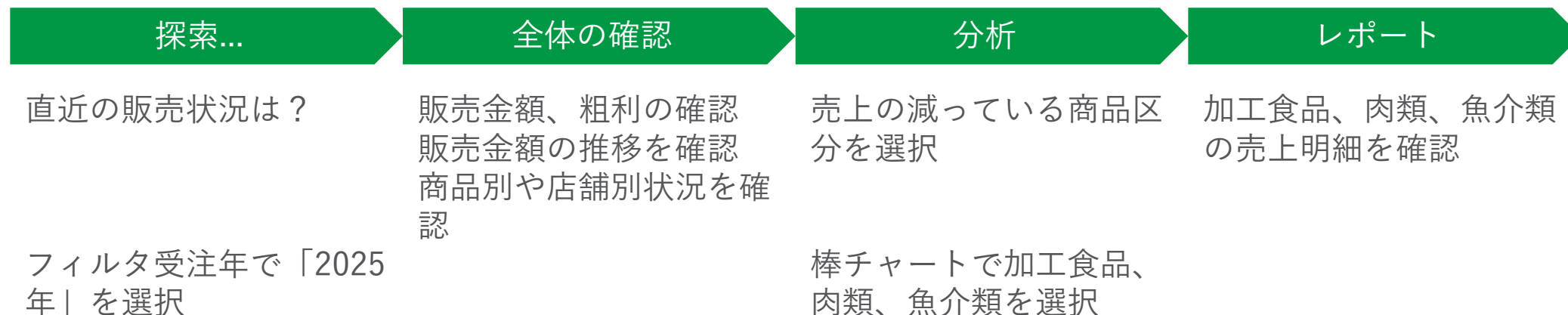
分析の実施

- Qlikの特長的な機能を使用して
状況の確認と改善のための分析
を実施



値の選択と確認

作成したシートを使用して状況を確認します。業績の悪い商品区分を特定して売上状況を確認します。選択を行うと、すべてのチャートが選択に応じて集計されます。選択は全てのシートに引き継がれます。

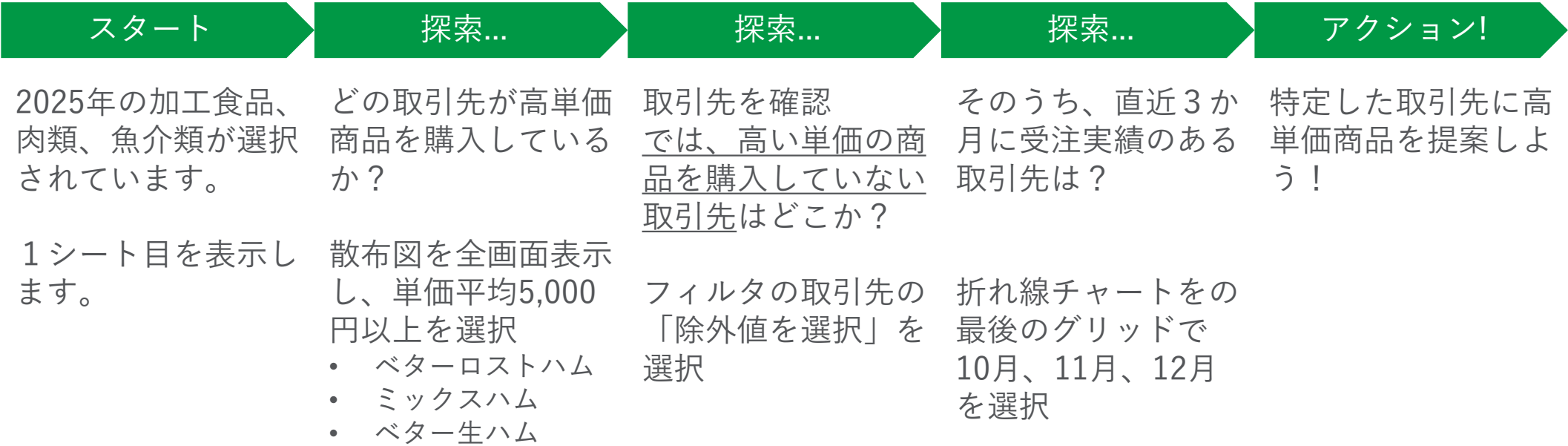


作成したシートで全体を確認、分析、明細の確認を行います。気になる部分を選択して値を絞って確認と分析を行うことができます。

続いて、業績の良くない商品区分について、改善方法を検討していきます。

連想インデクシングを活用してデータ探索

連想インデクシングを活用して、分析軸を柔軟に切り替えながらデータを探索します。
まず商品軸で分析を開始して単価の高い商品特定し、次にその商品を2025年に購入していない取引先軸で分析します。

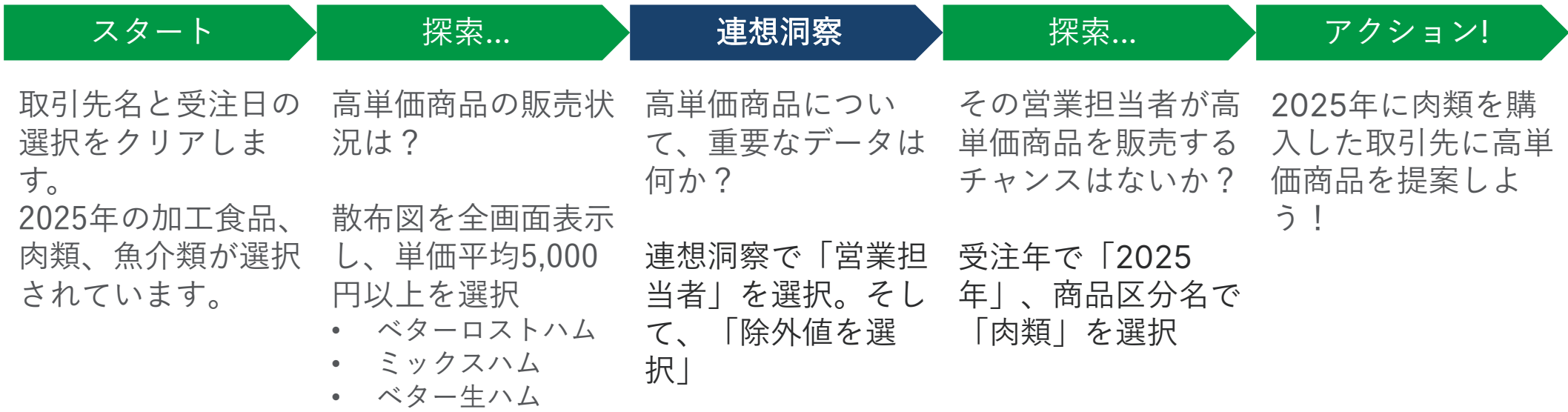


フィルター選択に関連するデータはもちろんのこと、関連しないデータ(除外値)も考慮しながら、自在に分析軸を切り替えることで柔軟な探索を実現

連想洞察で課題の特定

除外値に重要な示唆が隠れていることがあります。その時々フィルター選択状態において、どんなデータが除外されているのかQlikのAIが提案します。

シート右上[選択]
→右側[洞察を生成]

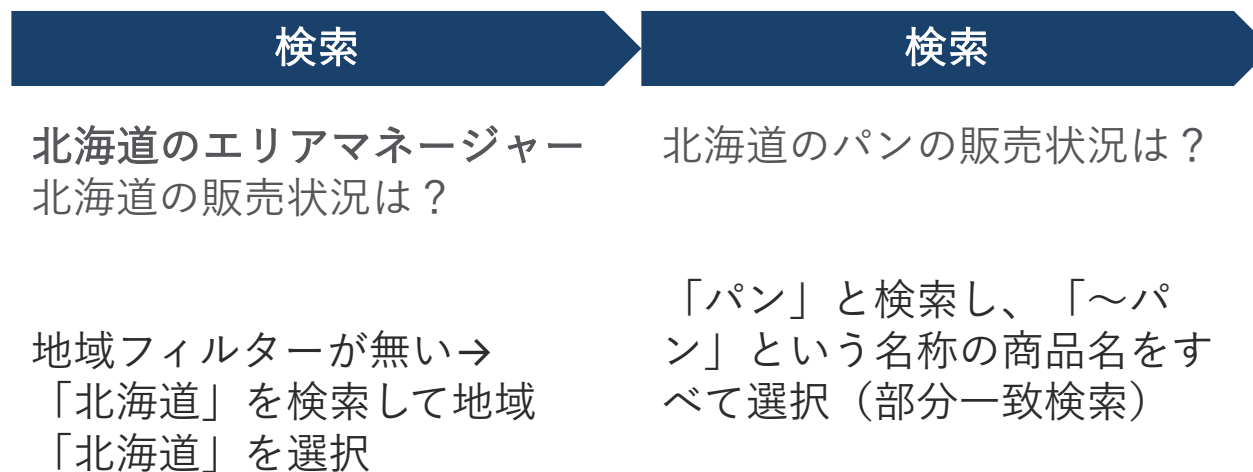


選択に関連するデータはチャートなどから見えますが、除外されたデータは見逃しがち。重要な除外値を連想洞察で確認することで、あらゆる軸から探索を続けられます。

スマートサーチでデータ探索

連想データモデルによって、アプリ内の全項目・全値を検索してフィルター絞り込みが可能です。

選択をすべてクリア
して始めます



全データ検索が可能になるのはQlik独自の連想インデックスの特徴です。
ダッシュボードの設計に縛られない、自由な絞り込み探索を実現します。

インサイトアドバイザーサーチで対話型分析

チャート生成に使用したインサイトアドバイザーの画面で、対話的にチャートを生成しながら分析をすることも可能です。

選択をすべてクリアし、Insight Advisor 画面を開きます。

探索...

地域ごとの販売状況は？

項目から「地域」を選択し、作成される
チャートを確認

分析者の興味関心をAIにフィードバック（項目選択）し常にその時有用なチャートを更新しながら活用する。
さらに、同画面上でデータを絞り込みながら探索も可能

初めてのアプリ作成 まとめ

- エクセルデータを使用した販売分析ダッシュボードの作成
- アプリの新規作成
- データの取り込み
- 拡張知能でデータモデリング (データ準備)
- インサイトアドバイザーでチャート自動生成
- フィルターの作成
- チャートの作成 (推奨チャート&手動作成)
- チャートのプロパティ設定
- 連想インデクシングで探索、連想洞察で除外データの特定
- スマートサーチで全データ横断検索
- インサイトアドバイザーで対話分析

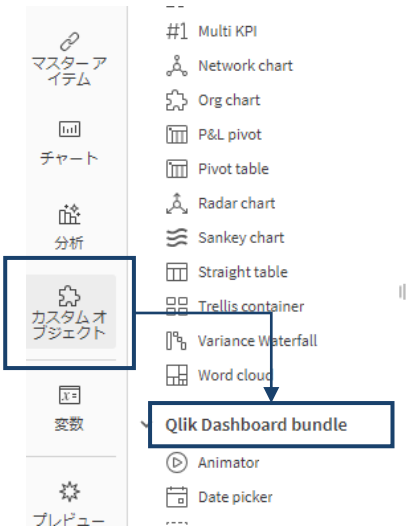
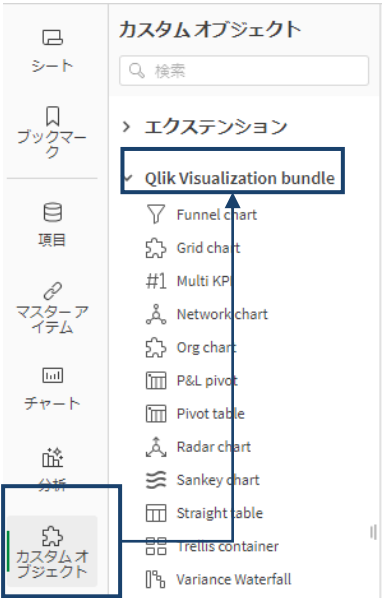
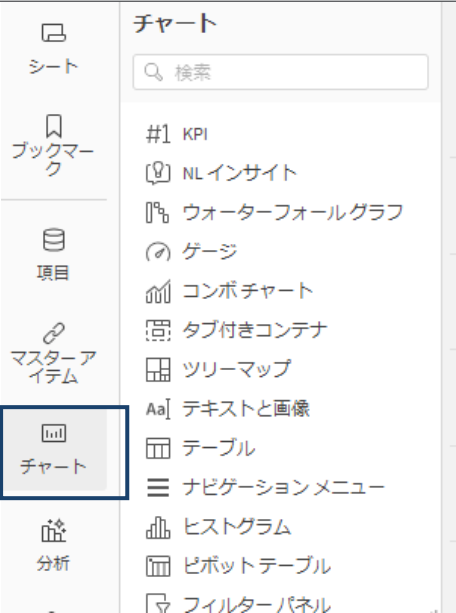


チャートの全体像を
理解する

Qlik Senseにおけるチャートの提供形態

Qlik Senseでは、大きく分けて3つのチャート提供形態があります。

提供形態	標準チャート	Qlikビジュアライゼーションバンドル	Qlikダッシュボードバンドル
説明	<ul style="list-style-type: none">標準付属のチャート群棒チャート、折れ線チャートなど	<ul style="list-style-type: none">標準付属のチャートを補完するチャート群ヒートマップや組織チャートなど	<ul style="list-style-type: none">細かな制御を行うための部品群変数入力やアニメータなど
配置	(アセットパネルの)[チャート]	[カスタムオブジェクト]>[Qlik Visualization Bundle]	[カスタムオブジェクト]>[Qlik Dashboard Bundle]

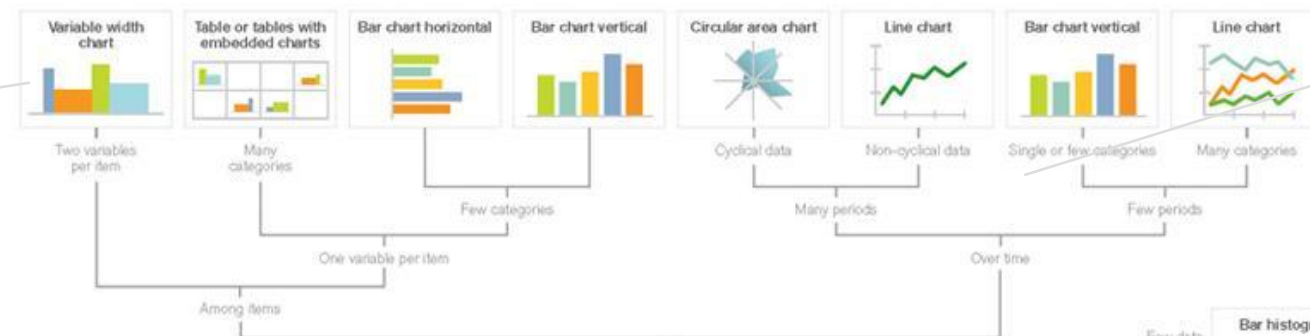


どんなときにどのチャートを選択するのか？

目的から逆引きでチャート選択

比較(定点)

- 棒チャート
- トレリス(Vizバンドル)



比較(時系列)

- 折れ線
- 棒チャート
- 2軸の折れ線

関係・相関

- 散布図
- グリッドチャート(Vizバンドル)



分布、分散、ばらつき

- ヒストグラム
- 散布図

構成(時系列)

- (100%)積上棒
- (100%)積上エリア

構成(定点)

- 円チャート
- ウォーターフォール
- 100%積上棒
- ツリーマップ
- メッコチャート

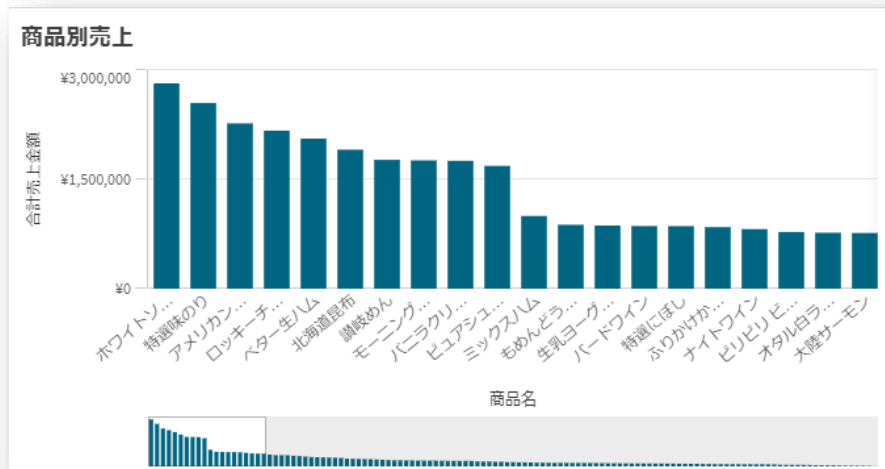
チャート全体の使用目的

チャート	比較	関係	構成	分布	パフォーマンス	データ	地域	備考
<u>棒チャート</u>	○							値を並べて比較
<u>折れ線グラフ</u>	○							時系列別で分析
<u>コンボ チャート</u>	○							値と割合を同時に見たい場合
<u>散布図</u>		○		○				値間の潜在的な関係を確認
<u>円グラフとドーナツ チャート</u>			○					値の割合おおよそを確認
<u>ウォーターフォールグラフ</u>			○					スタートからゴールまでの確認
<u>ツリーマップ</u>			○					概要を把握する際に使用
<u>ヒストグラム</u>				○				正規分布などで使用
<u>分布プロット</u>				○				数値の分布を確認
<u>ボックス プロット</u>				○				株価チャートなどで使用
<u>ブレット チャート</u>					○			目標値に対する進捗等で使用
<u>ゲージ</u>					○			KPIダッシュボードにて使用
<u>KPI</u>					○			KPIダッシュボードにて使用
<u>テキストと画像</u>					○			チャートの補足などを説明
<u>テーブル</u>						○		実数値を詳細に確認
<u>ピボット テーブル</u>						○		分類分けされている場合の詳細確認
<u>マップ チャート</u>							○	地域などの特性分析など

棒チャート

棒チャートは、軸の値ごとにメジャーの大小を比較するために用いられるチャートです。

作成例

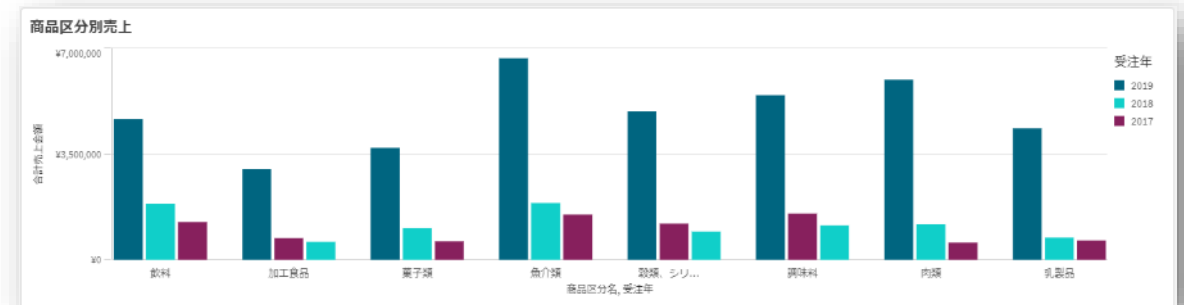


- チャートタイプ：棒チャート
- 軸：商品名
- メジャー：合計販売金額

応用例

以下のようなチャートも作成可能です。

- グループ棒チャート
- (100%)積み上げ棒チャート
- 累計・移動平均・移動合計チャート

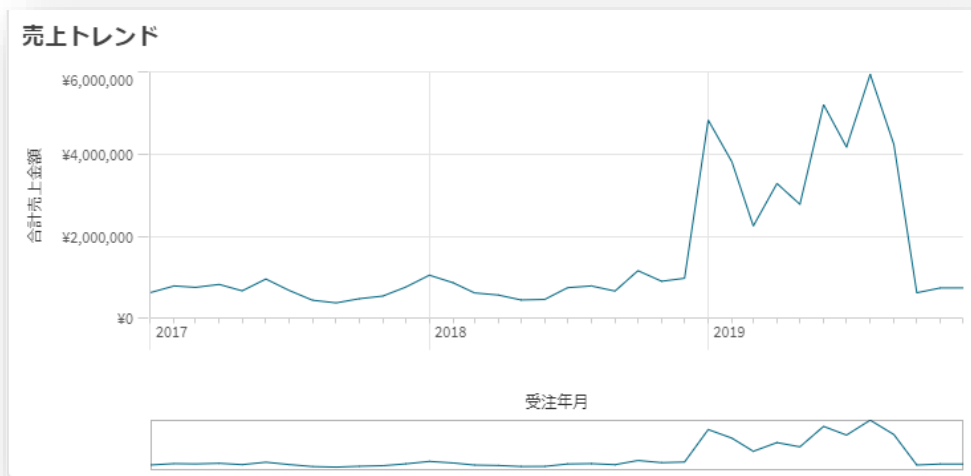


例：2軸比較に便利なグループ棒チャート

折れ線チャート

日付や時間を軸として、メジャーの推移を時系列で確認するチャートです。

作成例



- チャートタイプ：折れ線チャート
- 軸：受注年月
- メジャー：合計販売金額

応用例

以下のようなチャートも作成可能です。

- エリアチャート
- グループ折れ線チャート
- (100%)積み上げエリアチャート
- 累計・移動平均・移動合計・差分チャート

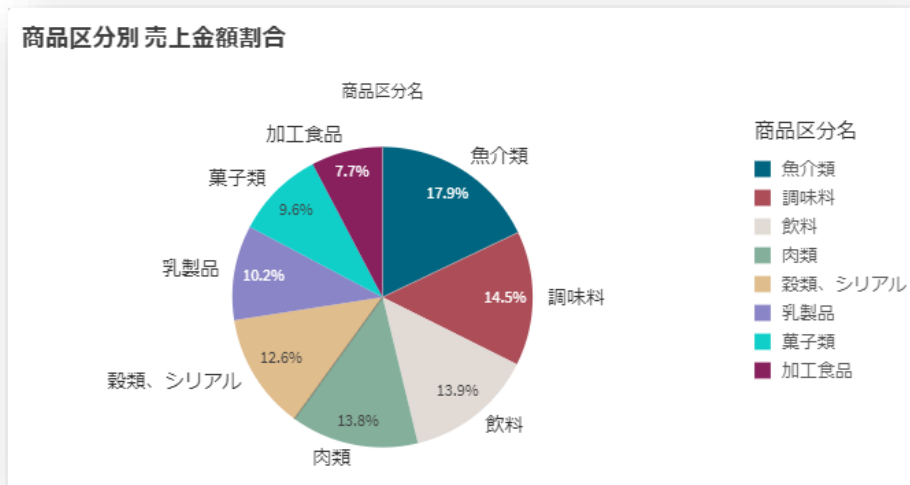


例：2軸の積み上げエリアチャート

円チャート

軸の値ごとにメジャーの構成比(割合)を表現するチャートです。

作成例

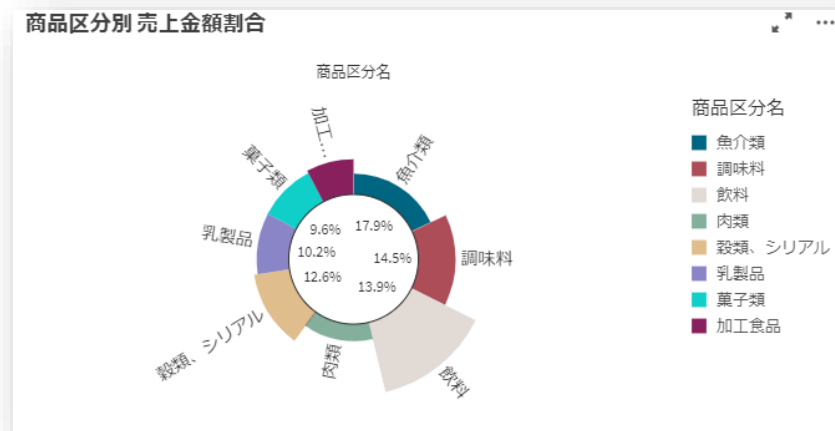


- チャートタイプ：円チャート
- 軸：商品区分名
- メジャー：合計販売金額

応用例

以下のようなチャートも作成可能です。

- ドーナツチャート
- ローズチャート

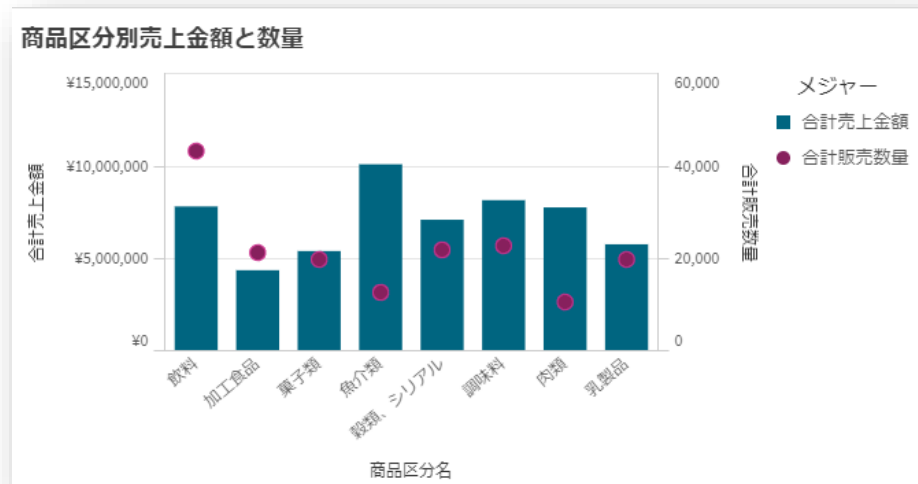


例：2つめのメジャーを半径の長さで表現するローズチャート

コンボチャート

棒、折れ線、マーカーを1つのチャート上に表示し、同じ軸で複数のメジャーを比較したいときに利用します。

作成例

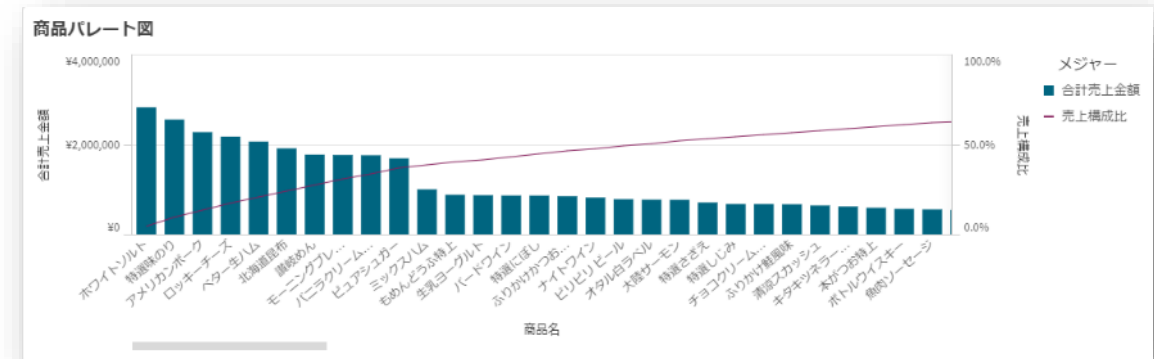


- チャートタイプ：コンボチャート
- 軸：商品区分名
- メジャー：
 - 合計販売金額(棒/主軸)
 - 合計売上数量(円マーカー/副軸)

応用例

以下のようなチャートも作成可能です。

- ABCチャート
- パレート図
- 差分チャート

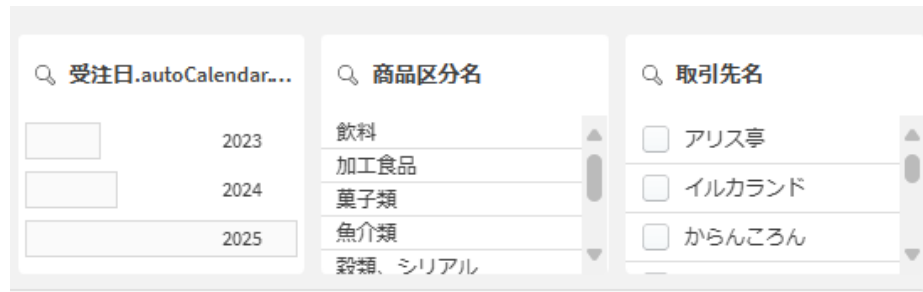


例：商品別の売上ランキングと構成比をパレート図で表現

フィルター パネル

チャートのデータを絞り、シート上のデータをコントロール出来ます。

作成例



プロパティ設定の補足

プロパティパネルで以下の設定を実施

- データ > 項目 > プレゼンテーション：
 - 見た目や表示方法などの設定
- スタイル > プレゼンテーション > スタイル指定：
 - 選択された値や除外値などの色の設定

応用例

- チャートタイプ：フィルター
- 項目：受注日の年、商品区分名、取引先名
- ※その他、プレゼンテーションにて表示形式を変更

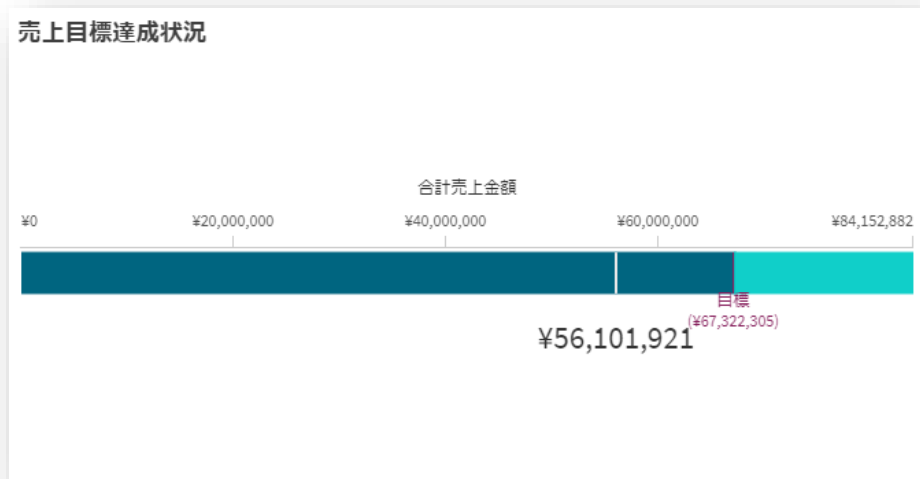
色を変更した例



ゲージチャート

目標達成状況などのモニタリングに利用します。

作成例



- チャートタイプ：ゲージチャート
- メジャー：合計販売金額
- ※その他、基準線や色のセグメントを設定

プロパティ設定の補足

プロパティパネルで以下の設定を実施

- 拡張機能 > 基準線：
 - 目標値などの基準線とラベルを設定
- スタイル > プレゼンテーション：
 - セグメントでバーの色分けを設定

応用例

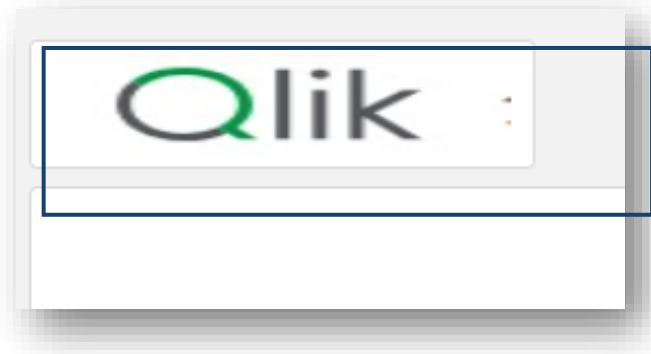
左のバーの他、半径表示も選択可能



テキストと画像

シートにテキストや画像、ハイパーリンク、メジャーなどを埋め込むことができます。

作成例



- チャートタイプ：テキストと画像
- スタイル>背景画像：Qlikロゴを使用

応用例

テキストと組み合わせて軸やメジャーの値を動的に表示することも可能です。

- 日付項目を使用して、データ中の最新年月を表示
- 商品名を使用して、選択中の商品名を表示
- 販売金額を使用して、選択中の合計販売金額を表示

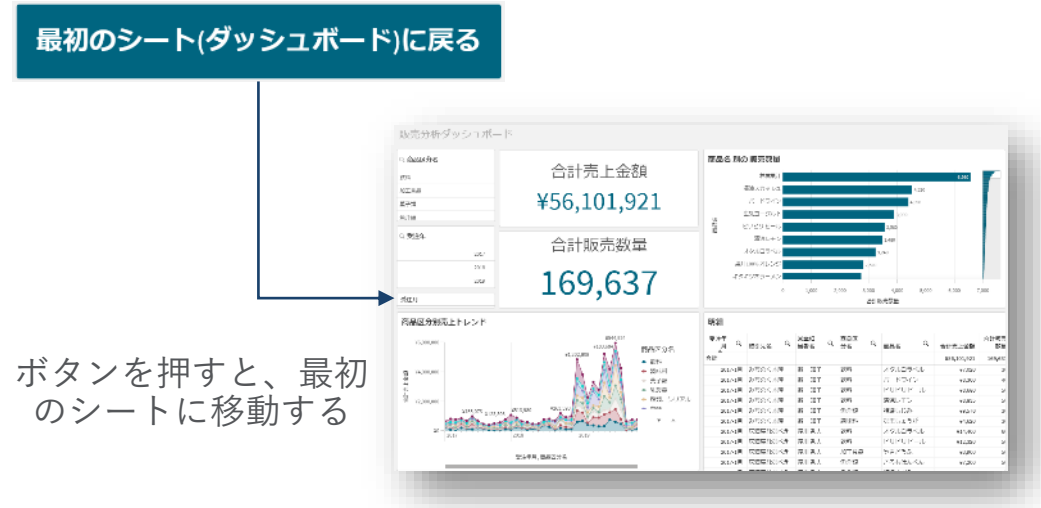
最新年月：2025年12月

例：データ中の最新年月を動的に表示。文字の大きさや色も指定可能

ボタン

シート間やストーリーへのナビゲーションの動きをボタンで制御できます。さらにデータ選択状態の変更やブックマークの適用、変数値の制御などアクションをボタンに設定することもできます。

作成例



応用例

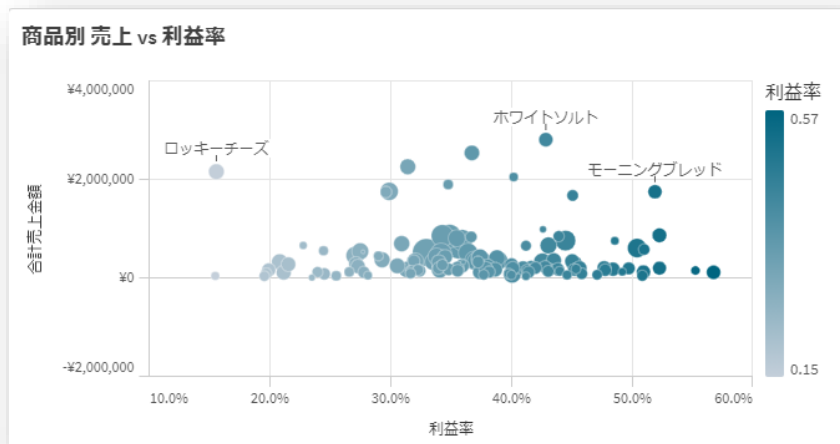
- 指定のブックマークの適用
- フィルター選択の解除
- 変数値の制御
- ウェブサイトやメールに移動

- チャートタイプ：ボタン
- アクションとナビゲーション>ナビゲーション：最初のシートの表示
- スタイル>基本設定>ラベル：「最初のシート(ダッシュボード)に戻る」

散布図

特定の軸における2つ(あるいは3つ)のメジャーの関係を理解するために用います。

作成例



応用例

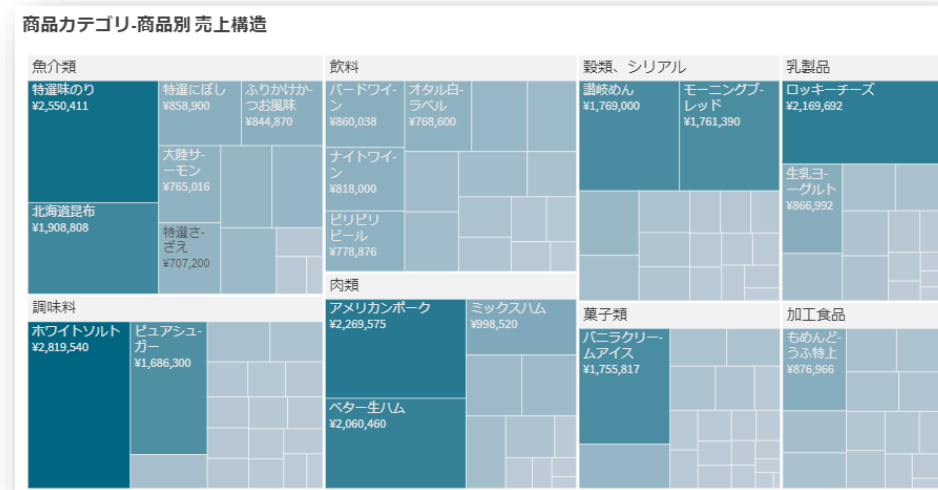
- バブルの色に別個の計算を当てることで、4つめのメジャーを表現することも可能

- チャートタイプ：散布図
- 軸：商品名
- メジャー：
 - X軸：利益率 (Sum(粗利)/Sum(販売金額))
 - Y軸：合計販売金額
 - サイズ：合計売上数量

ツリーマップ

階層構造のデータを長方形の組み合わせで表現し、長方形の面積でメジャーの大小を表現します。階層構造になっているカテゴリデータのメジャーの大小を直観的に比較します。

作成例

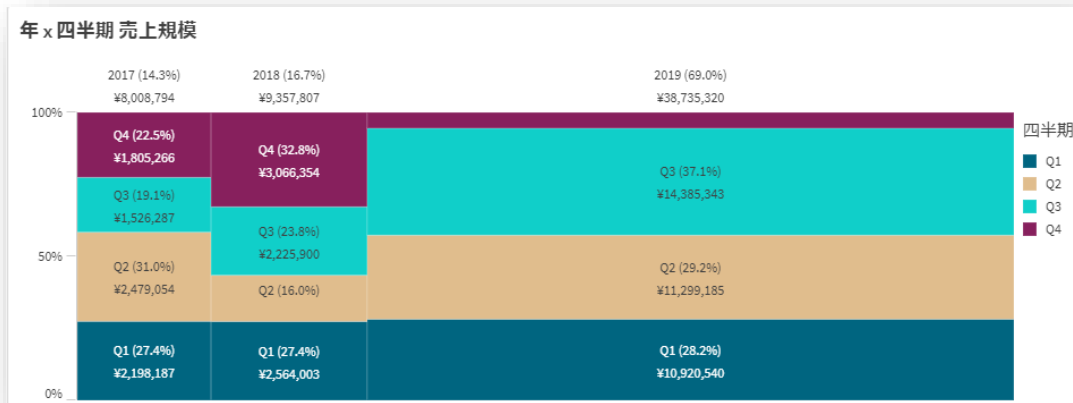


- チャートタイプ：散布図
- 軸：
 - 商品区分名
 - 商品名
- メジャー：合計販売金額

メッコチャート

2つの軸を同時に考慮しつつ、メジャーの割合・シェアを可視化します。マリメッコ、モザイクプロット、モンドリアンダイアグラムなどとも呼ばれます。

作成例



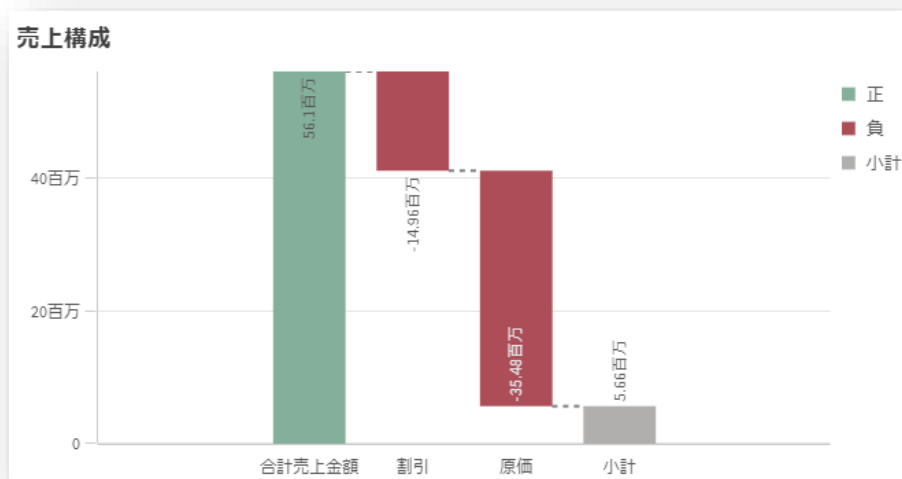
- 左の例のように、年×四半期を縦軸・横軸にとることで、年ごとの売上推移と四半期内訳の推移の両方を把握できます。

- チャートタイプ：メッコチャート
- 軸：
 - 受注日.Year (ラベル：年)
 - 受注日.Quater (ラベル：四半期)
- メジャー：合計販売金額

ウォーターフォールグラフ

売上の構成を売上・原価・割引など正負の値で分解して利益構造を把握したい場合などに利用されます。

作成例



- チャートタイプ：ウォーターフォールグラフ
- メジャー：
 - 合計販売金額
 - 割引(Sum(割引))
 - 原価(Sum(原価))

- 合計の値を示すメジャー(合計販売金額)とそれを構成するメジャー(割引や原価)を指定
- 各メジャーに加算・減算を指定
- 小計を自動計算可能

データ

メジャー

棒

合計販売金額 > ⋮

割引 > ⋮

原価 v ⋮

数式

Sum([原価]) fx

ラベル

原価 fx

メジャー演算

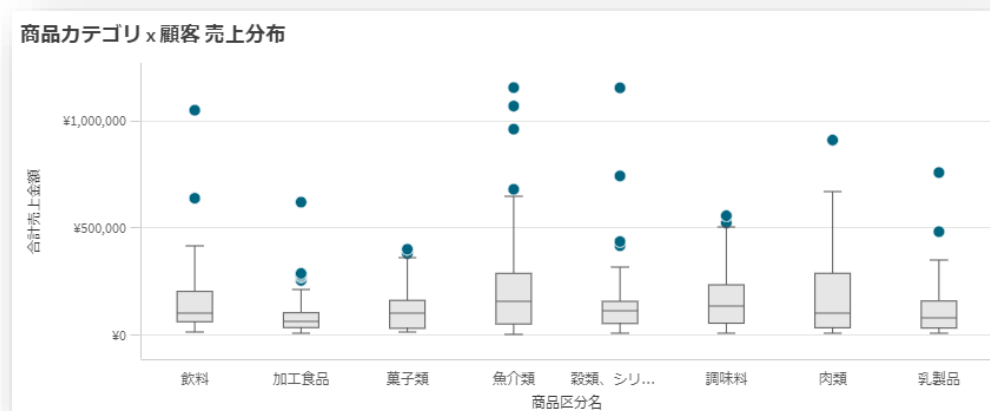
減算 ▼

☒ 小計

ボックスプロット

データの分布・ばらつきを把握するのに利用します。箱ひげ図とも呼ばれます。

作成例

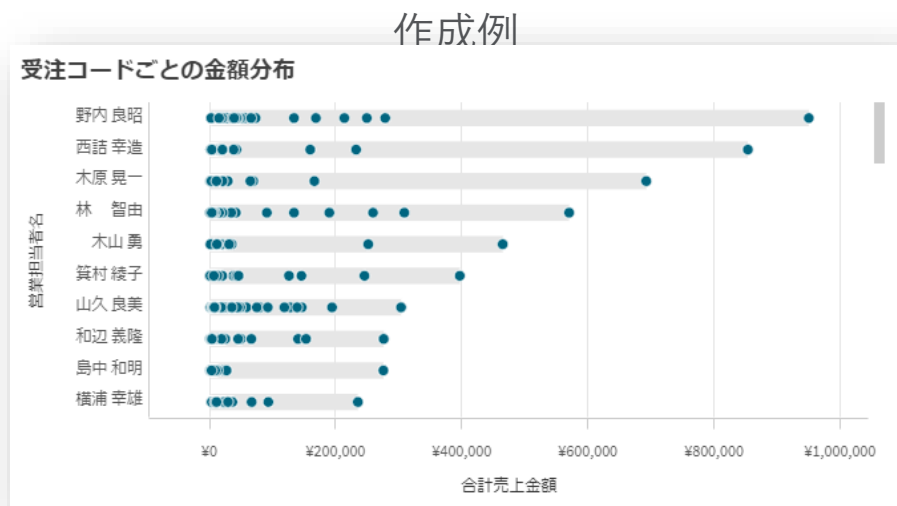


- 中央値や第1四分位、第3四分位などを直観的に把握
- 飛びぬけて数値の大きい(小さい)外れ値を把握
- ひげやボックスの定義をプリセットから選択可能
- ひげやボックスの定義を数式で細かく指定することも可能

- チャートタイプ：ボックスプロット
- 軸：
 - 取引先名 (ボックス)
 - 商品区分名 (X軸)
- メジャー：
 - 合計販売金額

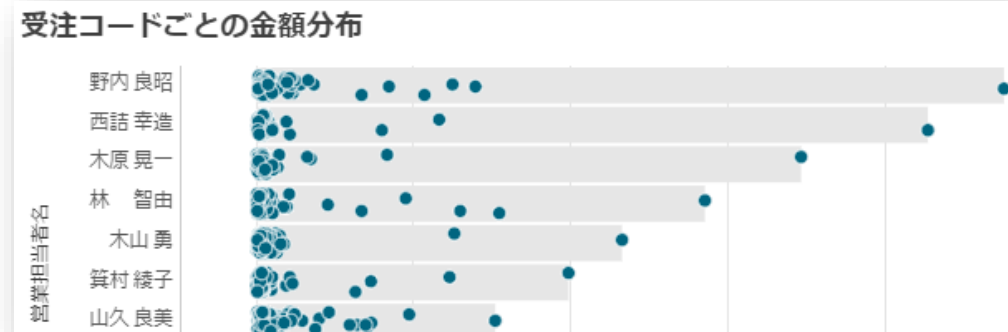
分布プロット

数値データの範囲や分布の比較に利用します。



- チャートタイプ：分布プロット
- 軸：
 - 受注コード (ポイント)
 - 営業担当者名 (Y軸)
- メジャー：
 - 合計販売金額

- 案件単価の分布を担当者ごとに確認
- 受注コードごとの金額の分布が直観的に表示されるため、誰がどのくらいの規模の案件を担当したかが分かる

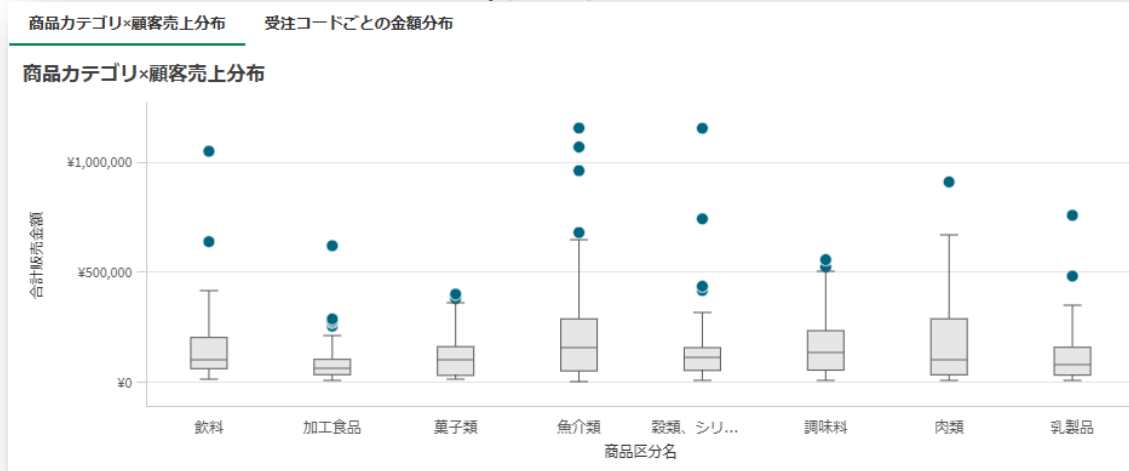


上記のようなジッターチャート表示も可能

タブ付きコンテナ

複数のチャートをタブ付きコンテナと呼ばれるひとつのスペースにまとめ、シートの省スペース化します。コンテナ内のチャートはタブで表示を切り替えます。

作成例



- タブにチャートのアイコンを表示することも可能

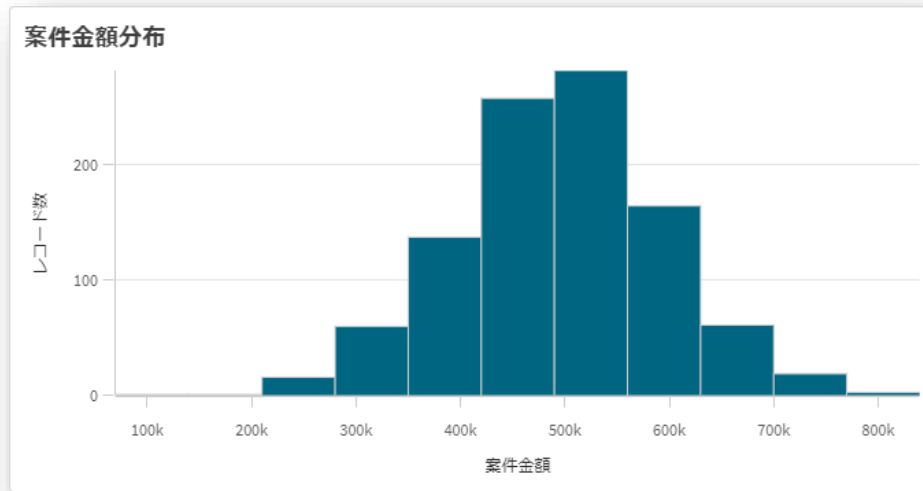
商品カテゴリ×顧客売上分布 受注コードごとの金額分布

- チャートタイプ：タブ付きコンテナ
- ボックスプロットと分布プロットをコンテナに追加

ヒストグラム

連続した間隔または一定の期間における数値データの分布を視覚化するのに適しています。データはビンに分割され、ヒストグラムのそれぞれの棒は各ビンにおいて集計された頻度を表します。

作成例



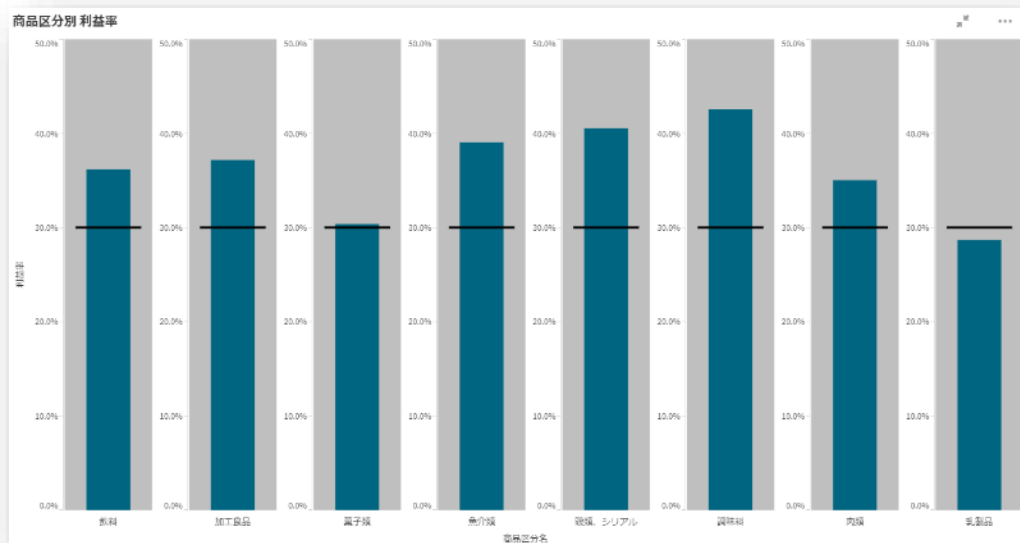
- 棒の数や棒の幅を指定することで、階級を制御・表示します。

- チャートタイプ：ヒストグラム
- 項目：案件金額

ブレットチャート

実績と目標値や達成率を直観的に把握できるチャートです。

作成例



- チャートタイプ：ブレットチャート
- 軸：商品区分名
- メジャー：利益率 (Sum(粗利)/Sum(販売金額))

- 商品区分ごとの利益率の目標を30%と置いて、達成状況を表示
- 目標となる基準値はメジャーの[対象]に入力

データ

メジャー

高さ

利益率

数式

Sum(粗利)/sum([販売金] fx

ラベル

利益率 fx

数値書式

数値

書式

シンプル

12.3%

対象

0.3 fx

セグメントの使用

オン

テーブル

軸やメジャーを列に追加してストレートな明細テーブルを作成するために使用します。

作成例

販売明細					
受注コード	受注年月	取引先名	商品名	合計売上金額	合計販売数量
合計				¥56,101,921	169,637
1045-265	2019-12月	コーヒーハウスフェンス	コーヒーマイルド	¥14,440	100
1045-267	2019-12月	コーヒーハウスフェンス	コーンフレークプレーン	¥7,260	50
1045-269	2019-12月	コーヒーハウスフェンス	チョコブロック	¥2,010	30
1045-266	2019-12月	コーヒーハウスフェンス	ローカロリー牛乳	¥4,428	30
1045-268	2019-12月	コーヒーハウスフェンス	清涼レモン	¥4,560	30
1045-270	2019-12月	コーヒーハウスフェンス	林檎果汁	¥2,580	30
1049-292	2019-12月	ボム・ド・テール	ストロベリーチョコブロック	¥7,440	80
1049-291	2019-12月	ボム・ド・テール	バタートースト	¥8,910	30
1049-293	2019-12月	ボム・ド・テール	フルーツヨーグルト	¥10,080	50
1049-290	2019-12月	ボム・ド・テール	ブルーベリーヨーグルト	¥5,670	50
1049-289	2019-12月	ボム・ド・テール	果汁100% グレープ	¥12,800	100
1049-294	2019-12月	ボム・ド・テール	林檎果汁	¥3,600	50
1051-305	2019-12月	甘味喫茶ダイ	ストロベリーチョコブロック	¥2,400	30
1051-303	2019-12月	甘味喫茶ダイ	ストロベリーヨーグルト	¥7,830	50

- チャートタイプ：テーブル

- 軸：

- 受注コード
- 受注年月
- 取引先名
- 商品名

- メジャー

- 合計販売金額
- 合計売上数量

ピボットテーブル

複数の軸と複数のメジャーを行と列に追加して、クロス集計表を作成できます。

作成例

取引先名	受注年		2017		2018		2019	
	商品区分名		合計売上金額	合計販売数量	合計売上金額	合計販売数量	合計売上金額	合計販売数量
○ アリス亭			¥107,056	680	¥22,097	210	¥454,319	2,110
○ イルカランド			¥106,419	580	¥116,770	645	¥1,239,160	1,585
○ コーヒーハウスフュエンス			¥332,561	420	¥305,707	350	¥547,897	1,870
○ コンビニエンス北風			¥166,520	1,120	¥314,755	530	¥667,804	2,449
○ ジャンボストアー			¥241,775	1,220	¥306,990	530	¥691,032	2,429
○ パーフェクストン			¥119,124	580	¥120,668	470	¥355,863	1,510
○ ヒロコボレーション			¥152,948	770	¥115,123	490	¥427,037	2,190
○ グレヤもんや			¥77,639	450	¥141,613	580	¥1,561,685	1,590
○ ボム・ド・アール			¥83,459	525	¥109,392	650	¥434,015	2,655
○ みちのく本舗			¥132,488	670	¥294,416	750	¥420,185	1,420
○ よるす商店			¥318,521	920	¥81,715	490	¥381,910	1,410
○ レストラン石坂			¥157,848	980	¥97,540	430	¥898,626	2,830
○ 両子ば			¥290,434	590	-	-	¥802,738	1,440
○ 扇谷まいる			¥44,628	190	¥52,832	183	¥563,560	1,464
○ 温泉レストラン			¥49,440	260	¥345,157	520	¥845,191	1,808
○ 湯村煙火くら			¥144,245	400	¥107,963	240	¥1,248,621	2,170
○ 紅豆ふししい			¥400,786	520	¥472,028	590	¥2,036,192	3,778
○ 日産成装タイ			¥41,575	290	¥236,532	668	¥651,672	1,598
○ 京浜たい初ましん			-	-	¥237,624	495	¥328,079	495
○ 宮沢株式会社			¥347,063	990	¥61,295	571	¥927,382	2,301
○ 星加坡安花バス			¥79,808	470	¥621,550	1,680	¥1,092,420	2,442
○ 月野株式会社			¥156,595	850	¥122,234	570	¥844,716	2,190
○ 健食弁当株式会社			¥144,870	600	¥19,137	650	¥1,808,495	2,440

- 複数階層軸の展開やインデントについては、スタイル>プレゼンテーションから設定
- フォントサイズはスタイル>プレゼンテーション>スタイル指定から設定
- ヘッダー色は、データ>(軸)>背景カラー表現/テキストカラー表現からカラー関数で指定可能

- チャートタイプ：ピボットテーブル
- 軸：
 - (行): 取引先名
 - (行): 商品区分名
 - (列): 受注年
- メジャー：
 - 合計販売金額
 - 合計売上数量

合計を表示

オフ

条件に応じて列を表示

fx

背景カラー表現

Blue()

fx

テキストカラー表現

White()

fx

2025	
合計販売金額	合計売上数量
¥454,319	2110
¥1,239,160	1985
¥547,897	1870

ヘッダーカラーを青：Blue()に指定

テキストカラーを白：white()に設定

マップチャート

Qlik Senseは地理分析機能が充実しています。背景地図やエリア、チャートといったレイヤー(層)を重ねて地図上にデータを表現します。

強力な視覚化機能

ポイントレイヤー

エリアレイヤー

ラインレイヤー

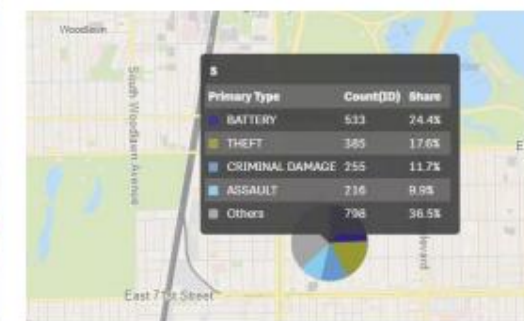
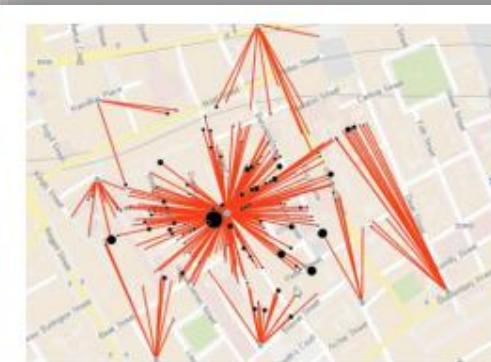
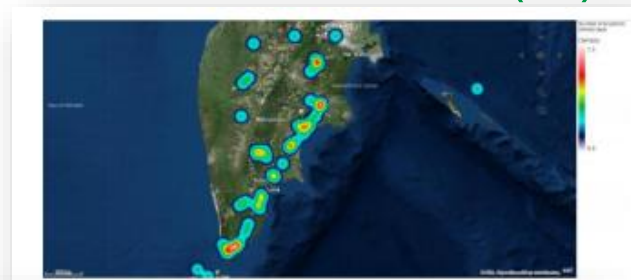
密度レイヤー (≡ヒートマップ)

チャートレイヤー

背景レイヤー

個々のレイヤーの表示・非表示切替

ドリルダウン軸のサポート

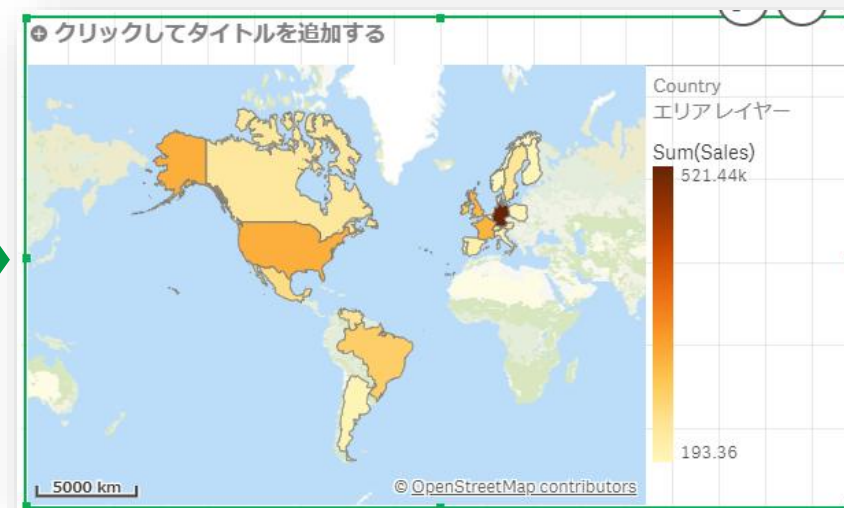
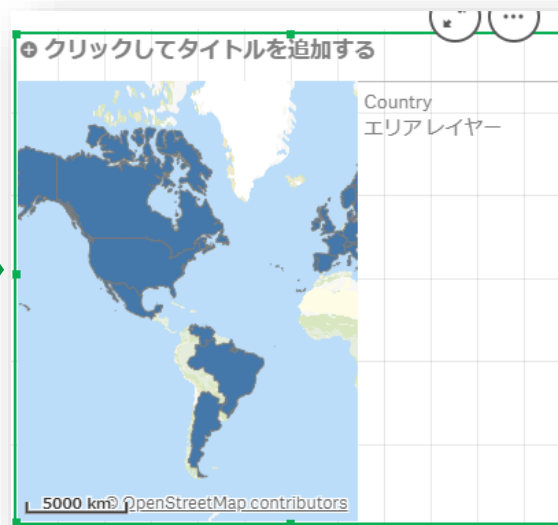


マップチャートの作成

レイヤーを重ね、レイヤーの色分け基準を設定するなど表示をカスタマイズしていきます。

エリアレイヤーの作成例

- マップチャートを作成
- 既定で標準ベースマップを表示
 - ベースマップは変更可能
- 地理データをエリアレイヤーとして追加
 - ここではCountry(国)
- エリアレイヤーの色基準としてメジャーを指定
 - ここではSum(Sales) (売上)
 - 売上の大小で色の濃淡を変化



※マップチャート.qvfに上記の例を掲載しています。

マップチャートのプロパティ

マップ全体と個別レイヤーに対してそれぞれ細やかなプロパティ設定が可能です。

マップチャートのプロパティ



- マップチャートを選択して表示
- ベースマップやズーム/パンの設定などマップ全体に係る設定

レイヤー > (個別のレイヤー名)



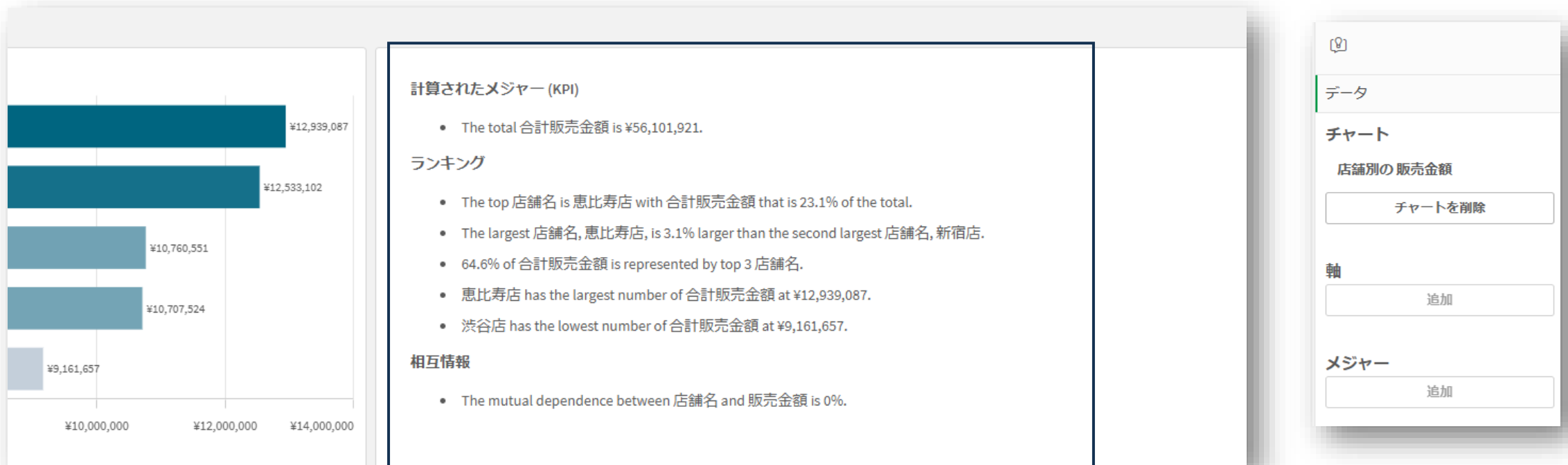
レイヤーのプロパティ



- 地理データや色、表示/非表示などレイヤー表示に係る設定

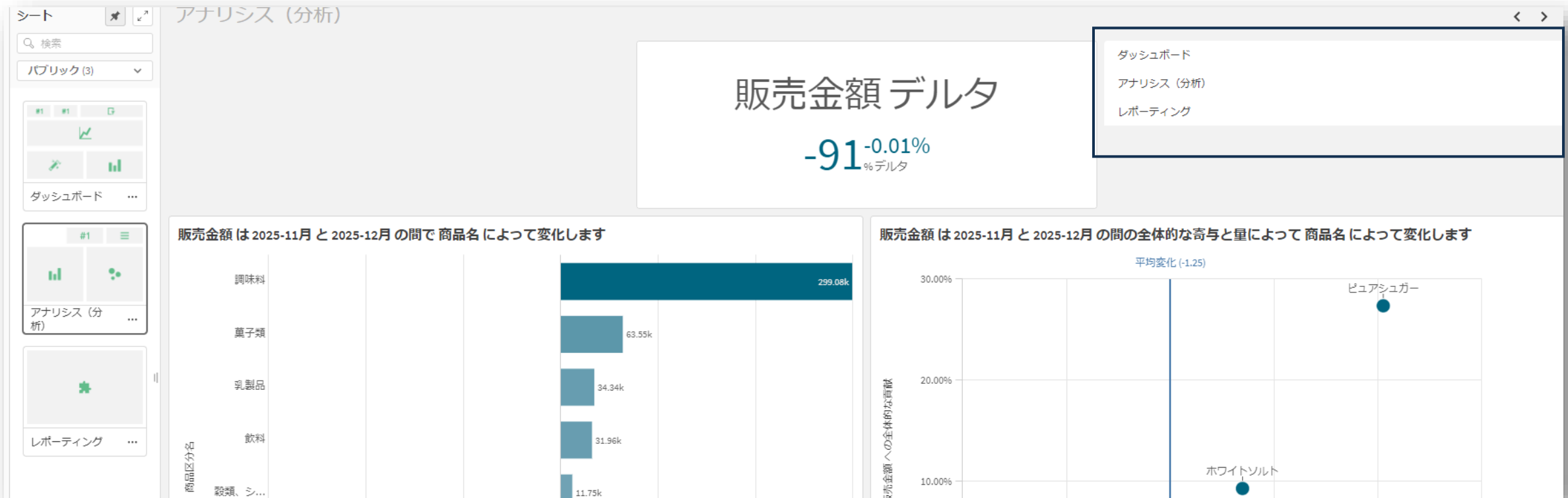
NLインサイト

シートに追加することで、アプリのデータ分析コンテンツは強化され深みが増えます。
インサイト アドバイザーは、利用可能なさまざまな分析タイプを使用して自然言語洞察を提供します。



ナビゲーションメニュー

ユーザーがアセット パネルを開かなくてもシート内を直接移動できるようにできます。
公開されているシートとグループを対象に、リストやドロワー メニューでシート移動ができます。



Qlik Visualization Bundle

Qlik Sense アプリのチャート能力を強化し、増加させるために使用できるチャートのセットです。

チャート	内容
Funnel	線形プロセスの連続するステージの可視化表現です
Grid	値を色で表現した比較データを示すチャート
Multi KPI	複数の軸値の KPI を表示して性能をすばやく理解および追跡するためのチャート
Network	コンピューター ネットワークのグラフィックチャートを表現したクラスター図を作成します
Org	ツリー構造を持つ組織図を作成します
P&L pivot	ピボット テーブルを作成して、例えば、利益と損失レポートなどのスタイル指定を行うことができます
Pivot table	標準ピボット テーブルでは使用不可の追加のスタイル オプションを使用して、ピボット テーブルを作成します

チャート	内容
Radar	半径方向の軸を使用して 2 次元チャートを作成して、1 つの軸または別の軸でのメジャーを示します
Sankey	定義されたシステム境界内の主要な転送またはフローが視覚的に強調されます
Straight table	アプリ開発者が、編集権限を持たないユーザーでもカスタマイズできるテーブルを作成できるようにするテーブル
Trellis container	マスター ビジュアライゼーションに基づいて、トレリス チャートを作成します
Variance waterfall	軸のさまざまな値に関して、2 つの軸間の分散を示します
Word cloud	サイズがメジャー値に基づいたワード クラウド グラフ

Qlik Dashboard Bundle

Qlik Sense アプリでのナビゲーションと選択の機能強化に使用できるコントロールのセットです。

チャート	内容
Animator	一定期間のビジュアライゼーションの変化をアニメーション化できます
Date range picker	単一の日付、または日付の範囲をカレンダーから選択できます
Layout container	コンテナにビジュアライゼーションを追加して配置します
Line	シートに垂直線と水平線を追加します
Text	標準テキストで表現できないテキストを作成および書式設定できます
Variable input control	変数の値を設定できます
Video player	シートにビデオを追加できます

チャートの全体像を理解する まとめ

- Qlik Senseには、3つのチャート提供形態がある
 - 標準チャート
 - Qlik Visualization Bundle
 - Qlik Dashboard Bundle
- いつ、どのようなケースで、どのチャートを利用するかを知る
 - チートシート参照
- 各チャートの使い方を確認する
- Qlik Senseには強力な地理分析機能(マップチャート)がある



より実践的な
テクニックを知る

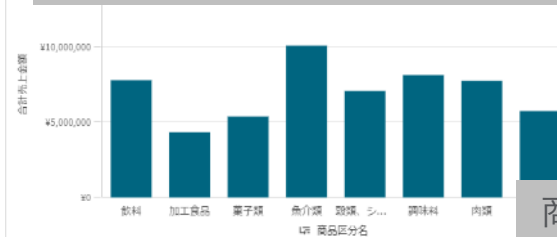
階層構造の軸をドリルダウンする

階層構造のデータをドリルダウン軸として登録し、チャートで使用します。

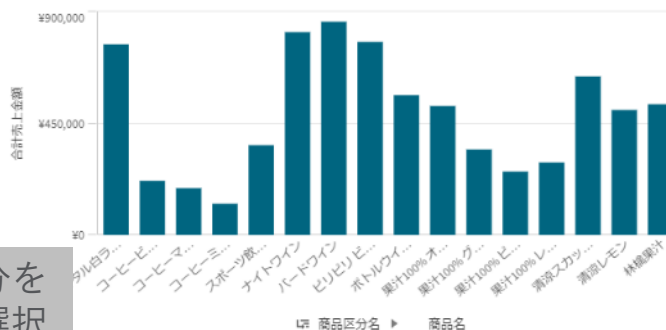
1. マスターアイテム軸で、ドリルダウン軸を作成する

2. 作成した軸を使用して通常手順でチャートを作成する

商品区分→商品名を軸とした
売上の棒チャート



商品区分を
ひとつ選択



軸の新規作成

☐ 単一 ☒ ドリルダウン ☐ サイクリック

テーブルでフィルタリング

すべてのテーブル

検索

WeeksAgo

WeekRelNo

出荷先都道府県

商品コード

商品区分コード

商品区分名

商品名

数量

説明

粗利

項目

ラベル

項目	ラベル
商品区分名	fx 商品区分名
商品名	fx 商品名

名前

商品(階層)

説明

商品区分名から商品名へのドリルダウン軸

軸の色

タグ

用語集の用語

作成

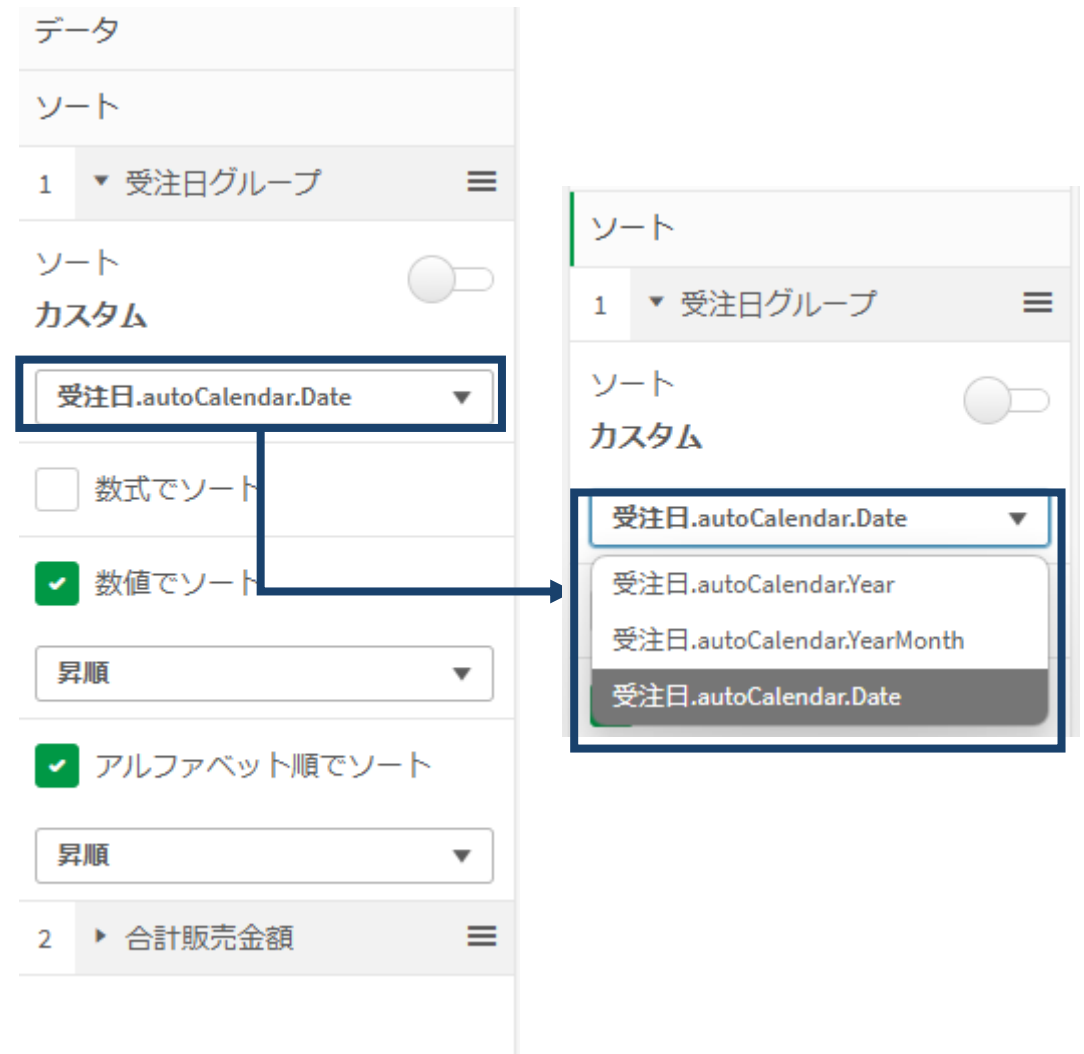
閉じる

階層構造となる項目
を左の項目一覧から
指定する
ラベル名の指定も可

階層構造の軸をドリルダウンする

ソートの設定

1. ドリルダウンのチャートを選択する
2. チャートプロパティにて、ソートを選択する
3. プルダウンからソート設定したい項目を選択する
4. 下部のソート（数値でソートなど）にてソート設定をする



複数の軸を循環する

複数の軸項目をサイクリックとして登録し、チャートで使用します。

- 1. マスターアイテム軸で、サイクリック軸を作成する
- 2. 作成した軸を使用して通常手順でチャートを作成する



軸の新規作成

単一 ☐ ドリルダウン ☐ サイクリック ☒

テーブルでフィルタリング

すべてのテーブル

検索

案件ID

案件金額

営業担当者名

割引

原価

社員コード

取引先コード

取引先名

受注コード

受注日

項目

ラベル

項目	ラベル
セグメント	セグメント
営業担当者名	営業担当者名
取引先名	取引先名

名前

サイクリック軸

説明

軸の色

タグ

用語集の用語

作成

循環軸となる項目を
左の項目一覧から指定する
ラベル名の指定も可

特殊な集計方法を指定する

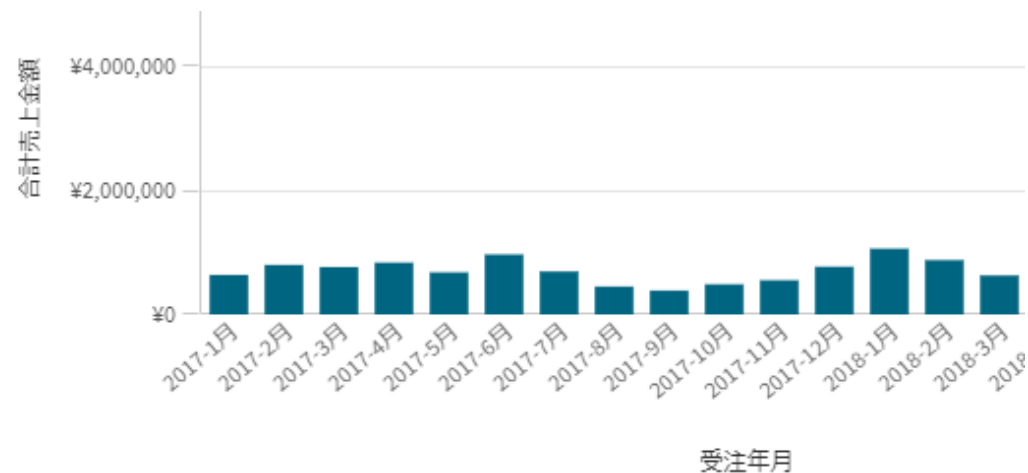
累計、移動平均、差分といった特殊な集計方法について、プロパティのデータ>メジャー内の修飾子から設定可能です。

棒チャート

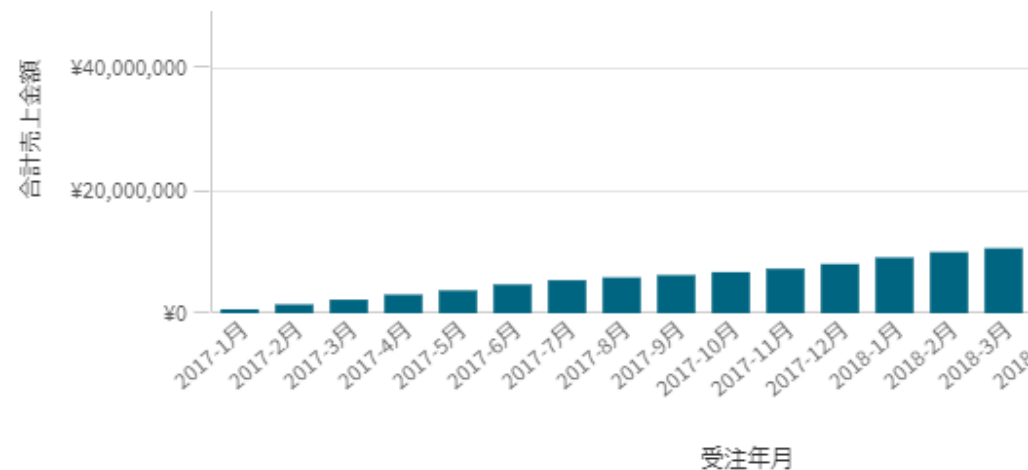
軸：受注年月

メジャー：合計売上金額

ソート：受注年月で昇順



- メジャーの[修飾子]を[累計]に指定
- 累計の[範囲]を[すべて]に変更



閲覧ユーザーに分析軸・メジャーを変更させる

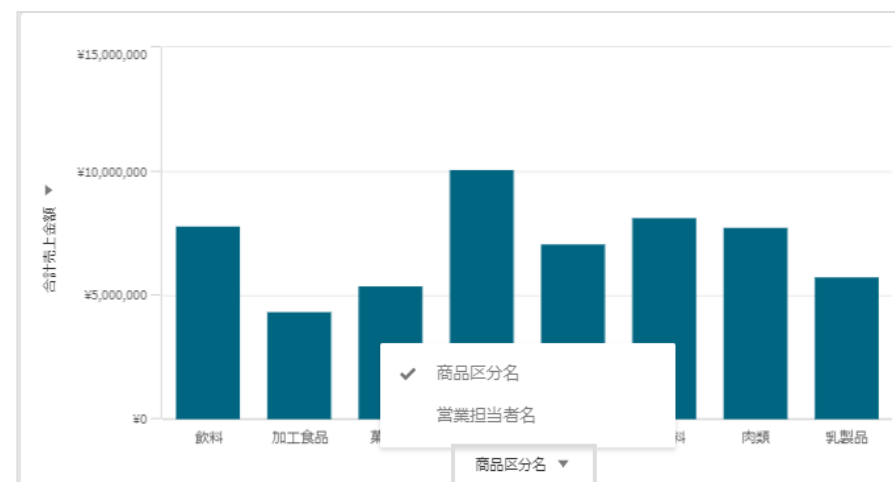
閲覧ユーザーがセルフサービスでチャートの軸やメジャーを切り替えることができます。これを実現するためには代替軸・代替メジャーをチャートに設定します。

プロパティのデータ>代替軸/メジャーを追加から分析画面で切り替えることができる軸やメジャーを登録します。

データ
軸 棒
商品区分名 > ⋮
追加
代替の軸
営業担当者名 > ⋮
代替軸/メジャーを追加
メジャー 棒の長さ
合計売上金額 > ⋮
追加
代替のメジャー
合計販売数量 > ⋮
代替軸/メジャーを追加



分析画面でチャートの軸やメジャーの名前をクリックすると代替軸・メジャーと切り替えることができます。



チャート間の共通色の適用

マスターアイテムで特定の値へ色を割り当てることで、アプリ内のチャート間で共通の軸やメジャーの色を適用することができます。視覚的に理解しやすい、統一感のあるアプリを作成できます。

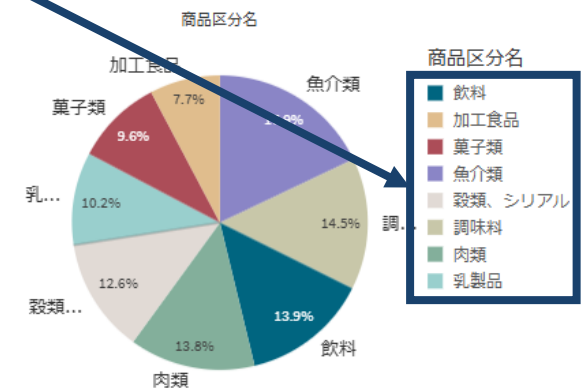
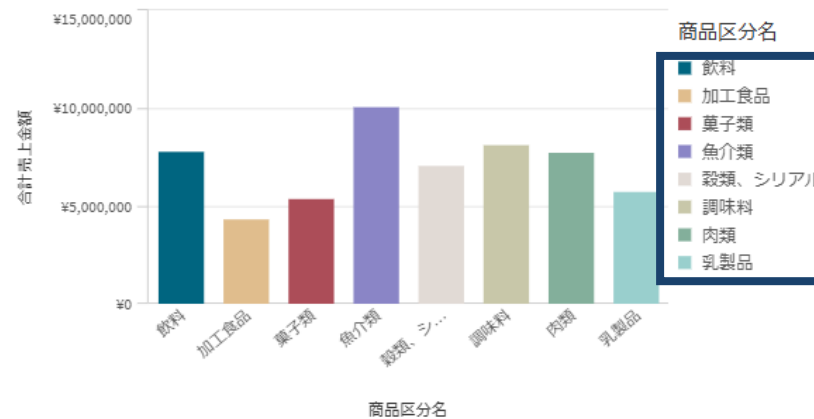
マスターアイテムの編集画面で[値の色]タブを開き、左側で軸の値ごとに色を割り当てます。



チャート間の共通色の適用

マスターアイテムで特定の値へ色を割り当てることで、アプリ内のチャート間で共通の軸やメジャーの色を適用することができます。視覚的に理解しやすい、統一感のあるアプリを作成できます。

チャートプロパティのスタイル>色と凡例で軸ごとの色を指定し、ライブラリカラーをオンにします。



マスターアイテムで設定した色=ライブラリカラーとなります。

比較分析

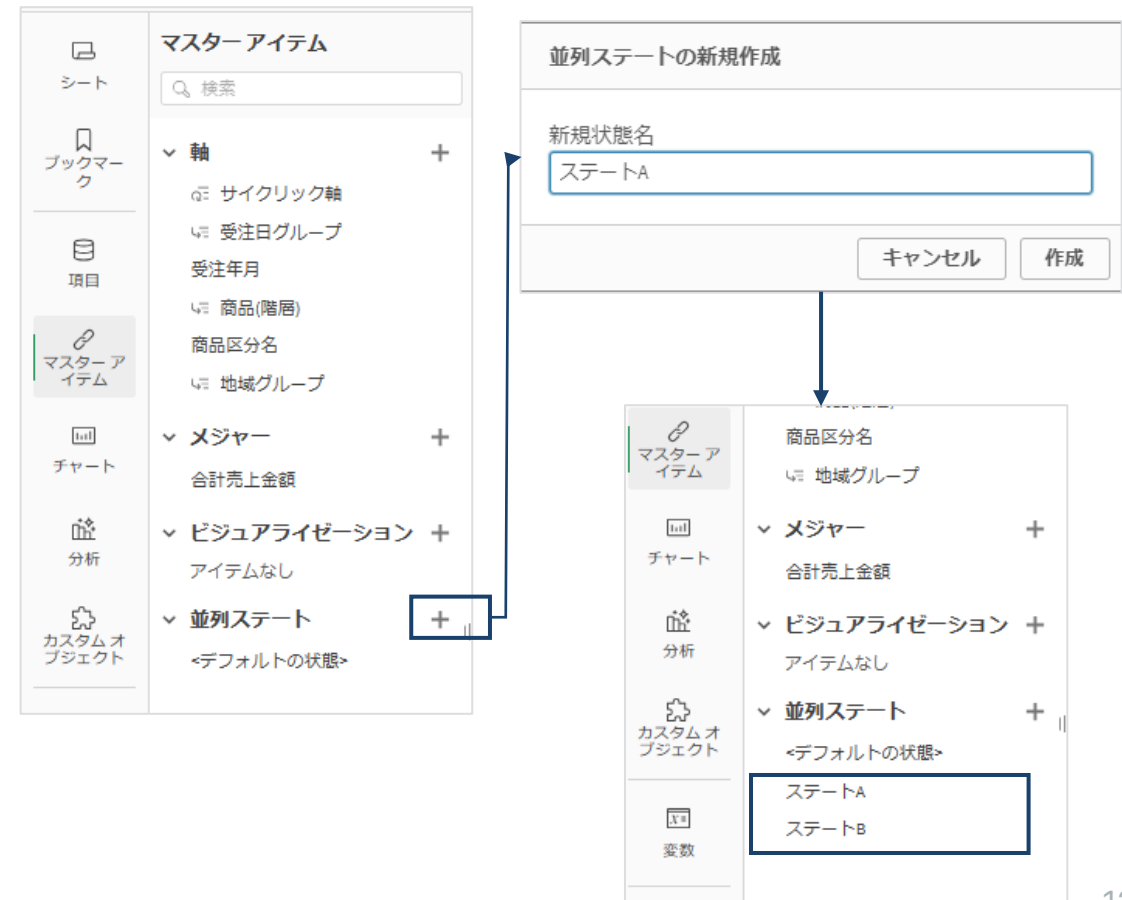
Qlik Senseでは連想インデクシングによりアプリ内のすべてのデータは関連性に基づいて連動します。一方で、2つ以上の異なるデータ選択状態のチャートなどを並べて比較分析したい場合には並列ステートを使用します。

並列ステートの作成

マスターアイテム>並列ステートから新規作成

ステート名（新規状態名）を指定し、作成

ここでは、ステートAとステートBの2つのステートを作成



比較分析

Qlik Senseでは連想インデクシングによりアプリ内のすべてのデータは関連性に基づいて連動します。一方で、2つ以上の異なるデータ選択状態のチャートなどを並べて比較分析したい場合には並列ステートを使用します。

ビジュアライゼーションに並列ステートを適用

作成したステートをドラッグ&ドロップでチャートやフィルターに適用します。

[状態を適用]を選択して、並列ステートを適用します。



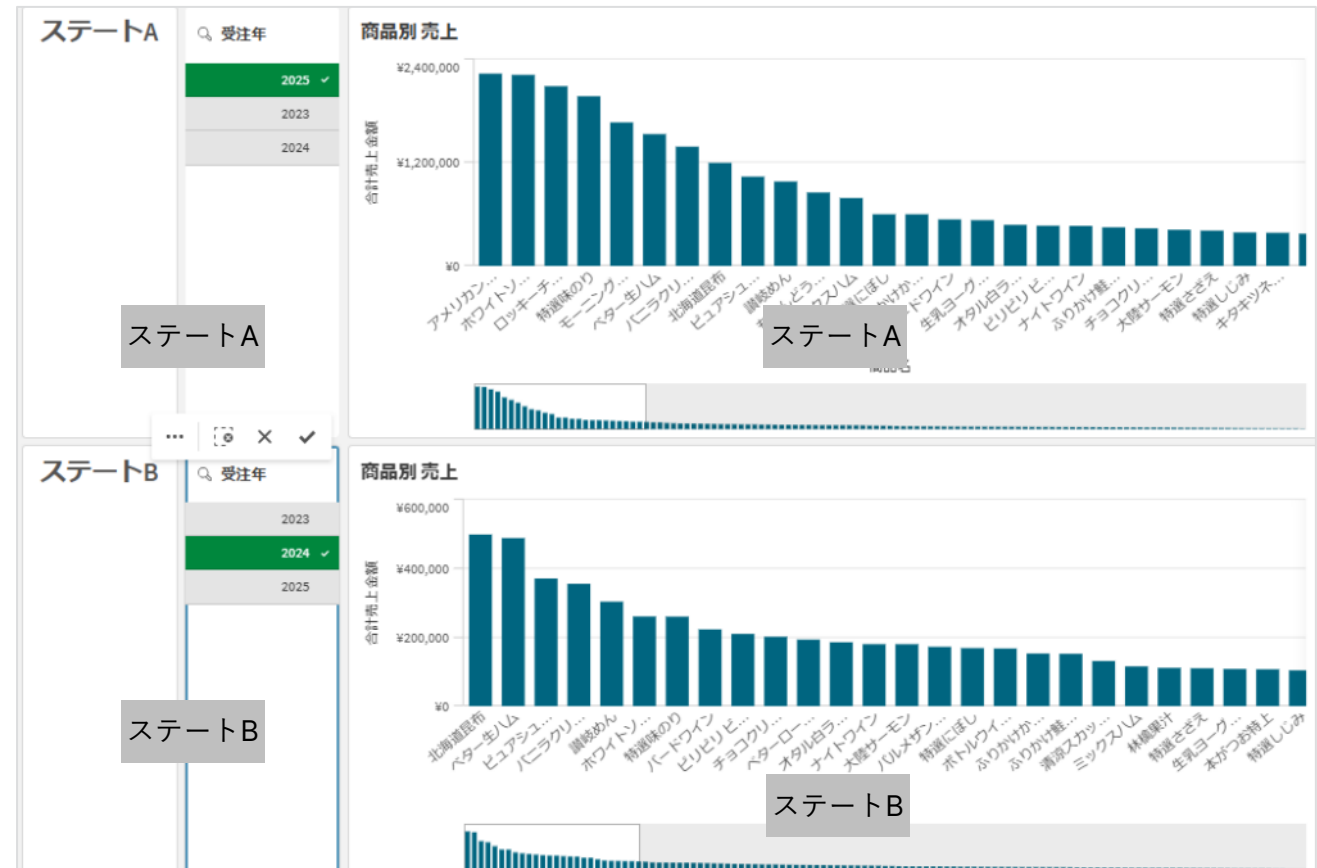
比較分析

Qlik Senseでは連想インデクシングによりアプリ内のすべてのデータは関連性に基づいて連動します。一方で、2つ以上の異なるデータ選択状態のチャートなどを並べて比較分析したい場合には並列ステートを使用します。

比較分析

上段のフィルターと棒チャートにステートA、下段にステートBを適用しています。

フィルター選択により、上段は2025年受注データを表示、下段は2024年受注データを表示しています。



既定のブックマーク

閲覧ユーザーがアプリ開発者が意図したストーリーで分析を行えるよう、アプリを開いたときに最初に表示するシートを指定することができます。

1. ブックマークを作成します。



2. 作成したブックマークを[既定のブックマーク]に設定

→ブックマーク横に[既定]と表示されます



次回以降アプリを開くとブックマークしたシートが最初に表示されます

既定のシートと動的フィルター

前項で既定のブックマークで最初を開くシートを設定しました。このとき、「自動的にデータ中の最新年でフィルターする」など特定のデータで動的にフィルターをかけることができます。

最新の受注年でフィルターをかける場合

受注年のフィルターの検索ボックスを開く。

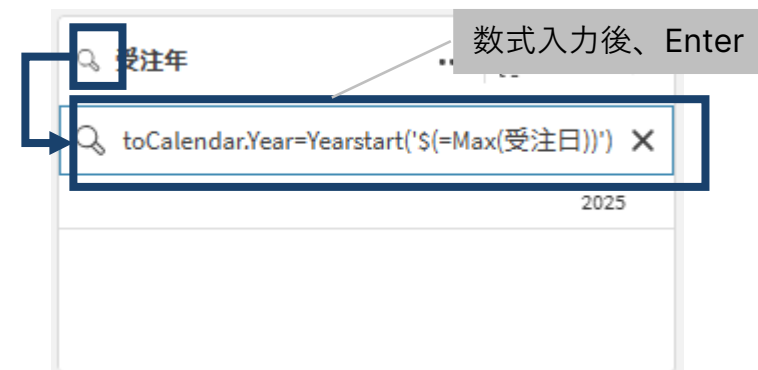
以下の数式を入力し、キーボードのEnterキーで確定。

`=受注日.autoCalendar.Year=Yearstart('$ (=Max(受注日))')`

数式の意味：最も大きい受注日の年と等しいデータを選択

Yearstart関数：日付を引数にとり、その年の一番最初の日付を返す

既定のブックマークを登録。



次回以降アプリを開くと設定した動的フィルターが有効な状態でブックマークしたシートが最初に表示されます

ビジュアライゼーションの挙動を変数で制御

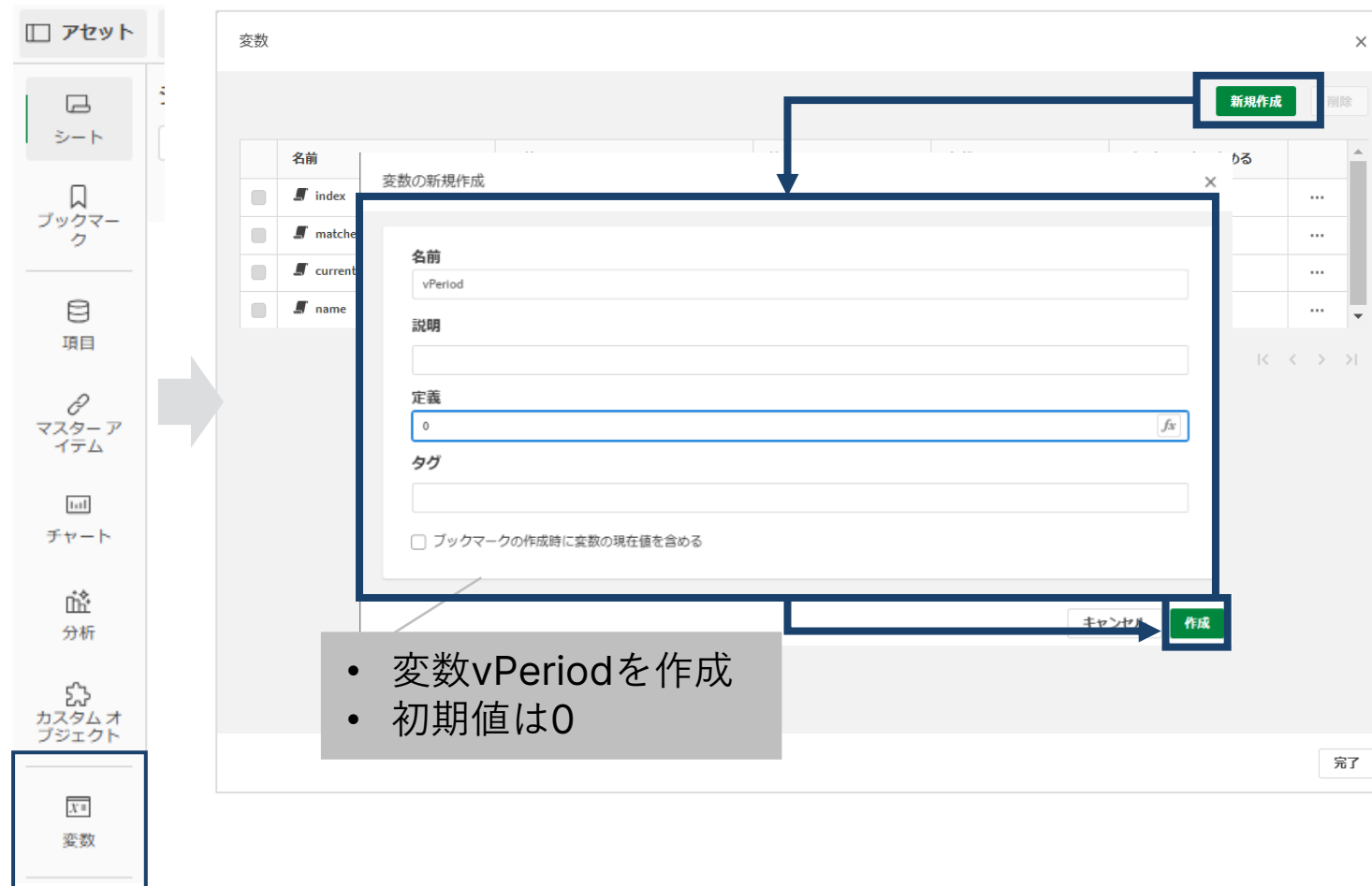
変数を定義してシート上のボタンやスライダーなどで変数値を制御することで、ビジュアライゼーションの制御が可能です。

変数の作成

シート編集画面でアセットパネルの変数アイコンを選択

新規作成から、名前や定義(初期値)などを設定して作成

※変数はロードスクリプトで定義することも可能です



変数の適用

作成した変数をボタンとチャートに組み込むことで「ボタンを押すと変数値が決まり、チャートの表示が切り替わる」といった制御を行えます。

ボタンの作成

チャート>ボタンをシートに配置

ボタンのアクションを[変数値の設定]に指定

変数とボタン押下時の値を指定

スタイル>基本設定からラベルに「当月」と入力



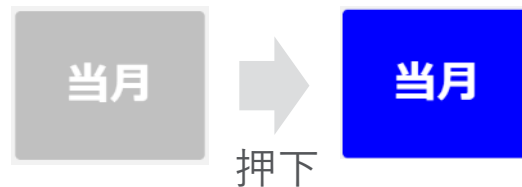
- 変数にvPeriodを指定
- 値に「=Date(Monthstart(Max(受注日)), 'YYYY-M月')」を指定
 - 最も最近の受注日の年月

変数の適用

作成した変数をボタンとチャートに組み込むことで「ボタンを押すと変数値が決まり、チャートの表示が切り替わる」といった制御を行います。

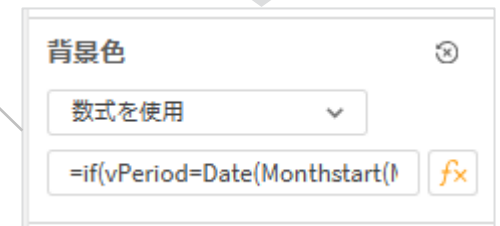
ボタンのスタイリング

ボタンの押下を視覚的に表現するため、押下時にボタンの色が変わるようにIF文と変数を使用して背景色を設定



ボタンのプロパティ：スタイル>プレゼンテーション>スタイル指定>背景色

- 背景色：数式を使用
- 数式：押下時にライトブルー、非押下時にライトグレー
`=if(vPeriod=Date(Monthstart(Max(受注日)),'YYYY-M月'),LightBlue(),LightGray())`



変数の適用

作成した変数をボタンとチャートに組み込むことで「ボタンを押すと変数値が決まり、チャートの表示が切り替わる」といった制御を行います。

チャートの作成

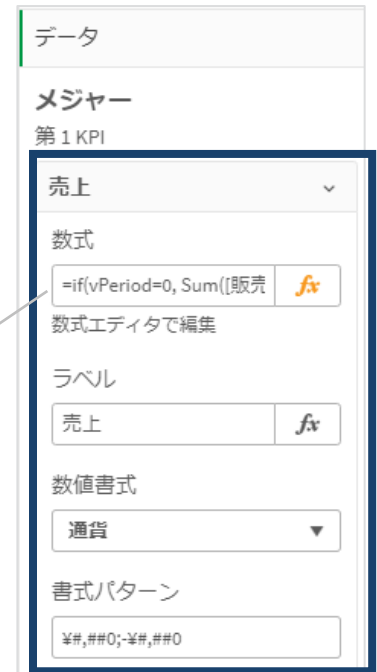
KPIを作成

メジャーに下の数式を指定。

売上”Sum(販売金額)”をベースに、IF文とSET数式、変数で集計を制御します。

ラベルに「売上」と入力

数値書式を通貨に指定



データ

メジャー

第1 KPI

売上

数式

=if(vPeriod=0, Sum([販売]), Sum({\$<[受注日.autoCalendar.YearMonth]={\'\$(vPeriod)\'}>}[販売金額]))

数式エディタで編集

ラベル

売上

数値書式

通貨

書式パターン

¥#,##0;-¥#,##0

- メジャーに以下を指定
=if(vPeriod=0, Sum([販売金額]), Sum({\$<[受注日.autoCalendar.YearMonth]={\'\$(vPeriod)\'}>}[販売金額]))
- vPeriodが0のとき全体の売上を集計。それ以外の時vPeriodで指定される年月の売上を集計

変数制御の挙動確認

変数制御を行うボタンを押下し、変数を組み込んだKPIメジャーの挙動を確認します。

作成した当月ボタンを押下するとvPeriodが0→2025年12月(最近の年月)となる

KPIのメジャーがSum({<受注日.autoCalendar.YearMonth={‘2025年-12月’}>} 販売金額)と評価される →2025年12月の売上金額が集計される



※サンプルアプリには「昨日」「過去3か月間」「全期間」の例および、
Dashboard bundleのVariable inputを使用して同等のボタンを作成した例も掲載しています。

アプリのタイトル・サムネイル・説明の設定

アプリのタイトルや説明を適切に設定すると、ユーザーの理解を助けることができます。

画面上段のナビゲーションバーのアプリ名の右の[...]をクリックし、
詳細を表示を選択、さらに詳細の右の[...]をクリックし、詳細を編集をクリックします。

画面上段のナビゲーションバーのアプリ名の右の[...]をクリックし、
詳細を表示を選択、さらに詳細の右の[...]をクリックし、詳細を編集をクリックします。

タイトル・サムネイル・説明を設定

シートのスタイリング

アプリ全体のシートのスタイリングを行うことで、よりわかりやすい魅力的なデザインのアプリにすることができます。

ロゴ画像を変更できます。

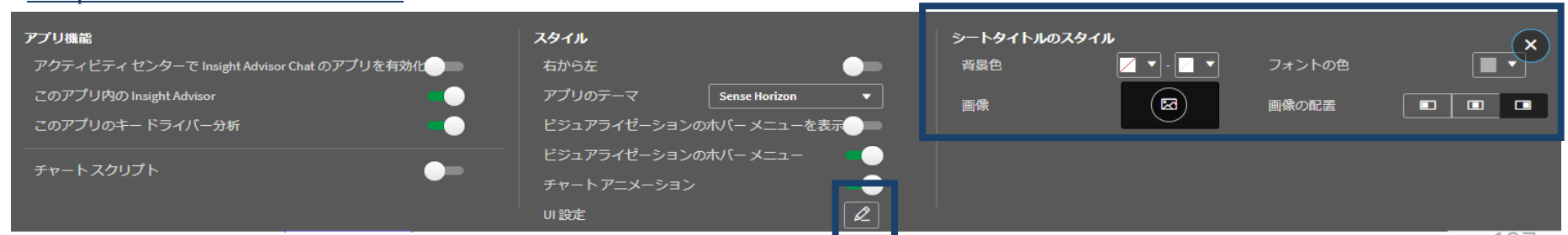


シートヘッダーを非表示にしたり、色や画像を設定することができます。

ツールバーの表示をカスタマイズしたり、非表示にしたりできます。

ナビゲーションバーのアプリ名の右の[...]をクリックし、設定をクリックして設定します。

[Help: スタイリングシート](#)



シートプロパティ

シートサイズの変更やグリッド間隔の変更といった、シート全体に関わる設定を行うシートプロパティについて解説します。

シートプロパティの開き方：

編集モードでシートの空白(チャートが配置されていないスペース)をクリック。(または、キーボードのEscキーを押す。)

シートの空白を選択
→右側にシートプロパティが開く



シートプロパティ

シートプロパティで設定できる代表的な内容

シートプロパティ

シートタイトルの変更

シートの説明の追加

シートの表示条件

グリッド間隔の変更

マルチデバイスにおけるディスプレイの設定

シートの拡張（縦長レイアウト）

アクション: シートを開いたときに実行されるアクション

特定ブックマークの自動適用

特定の値の選択/選択のクリア

変数値の設定

シートプロパティ

タイトル

ダッシュボード

タイトル式

fx

条件の表示

fx

説明

KPIである販売金額と粗利
を確認するダッシュボード

fx

サムネイル

スタイル指定

グリッドの間隔

広い

シートサイズ

横向き

アクション

クリア

ラベル

クリア

fx

アクション

選択をすべてクリアする

☐ ロックされた選択の上...

削除

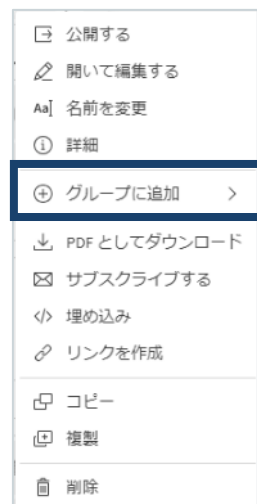
アクションの追加

シートのグループ化

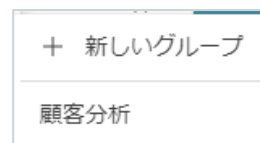
シートを整理してグループ化すると必要なシートを検索しやすくなります。



自分のものを
右クリック



グループを作成、
またはグループに
追加が可能



グループ内のシート順序入れ替えは
ドラッグ&ドロップ



より実践的なテクニックについて知る まとめ

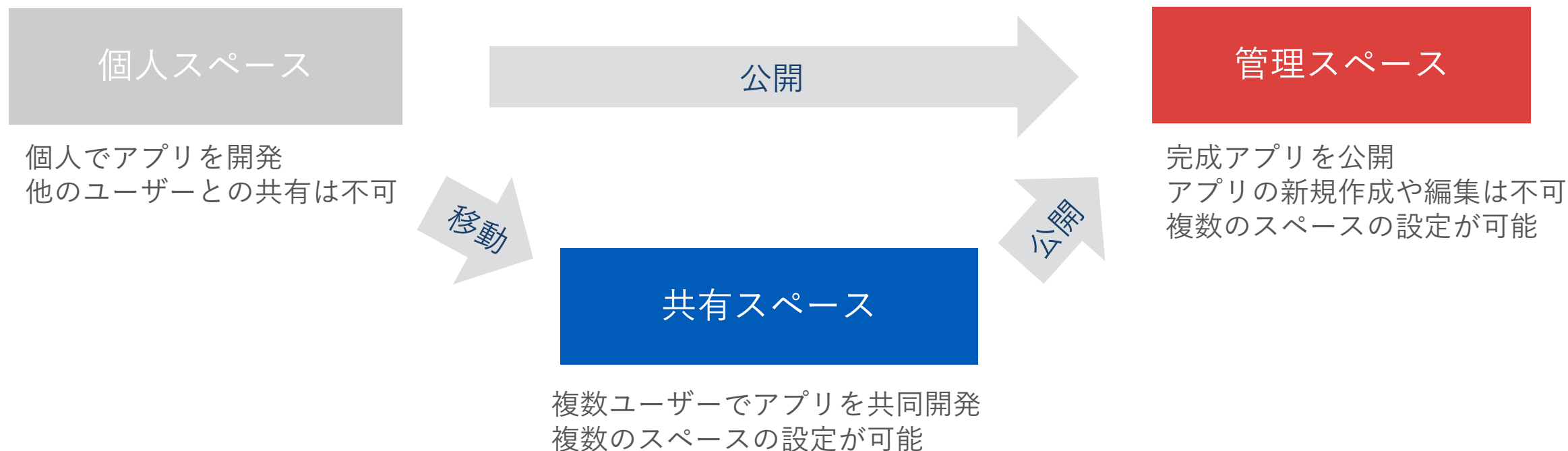
- ドリルダウン：マスターアイテムの軸にドリルダウン軸を作成
- 累計・移動平均・移動合計・差分計算：プロパティのメジャー修飾子から設定
- 代替軸・代替メジャーを設定し、閲覧ユーザーがセルフサービスで軸やメジャーの変更が可能に
- 軸やメジャーに対してアプリ内共通の配色をマスターアイテムから設定する
- シートサイズ変更、シート拡張はシートプロパティから
- 比較分析には並列ステートをマスターアイテムから設定
- 既定のブックマークと動的フィルターで分析開始のガイド
- 変数制御とボタンでビジュアライゼーションの挙動を制御する
- アプリやシートのスタイリング、シートのグルーピングも可能



アプリの共有と公開

アプリとスペース

アプリはスペースとよぶ単位で管理されます。個人スペースの他に共有スペースで共同開発も行うことができます。完成したアプリは管理スペースに公開して分析者が参照します。

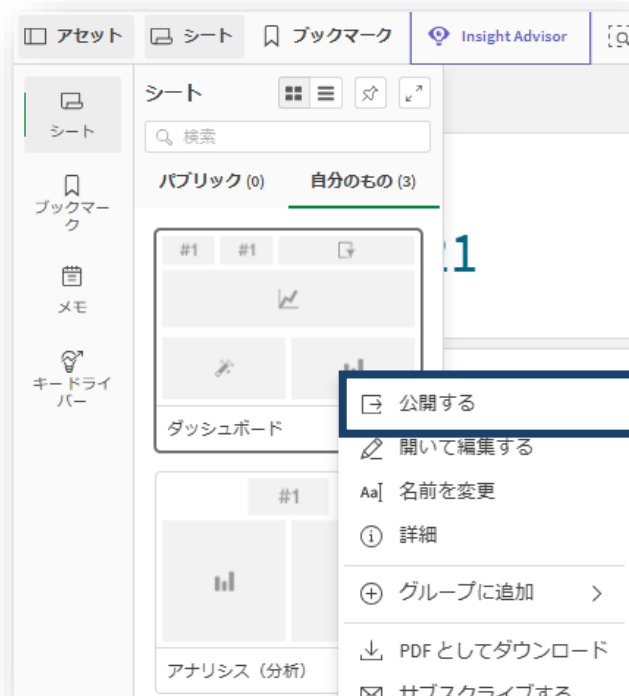


共有スペースと管理スペースはチームや用途に応じて複数設定し、ユーザーの各スペースへのアクセス権をコントロールすることができます。

共有・公開手順

アプリの共有・公開には、まずシートを公開する必要があります。非公開シートはアプリ共有・公開後も他のユーザーはみることができません。

アセットパネルのシートから各シートを右クリックして公開するを選択



ハブ画面からアプリを右クリックして移動、または公開を選択



スペースを指定

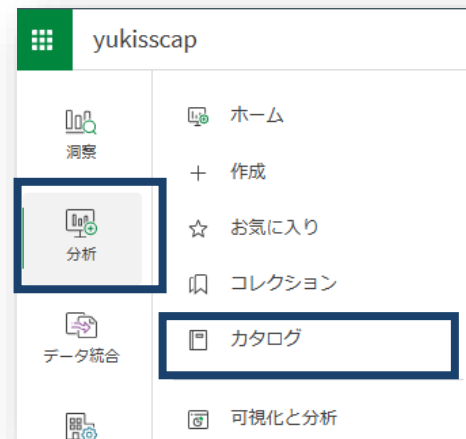
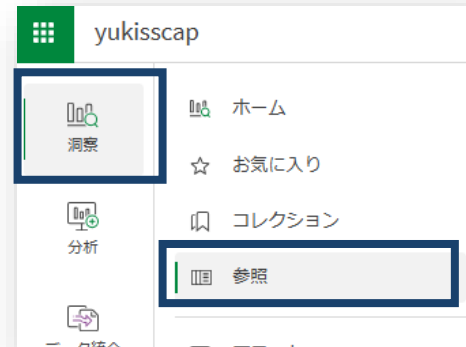


スペースの参照

スペースの参照は下記のいずれかから行うことができます。

- 洞察メニューの参照
- 分析メニューのカタログ

スペースを開くと、そのスペースに格納されているアプリなどのコンテンツを参照することができます。



アプリの共有と公開まとめ

- アプリはスペースとよぶ単位で管理される
- スペースには個人でアプリ開発を行う個人スペース、共同開発を行う共有スペース、完成アプリを公開する管理スペースがある
- アプリはシートを公開してから、共有スペースに移動、または管理スペースに公開する
- スペースの参照は、洞察メニューの参照、または分析メニューのカタログから行う



1 日目のまとめ

1日目 まとめ

1日目で学習した内容

Qlik Senseの概要

初めてのアプリ作成

Qlik Senseで利用できるチャート

アプリデザイン

ドリルダウンなどの便利な機能

複雑な関数や計算式を意識することなくシンプルな分析アプリを作成できるようになりました。
関数やSET分析を学習することで、複雑な要件にも対応できるアプリ開発者を目指します。



Thank you